2.4GHz Telemetric AFHSS ADAPTIVE FREQUENCY HOPPING SPREAD SPECTRUM

Evolutionary Genius

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM

AURORA 9X

日本語取扱説明書 ver 1.1

SECURE LINK TECHNOLOGY

Fly any SLT protocol Tx-Ready models with the Aurora 9X.
No additional modules or equipment required, just change the protocol in the program and you're ready to fly.
For more information on Tx-Ready Models visit Tx-Ready.com

AURORA 9X Instruction Manual

HITEC

お問い合せ・修理品送付先

〒133-0057 東京都江戸川区西小岩1-30-10 1F
株式会社 ハイテックマルチプレックスジャパン

カスタマーサポート: **050-5519-4989**

受付時間:月曜日～金曜日(祝祭日・夏期休暇・年末年始を除く)
10:30～12:30、13:30～16:30

修理・点検に関するお問い合わせはホームページ上のお問い合わせフォームからお願い致します。
http://hitecrcd.co.jp /mailform/

2.4GHz Band for use in :
AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, GB, GR, HU, IE, IT, LT, LU, LV, MT, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, FR

Hitec RCD Inc.
R/C Controller
Model No : AURORA9X

This device complies with part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

発売元:株式会社 ハイテックマルチプレックスジャパン
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩1-30-10 1F
www.hitecrcd.co.jp

Made in the Philippines

Ver.1.1 2013/10/31

Section One

Introduction

この度はAURORA 9Xをご購入していただき誠にありがとうございます。

本製品は幅広いRCモデルに対応できるよう設計され、テレメトリーシステムはそのままに新たに7msフレームのデュアルプロセッサーを内蔵し、素早い動作と4096 STEPの分解能力により高い操作性を実現します。

Hitec双方向AFHSS(Advanced Frequency Hopping Spread Spectrum)は非常に信頼性のある2.4GHz送受信技術です。
幅広いRCモデルに対応するとともに新たに高速レスポンスが特徴のマキシマシリーズ受信機とNE、SLTプロトコルが追加されより素早い反応と弊社NE、SLT対応モデルへ直接バインドし操作することが可能となりました。

AURORA 9Xは大型LCDタッチパネルにより素早く直観的に設定を行うことが可能です。しかし複雑な設定をする際や安全に製品を使用するにはこちらのマニュアルが必要となりますのでよくご覧いただき、必ず保管し常に確認できる状態にしてください。

※本製品は改良の為、予告なく仕様を変更する場合があります。
これにより、説明書の内容が変更となる場合があります、予めご了承の程お願い致します。

Hitec製品に関する最新情報については、弊社HP(http://www.hitecrcd.co.jp)をご覧ください。

Hitec RCD Inc.
R/C Controller

Model No : AURORA 9X
POWER : 1. Power supply from the AC/DC Adapter
input - AC 100 V~240V: 50Hz/60Hz
Output - TX : DC 7.2V : 150mA
2. Rechargeable Battery : NiMH, Ni-Cd

Serial No : NONE
This device complies with part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Manufacturer : HITEC RCD PHILIPPINES, INC
Made in Philippines

目次

セクション1

Introduction

セクション2

クイックスタートガイド(アクロ)

セクション3

クイックスタートガイド(ヘリ)

セクション4

System システムメニュー

セクション5

モデルメニューのより高度な使い方

モデルメニュー・重要なヒント

スイッチ設定プロセス

Model Menu

ACRO, GLID and HELI用 標準メニュー

セクション6

Model Menu

ACRO and GLID用 専用メニュー

セクション7

Model Menu

HELI 用 専用メニュー

AOURORA 9Xを使いこなす為には

当説明書は多機能な製品のため、ページ数が多くなっております。ご面倒でもお読み頂くようお願い致します。AURORA 9Xの機能を理解して性能を発揮するために詳細に記述されています。
各機能においても読み直すことも重要です。それはAURORA 9Xへの理解を深める事でしょう。

当説明書は7セクションで構成されています。

セクション1：最初の導入のために必要な情報が記載されています。
セクション2：飛行機/グライダー用クイックスタートガイドです。
セクション3：ヘリ用クイックスタートガイドです。
セクション4：システムメニューの説明
セクション5：標準モデルメニューの説明、追加メニューや各スイッチの割り当て
セクション6：アクロ／グライダー用モデルメニューの詳細
セクション7：ヘリ用モデルメニューの詳細

警告、注意等のアイコン説明

Warning 警告　Caution 注意　Tip ヒント　Note メモ

Warning	もしレンジチェックで30m以上到達しなかった場合は絶対に飛行させないでください。

クイックスタートガイド

セクション1をお読みになりましたらクイックスタートガイドに進むのも、素早くAURORA 9Xを使いこなす為の一つの方法です。クイックスタートに沿って設定を行ううちにAURORA 9Xのプログラミング手法に慣れていくと思います。そして実際に飛行される前に、いくつかの機体をプログラミングしてみる事を推奨します。実際に機体をセットアップするうちにAURORA 9X独自の理解しやすいメニュー構成がお分かり頂けるでしょう。

AURORA 9Xのアーキテクチャ（設計思想）

AURORA 9Xは設定や操作を全てタッチパネルで行います。それは画面ごとに必要なアイコンが表示され指作でタッチするだけで色々な画面に進むように導かれます。不要な情報画面が表示されないので設定は考えることなくAURORA 9Xが画面で案内してくれます。
AURORA 9Xは一種のオープン思想のコンピューターです。お客様の思うように全てのスイッチやレバーに自由な機能が設定できますので制約のない、自由なお客さ独自の送信機に仕立てる事ができます。AURORA 9Xを使いこなす程に説明書のページ数とは相反する容易な操作性にお気づきになられると思います。

新機能

1. 3つの異なる2.4GHzプロトコルに変更可能

AURORA 9Xは2.4GHz AFHSS(双方向通信)、AFHSS(一方向通信)、SLTの三つ異なる2.4GHzプロトコルを切り替えて使用することが可能です。
これらのプロトコルは弊社製品のOPTIMA、MINIMA、MAXMAこれらの各種受信機とNE SLT対応モデルに適合します。

2. モジュールが内蔵式となり素早く安定した動作を実現します。

3. SLT プロトコル内蔵

AURORA 9XはSLTプロトコルに対応しておりますこのため現在好評発売中のNE SLT対応モデルにバインドし操縦することが可能です。

4. 新型デュアルプロセッサー

AURORA 9Xには最新のデュアル・プロセッサが装備されております。
これにより以前のモデルに比べ、インターフェースが改善され7msの素早い応答性を発揮します。

5. 4096 Resolution

AURORA 9Xは新たに各スティックの分解能が4096 step レゾリューションとなりました。
その為、より滑らかなスティックワークを実現します。

6. 新型タッチスクリーンモニター

AURORA 9Xに搭載された5.1インチ大型タッチスクリーンは新型デュアルプロセッサーと最新のファームウェアにより優れた操作性を発揮します。さらに優れた消費電力性能を誇り、長時間動作を実現しました。

7. バイブレーション・モニター

AURORA 9Xでは新たに送信機裏のグリップ部にバイブレーション機構が内蔵されました。
これによりタッチ操作や警告を直感的に感じることが可能です。

8. 各種ミキシング設定においてカーブ設定が7ポイントとなり、より細かな設定が可能となりました。

サポート

修理・お問い合わせ

●修理依頼について

・修理を依頼される時は必ず下記項目をメモで同封ください。
1）使用模型、2）故障状況または依頼内容、3）修理上限希望金額
4）製造ID番号（Info画面で確認できます）

・ご連絡がない場合、修理の上限金額は最大定価の50％以内で行います。（送料別）
それ以下での金額をご希望する場合は必ず事前に連絡をお願い致します。

・弊社の製造上の責任による故障の場合は購入後半年までは無償にて
修理致します。必ず日付の入った購入時の領収書（模型店印が必須です）
を必ず同封してください。

・保証期間内でも消耗部品や外部、機構の破損は保証対象外です。

・高温、多湿、水や薬品による故障も保証対象外です。

・特にお客様の指示が無い場合、各部は販売時の状態に戻します。

・修理において各データーメモリーを消去する場合があります。

・点検の結果、異常が発見されない場合でも作動点検料金は発生する事があります。

・当製品は修理にお時間がかかる場合があります。

※製品の仕様は予告無く変更することがあります。

◎輸入販売元
お問い合わせ、修理品送付先
株式会社 ハイテック マルチプレックス ジャパン
〒133-0057　東京都江戸川区西小岩1-30-10-1F

サポート電話:050-5519-4989
受付時間:月曜日～金曜日（祝祭日・夏期休暇・年末年始を除く）
10:30～12:30、13:30～16:30
ホームページ: www.hitecrcd.co.jp

送信機及び受信機仕様

AURORA 9X 送信機
変調方式：内蔵式2.4GHzモジュール
対応受信機（この他にSLT受信機に対応します）
・OPTIMA（AFHSS双方向通信）:　オプティマシリーズ受信機は双方向通信に対応しテレメトリーシステムが使用可能です。
・MINIMA（AFHSS単方向通信）:　ミニマシリーズ受信機は単方向通信です、テレメトリーシステムは使用できません。
・MAXIMA（AFHSS単方向通信）:　マキシマシリーズ受信機は単方向通信です、テレメトリーシステムは使用できません。
この受信機は7msの素早い応答性が特徴です。
電源:7.2V Ni-MH電池（7.4V Li-Po使用可能）　消費電流:約300mA

Optima 2.4GHzシリーズ受信機

Receiver Model	Size	Weight	Stock Number
- Optima 7	2.20 x 0.79 x 0.43in (56.9 x 20.8 x 11.6mm)	0.60oz (17g)	28415
- Optima 9	1.85 x 1.14 x 0.59in (47.7 x 29.1 x 15.5mm)	0.77oz (22g)	28426

電源:　4.8V～7.4V　受信機バッテリー&ESC BEC
4.8V～35.0V　SPC端子、動力電池直接入力（BEC負担低減用）
消費電流:190mA

Maxima 2.4GHzシリーズ受信機

Receiver Model	Size	Weight	Stock Number
- Maxima 6	1.29 x 0.81 x 0.42in (33 x 20.08 x 10.7mm)	0.22oz (6.4g)	27524
- Maxima 9	1.45 x 0.97 x 0.57in (37 x 24.4 x 14.6mm)	0.28oz (8.1g)	27525

電源:3.7V～9.0V　受信機バッテリー&ESC BEC
消費電力:30mA

Minima 2.4GHzシリーズ受信機

Receiver Model	Size	Weight	Stock Number
- Minima 6 T	1.19 x 0.81 x 0.27in (30.4 x 20.8 x 7.11mm)	0.22oz (6.5g)	26610
- Minima 6 E	1.24 x 0.81 x 0.42in (31.7 x 20.8 x 10.9mm)	0.28oz (8.1g)	26612

電源:3.7V～9.0V　受信機バッテリー&ESC BEC
消費電力:30mA

用語説明

AFHSS 2.4GHz Signal　ハイテック独自のホッピングシステムを採用した2.4GHz周波数です
Telemetry　2.4GHzの特徴を生かした双方向通信システム
Rangecheck　フライト前に電波の出力を下げ地上でしっかりと通信できているか確認すること
Scanning　2.4GHzバンドの使用状況をスキャンします
Link(ID Setting)　受信機が使用できるように送信機と認識させます
HPP-22 PC Interface　PC接続用の専用インターフェース（オプション販売品）
Multi-I/o Format　トレーナー、PC通信、データー通信これらを行う際に選択します
OST（オフセットカーブ）　D/Rカーブ等の全体を上下に移動する際に使用します
EXP（エキスポテンシャルカーブ）　スティックニュートラル付近の舵角を調整します
Delay　各機能の作動時間を調整します

LCD画面のアイコン説明

LCD画面のアイコン説明

MODEL	現在選択されているモデルのメニュー
ACRO	固定翼機のメニュー(エンジン、電動)
GLID	グライダーのメニュー(電動含む)
HELI	ヘリコプターメニュー
EXIT DOOR	前の画面に戻るアイコンです 画面の右上の角に現れます
FOLDER	カスタムメニューに設置するショートカットアイコン
WRENCH	システムメニューにある特徴的なセットアップメニュー
ADJUST	各機能メニューで数値設定を素早く行う箇所
AILE	固定翼やヘリコプターのロール軸の制御
ELEV	固定翼やヘリコプターのピッチ軸の制御
RUDD	固定翼やヘリコプターのヨー軸をの制御
1/2, 1/3, 1/6 FRACTIONS	表示メニューに複数のページがある場合に表示される
+RST–	数値の増減調整やリセットを行う
Arrow	メニューオプションを表示する
C	各フライトコンディションのデータを共通設定とし、連動させます
S	各フライトコンディションのデータを個別設定としコンディションごとに別の設定データを入力できます
INH	OFF、機能停止
SEL	各メニューを表示選択する
ACT	ON、機能有効
NULL	機能のON-OFFにスイッチが選択されていない、常にON
AUX	予備チャンネル
J1	右スティック(ジンバル)の上下操作
J2	右スティック(ジンバル)の左右操作
J3	左スティック(ジンバル)の上下操作
J4	左スティック(ジンバル)の左右操作
T1	右スティック(ジンバル)の上下操作トリム
T2	右スティック(ジンバル)の左右操作トリム
T3	左スティック(ジンバル)の上下操作トリム
T4	左スティック(ジンバル)の左右操作トリム
LT	左スイッチ操作VR
CT	左中央スイッチ操作VR
RT	右スイッチ操作VR
RS	右サイドレバーVR
LS	左サイドレバーVR
Multi-I/O	PCインターフェイスや送信機同士のケーブル接続
DataTran	PCとモデルデーターの通信
T.Pupil	トレーナーモード

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM

安全の為に

警告！:ラジコン模型は使用方法を誤ると大変危険な結果を招きます。

下記の説明事項を全部お読みになり確実にお守りください。またお客様が下記の指示を履行せずに起きました結果に関しまして当社は一切の保証を致しかねます。また保証範囲はお買い求められましたプロポセットの範囲内までといたします。あらかじめご了承ください。

■下記の注意事項を守らなかった場合、最悪の場合には死亡または重傷を負う可能性が想定され、高い頻度で物損事故が発生する事が想定されます。

■表示記号の意味

 (義務事項)この記号は必ず実行する項目です。

 (禁止事項)この記号はやってはいけない事項です。

■使用前のメカ搭載の時の注意

- ・本製品はホビー用ラジコン向けに販売されています、他用途には使用しないでください。
- ・改造はおやめください。いかなる改造に関しても、当社は一切責任を負いません。
- ・純正品と組合せてご使用ください。他社製品との組合せに関しまして、当社は一切の責任を負えません。
- ・充電式のバッテリーを送信機の充電ジャックを通して急速充電する場合は充電電流を最大1A以内にしてください。但しバッテリーの許容急速充電電流に注意してください。
- ・サーボを搭載したら送信機で動作させてリンケージロッドが他に接触しないか、動作角度一杯で舵がロックしていないか良く確認してください。電池の消耗を早めます。
- ・受信機用のSWを胴体に取付ける場合、SWのスライドノブの動作範囲を阻害しないように開口部分を加工してください。
- ・受信機のアンテナは波長に合わせ長さが設定されています。カットすると到達距離が短くなり危険ですので絶対にカットしないでください。
- ・胴体が金属やカーボン製の場合、その内部にあるアンテナ部分は電波が遮断されて有効に受信できません。受信機の近くから胴体外部にアンテナを出し胴体から離して張ってください。
- ・エンジン機の場合、受信機とバッテリーを防振スポンジで包み防振対策を行ってください。
- ・本製品をお子様に使用させてはいけません。また、幼児やお子様の触れる可能性のある場所に置いてはいけません。

LCD画面　警告表示

電源-ON時に下の警告表示が出ることがあります。

スタートアップ警告

電源スイッチを入れた時にスロットルスティックが最スローになっていないと警告が出ます。電動モデルの場合、非常に危険なのでスロットルスティックを下げてください。

[Condition Warning]NORMAL
To transmit radio frequency.
-turn off all switch's condition.
-descend the throttle stick down.

スロットルスティックを下げてください。

もしフライトコンディションを設定している場合、コンディションスイッチの位置によっては大変危険な場合があります。コンディションスイッチ位置をOFFかノーマル位置にしてください。

[Condition Warning]Cond-2
To transmit radio frequency.
-turn off all switch's condition.
-descend the throttle stick down.

フライトコンディションスイッチをOFF位置にしてください。

フライト中の警告

フライト中に警告アラーム音が聞こえたらすみやかに機体を着陸させて対処してください。

アラーム内容

1:送信機バッテリーの電圧低下

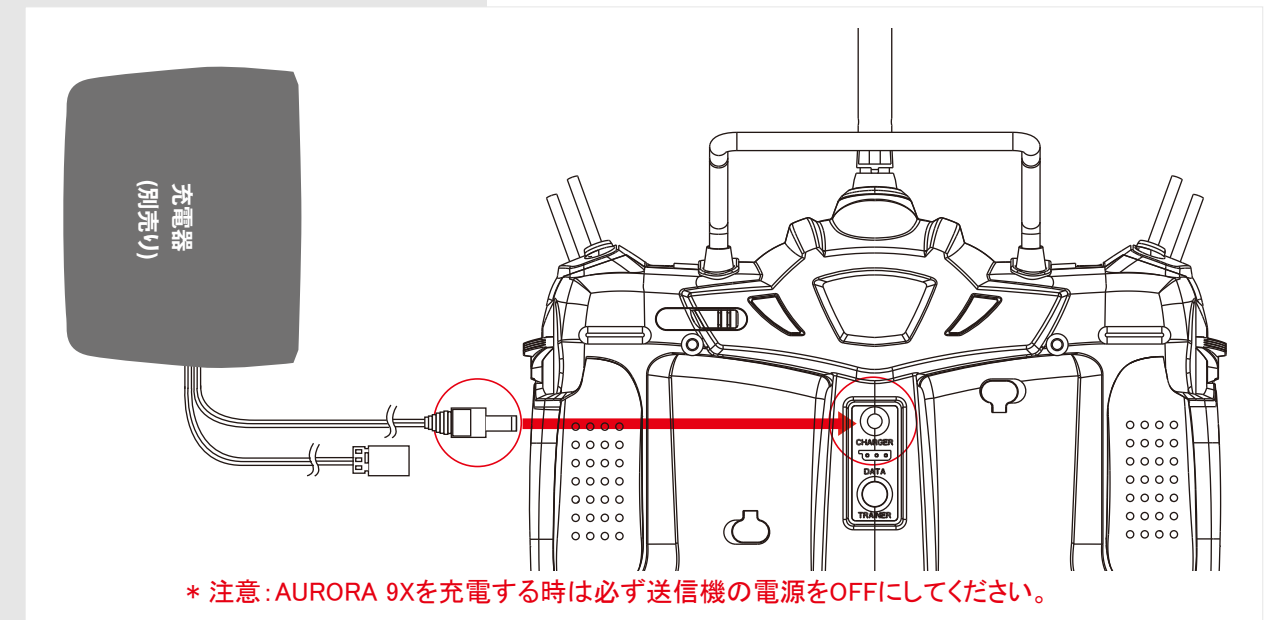
2:受信機バッテリーの電圧低下
　AFHSS2.4GHzのテレメトリー機能によって
　受信機用バッテリーの電圧低下を送信機に伝えアラーム音が鳴ります。

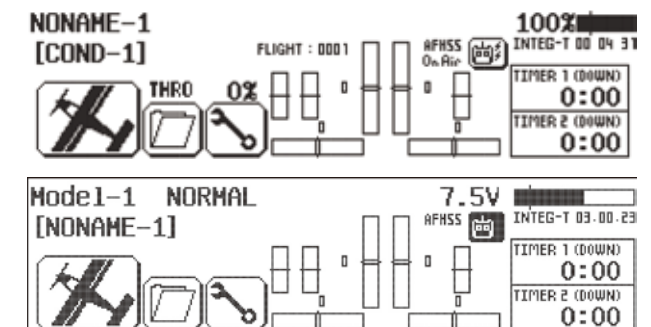
単方向通信 AFHSS 受信機 (MINIMA MAXIMA)をご使用の際はアラーム機能を使用できません。

送信機の電源と充電

AURORA 9Xの内蔵バッテリーはAAサイズ7.2V(6セル)1300mA,のNi-MHバッテリーを使用しています。

充電を行う場合は(♯44208,♯44157)これら何れかの充電コードを用い、弊社充電器X1などを使用し充電してください。放電やサイクル充放電を行う場合はバッテリーを取り外し(♯44157)のコードを使用し直接充電器に接続してください。
注意: 純正バッテリーの急速充電を行うことも可能ですが、充電電流は2A以下を推奨します。
コネクターの種類は弊社HPをご確認ください。

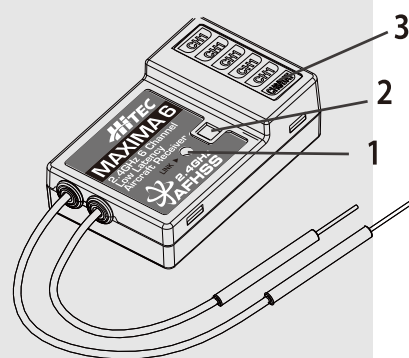
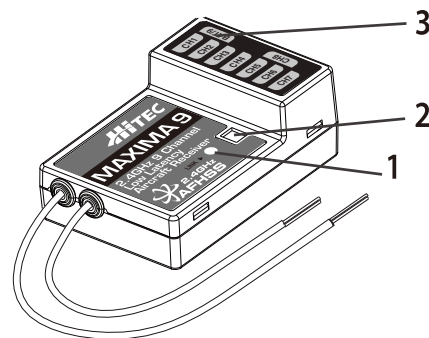
＊ 注意:AURORA 9Xを充電する時は必ず送信機の電源をOFFにしてください。

Li-Po電池の使用:AURORA 9XはLi-Po電池2セル(7.4V)を使用する事ができます。
ただし使用改造はお客様の責任において行ってください。電池極性の逆配線による故障は保障されません。

LCD画面の電源メーター
　電源のバーグラフはタッチする事で電圧表示と
　残量表示に切替できます。
　お好きな表示タイプをお選びください。

送信機にLi-Po電池を使用する場合は絶対に家庭用充電器は接続しないでください。
最悪の場合Li-Po電池が破裂して火災を起こし危険です。

Hitec 2.4GHz Maxima Series Receiver

Maxima シリーズ受信機製品特徴

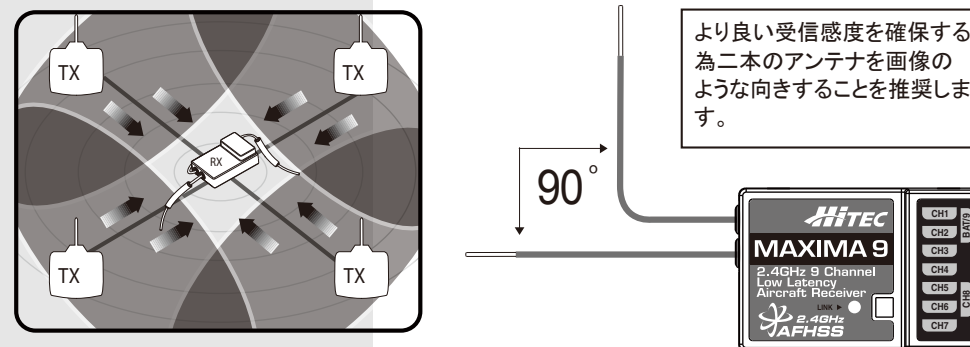
Caution

Maximaシリーズは、AURORA 9Xで使用するために設計されます。以前のAURORA 9送信機は、Maximaシリーズ・レシーバーで使用できません。Maximaレシーバーはデジタルサーボに対応しアナログ・サーボは使用できませんのでご注意ください。

MAXIMA 6

MAXIMA 9

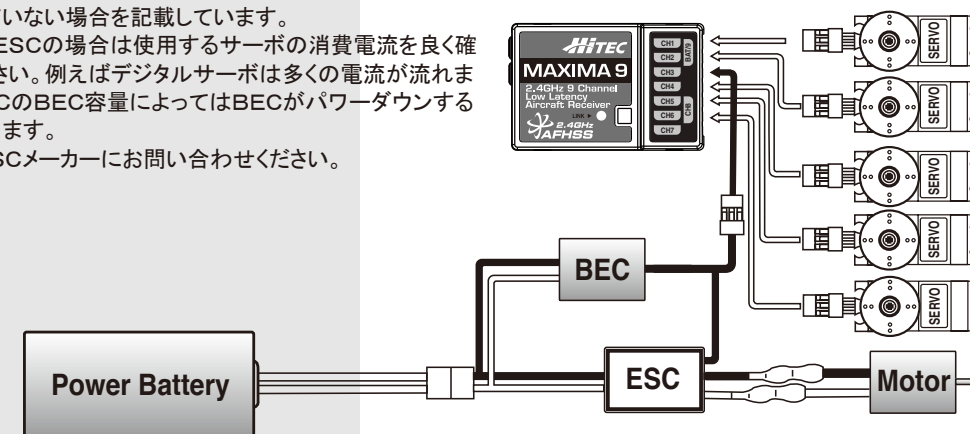
1. ファンクションボタン
   このボタンはフェイルセーフの設定とバインドの際に使用します
2. デュアルLEDライト
   レシーバーのセットアップ状態や電源が供給されていることを示します
3. 各チャンネルとバッテリー接続の入力ポート
   バッテリーパワーとサーボのポート、ジャイロや他のアクセサリーの各入力ポートが装備されています
4. 入力バッテリー低電圧警告
   レシーバーのバッテリー・レベルが3.6V未満に低下すると、RED LEDが点滅します
5. フェイルセーフ及びホールドモード選択
   仮にレシーバーが正常に受信できなくなった場合は、フェイルセーフを作動することが可能です

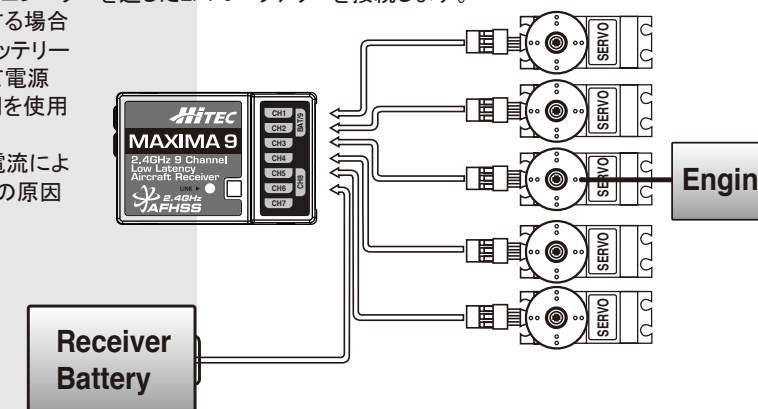
Hitec 2.4GHz Maxima Series Receiver

Maxima 受信機 アンテナの取り付け向き

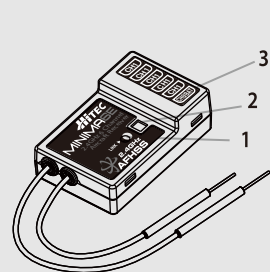
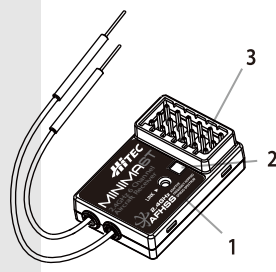
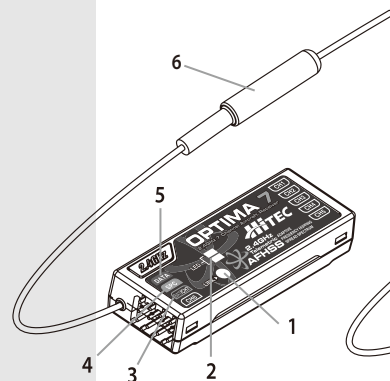
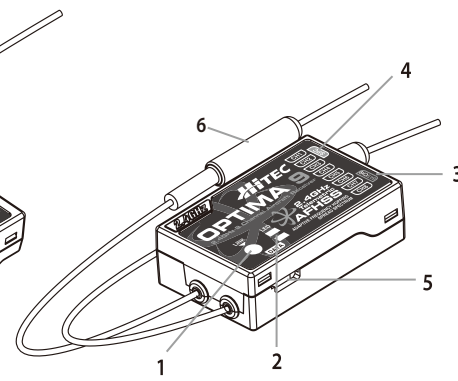
Maximaシリーズ受信機のアンテナは優れた受信能力を発揮するように設計されております。性能を最大限発揮する為に、下記の参考図をご覧いただきアンテナを適切な向きに向け機体に搭載してください。

Maximaレシーバーシリーズ配線図

電動エアプレーン機等の配線参考図

イラストではESCにBEC(受信機サーボ用レギュレーター)が内蔵されていない場合を記載しています。
BEC内蔵ESCの場合は使用するサーボの消費電流を良く確認してください。例えばデジタルサーボは多くの電流が流れますのでESCのBEC容量によってはBECがパワーダウンする場合があります。
詳しくはESCメーカーにお問い合わせください。

エンジン式エアプレーン機等の配線参考図

バッテリーは4.8Vまたはレギュレーターを通したLi-Poバッテリーを接続します。
デジタルサーボを多く使用する場合は、消費電流が多いのでバッテリー容量は大き目を使用、そして電源SWハーネスも必ず大電流用を使用してください。
通常のSWハーネスでは大電流により電圧降下を起こしトラブルの原因になります。

Hitec 2.4GHz Optima and Minima Series Receiver

Optima Minima シリーズ 受信機 製品特徴

次の項目にはOptimaシリーズとMinimaシリーズの製品の使い方や特徴について記載されております。
ご使用する際は受信機のバージョンが最新であること推奨いたします。

MINIMA 6E

MINIMA 6T

OPTIMA 7　OPTIMA 9

1. ファンクションボタン
   このボタンはフェイルセーフの設定とバインドの際に使用します
2. デュアルLEDライト
   レシーバーのセットアップ状態や電源が供給されていることを示します。
3. 各チャンネルとバッテリー接続の入力ポート
   バッテリーパワーとサーボのポート、ジャイロや他のアクセサリーの各入力ポートが装備されています。
4. SPC サプリメント電源コネクター
   受信機SPCコネクターより受信機のみの電源供給として動力バッテリーなどの電源の35Vまで入力可能です。
5. テレメトリーセンサー接続とデータポート
   オプティマ9とオプティマ7にはテレメトリーやアップデートの際に必要になるデータポートが通常チャンネル
   とは別に用意されております。
   オプションにて販売されておりますHPP-22を接続しシステムのバージョンアップを行う際やテレメトリーシステムの
   センサーステーションを接続する際に使用します。(テレメトリーシステムについてもオプション販売となります)

Hitec 2.4GHz Optima and Minima Series Receiver

6. BODA (オムニブーストアンテナシステム)

   オムニブーストアンテナを採用、他社製に比べ2倍の広い電波の受信角度(指向性)を持つ高性能アンテナで送信機の
   電波をしっかりと受信します。

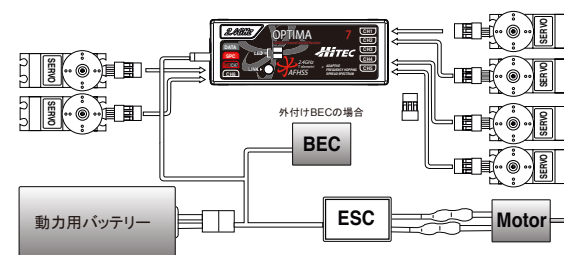
   適合性
   オプティマとミニマの受信機シリーズはHitec AFHSS 2.4GHzシステムを搭載した送信機と適合します。

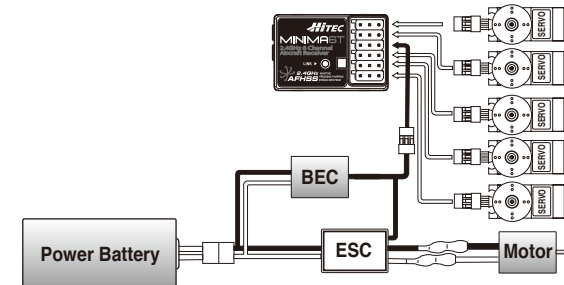
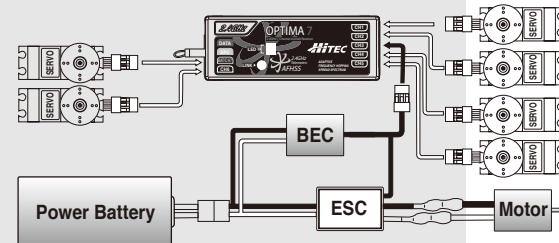
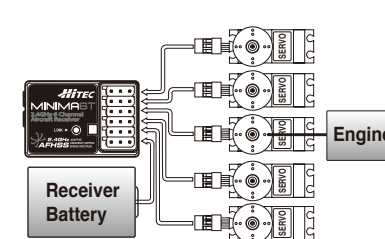
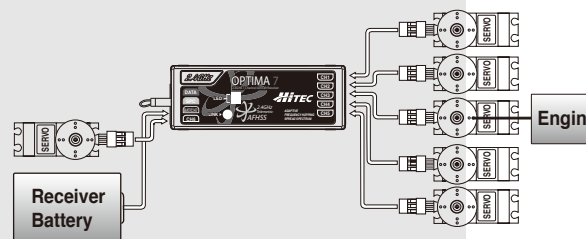
   フェイルセーフ及びホールドモード選択
   仮にレシーバーが正常に受信できなくなった場合は、フェイルセーフを作動することが可能です。

   受信機電源の電圧低下警告
   オプティマシリーズのみ受信機電源の電圧低下を検知しユーザーに警告する機能があります。

SPCサプリメント電源コネクタ
受信機はテレメトリーの為に電波を送信します。このために消費電流が190mA流れます。お使いのESCのBECの容量が少ない場合は動力用電池(4.8～35.0V)をこの端子に直接接続してください。受信機内部にDC-DCコンバーターが内蔵され安定した電源を受信部のみに供給します。しかしサーボへは供給されませんのでサーボ用電源をESCのBECか外付けBECで供給してください。

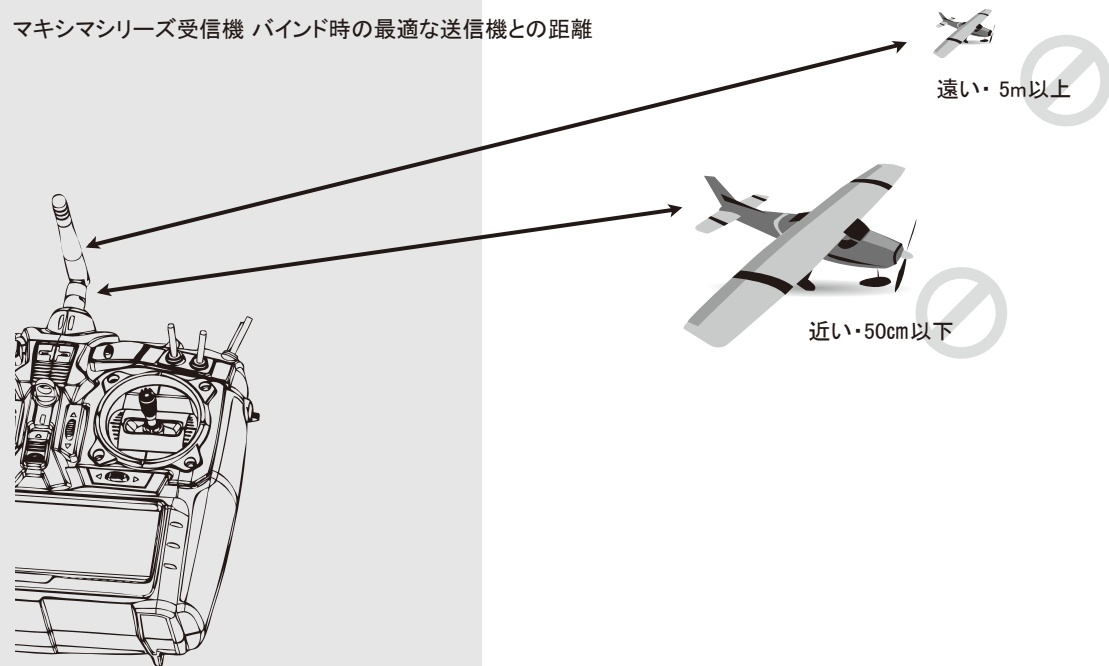
7.4V対応のサーボがハイテック製でも数種類ありますが、使用可能電圧の違うサーボを混載してご使用になる場合は低いものに合わせて受信機用バッテリーをお選びください。
BECの場合も同じように設定をしてください。

SPC電源システムの接続例

Optima and Minima Series Receiver Connection Diagrams

電動エアプレーン機等の配線参考図
イラストではESCにBEC(受信機サーボ用レギュレーター)が内蔵されていない場合を記載しています。BEC内蔵ESCの場合は使用するサーボの消費電流を良く確認してください。例えばデジタルサーボは多くの電流が流れますのでESCのBEC容量によってはBECがパワーダウンする場合があります。詳しくはESCメーカーにお問い合わせください。

エンジン式エアプレーン機等の配線参考図
バッテリーは4.8Vまたはレギュレーターを通したLi-Poバッテリーを接続します。デジタルサーボを多く使用する場合は、消費電流が多いので
バッテリー容量は大き目を使用、電源SWハーネスも必ず大電流用を使用してください。
通常のSWハーネスでは大電流により電圧降下を起こしトラブルの原因になります。

Hitec 2.4GHz Maxima Series Receiver

Maximaシリーズ受信機 バインド方法

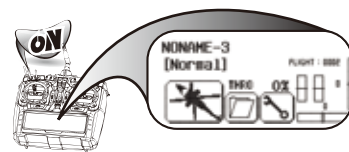
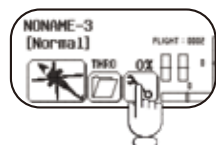
マキシマシリーズ受信機 バインド時の最適な送信機との距離

Note

バインドは5m以内で行い、しかし少なくとも50cm程の間隔は送信機と受信機の間に設けてください。

Maximaシリーズ受信機 バインド方法

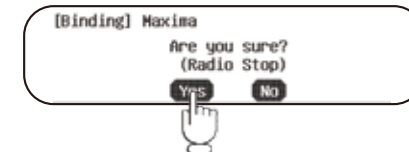
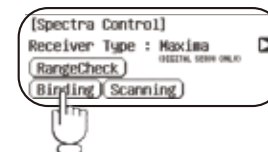
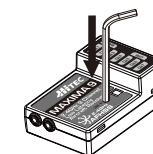
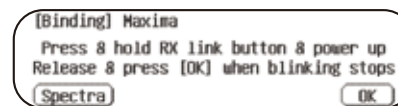
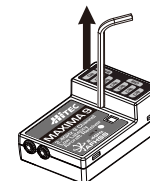
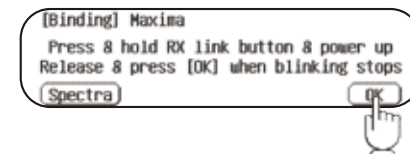
Hitec AFHSSシステムは、Hitec 2.4GHzの専用プロトコルを用いマキシマやオプティマなどの受信機とバインドします、一度バインドしますと混信などの妨害は受けない設計となっております、また新規モデルを作成し受信機を増設しても一度バインド作業を完了させればモデルを切り替えても再バインドの必要はありません。

下記にバインドの方法を記載いたしますのでご覧ください。

1. 送信機の電源を入れ起動画面でYESを押します。
2. システムメニューを選択します。
3. スペクトラのアイコンをタッチします。

注意：スペクトラコントロールを開いたらレシーバーアイコンをタッチしてMAXIMAを選択し、SETをタッチします。

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM AURORA 9X

Hitec 2.4GHz Maxima Series Receiver

4. バインディングアイコンのYESをタッチします。

5. バインドボタンを押しながら受信機の電源を入れてください。

6. リンクボタンを離してください
送信機からのシグナルを受信し赤と青のLEDライトが高速点滅します。

7. LEDの点滅が終了したときOKのボタンを押してください、すると青のLEDが点灯します。

8. 受信機の電源を切ってから電源を入れ直してください。
この時、青のLED点灯していることを確認してください。

バインドが成功しサーボが正常に動作しましたらスクリーンのフィニッシュボタンを押してください。

Caution

仮にバインドが正常に行われなかった場合はステップ6まで戻り
再度バインド作業をやり直してください。

Optima・Minimaシリーズ受信機 バインド方法

1 送信機の電源を入れ起動画面でYESを押します。

ON
NONAME-3
[Normal]

2 システムメニューを押します。

NONAME-3
[Normal]

3 スペクトラのアイコンを押します。

Timer Channel
Trainer Spectra
H.Rev

4 オプティマかミニマいずれかを選択しバインディングアイコンのYESを押します。

[Spectra Control]
Receiver Type : Opti & Mini
RangeCheck
Binding Scanning

Optima Minima

5 OPTIMA / MINIMA

バインドのためYESボタンを押します。

[Binding] Optima
Are you sure?
(Radio Stop)
Yes No

[Binding] Minima
Are you sure?
(Radio Stop)
Yes No

6 バインドボタンを押しながら受信機の電源を入れます。

[Binding] Optima
Press receiver's link button
and turn on the power.
Spectra

[Binding] Minima
Press & hold RX link button & power up
Release & press [OK] when blinking stops
Spectra OK

ON
OFF

7 リンクボタンを
離してください。

送信機からのシグナルを受信し、
赤と青のLEDライトが高速点滅します。
（ミニマの場合）

8 オプティマシリーズはバインドが終了すると自動的に次の項目へ
移動します。（ミニマの場合はこの時、赤と青のLEDが点灯します）

[Binding] Optima
Reboot RX & check all functions.
If correct, press [Finish].
Spectra Finish

LEDの点滅が終了したらOKのボタンを押してください。
青のLEDが点灯します(ミニマの場合)

[Binding] Minima
Press & hold RX link button & power up
Release & press [OK] when blinking stops
Spectra OK

9 受信機の電源を切ってから電源を入れ直してください、このとき赤のLED点灯していることを確認してください。

[Binding] Optima
Reboot RX & check all functions.
If correct, press [Finish].
Spectra Finish

[Binding] Minima
Reboot RX & check all functions.
If correct, press [Finish].
Spectra Finish

Or

ON
OFF

バインドが成功しサーボが正常に動作したら、
スクリーンのフィニッシュボタンを押します。

Control Check

Good work

[Binding] Optima
Reboot RX & check all functions.
If correct, press [Finish].
Spectra Finish

Or

[Binding] Minima
Reboot RX & check all functions.
If correct, press [Finish].
Spectra Finish

Caution

仮にバインドが正常に行われなかった場合はステップ6まで戻り
再度バインド作業をやり直してください。

Hitec 2.4GHz System

フェイルセーフとホールドモードの設定

フェイルセーフの設定を正常に行えば送信機の電波が途切れた時、サーボはあらかじめ設定した位置に移動しフェイルセーフが働きます。

仮にフェイルセーフ機能を作動させない場合はホールドモードとなりこのモードでは送信機の電波が途切れた時のその瞬間の位置でサーボは固定されます。

通常はフェイルセーフ機能を使用されることを推奨いたします。設定する際はモーターオフやエンジンはアイドルにするなど万が一の際に危険が最小限となるようにしてください。

送信機と受信機の電源を入れてください、送信機は最初のYESのアイコンを押しシステムを起動させてください。

約6秒ほどLEDが消灯するまで受信機のLINKボタンを長押しします。

ボタンを離してください。2秒後に、赤と青のLEDは、交互に点滅します。
約5秒の間に、送信機スティックを任意に設定したFAIL-SAFE位置(モーターオフや エンジンアイドルなどの位置)の方へ動かしてください。そして、点滅している間はその位置に固定したままにしてください。

点滅が終了したときシステムは一時的にフェイルセーフポジションを認識します。
そして電源を切ることでシステムは保存し終了します。

Hitec 2.4GHz System

フェイルセーフ設定のテスト

1. スティックをフェイルセーフで設定した以外のポジションにして送信機の電源を切ってください。
正しく設定されておりましたらホールドポジションの後、約1秒ほどで先ほど記憶したフェイルセーフポジションへ移行します

フェイルセーフの解除の仕方
・フェイルセーフの解除(ホールドモードへ切替)
1:送信機、受信機をONにしてサーボ動作を確認します。
2:受信機のセットアップボタンを6秒間押して離すと赤と青のLEDが交互に点滅します。
3:ボタンを再度押すと、赤LEDの点灯になりフェイルセーフは解除され、ホールドモードが機能します。

・ホールドモードの確認
送信機、受信機を動作させているときに送信機をOFFにします。
すると各サーボは送信機がOFFになった瞬間のスティック位置で
固定(ホールド)されます。

Note

一旦フェイルセーフを解除すると各サーボ位置は消去されます。
飛行前に必ずフェイルセーフ位置を確認してください。

Telemetry System

オプティマ9及び7はオプションのセンサーを使用することによりテレメトリーシステムに対応します。
また、受信機電源の電圧の低下警告は標準で装備されております。

受信機電源の電圧低下警告
現在標準で受信機に装備されている電源電圧の検出機能はバッテリーのセル数を自動的に検出します。以下の電圧の場合、ビープ音で電圧低下を知らせると同時にRFモジュールのLEDが青点灯、赤点滅の表示になります。

警告電圧
・4セルNi-MH 4.5V以下
・5セルNi-MH 5.6V以下
2セルのLi-Poを受信機に使用する場合は別売りの「HPP-22」で警告電圧を設定変更してください。

オプションテレメトリーセンサー
各電圧、電流値 各温度、回転数、高度、速度、燃料タンク残量、GPS これらのセンサーがオプティマ9及び7で使用可能です。
新たなセンサーが追加される場合は弊社WEBサイトにて発表いたします。

Note

テレメトリー機能はオプティマ7及び9で使用可能です。

Warning

2.4Gシステムと高電圧(HV)対応サーボを使用する際は必ず高容量のバッテリーを
満充電でご使用ください、そして受信機電圧は常に注意を払ってください。

フェイルセーフとホールドモードの設定

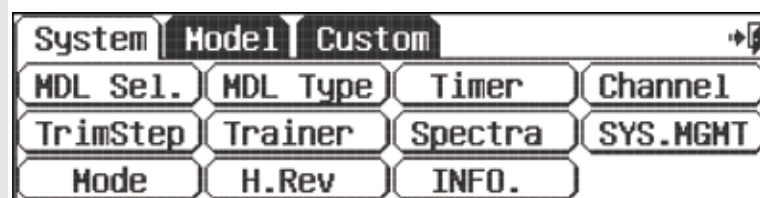
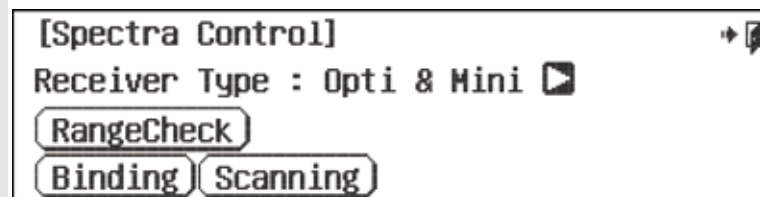
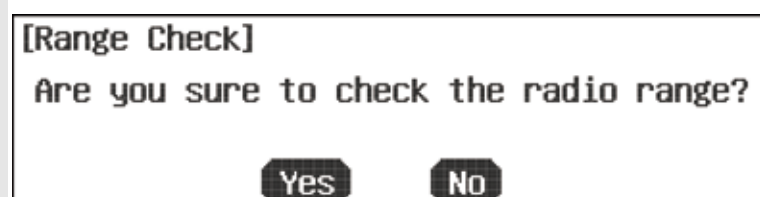
Range Check Function
レンジチェック機能(距離テスト用)
距離テストの為に送信機の出力をパワーダウンさせる機能です。レンジチェックを行い30m以上機体から離れ正常に通信していることを確認してください。異常が確認された場合は絶対に飛行させないでください。

1. システムメニューより(Spectra) アイコンを選択します。

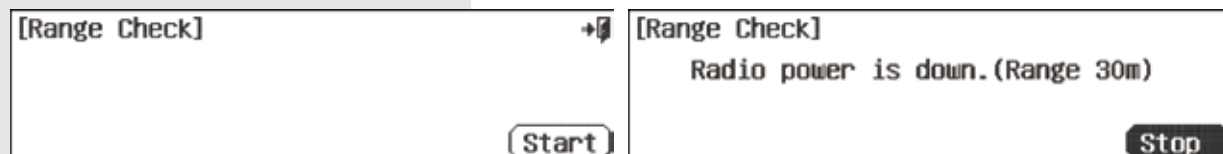
2. レンジチェックアイコンを押します。

[Spectra Control]
Receiver Type : Opti & Mini
RangeCheck
Binding Scanning

3. YES アイコンを押します。

[Range Check]
Are you sure to check the radio range?
Yes No

4. レンジチェックアイコンを押します。
5. スタートまたは終了アイコンを押します。

[Range Check]
Start

[Range Check]
Radio power is down.(Range 30m)
Stop

スキャンモード
電波を発射する前に送信機と受信機でバンドの使用状況をスキャンしてバンドの空いている範囲を検出します。そして空いている範囲でFHSS方式で電波を発射する方式です。ただし送信機と受信機でバンドホッピング情報を通信しているので電波や電源によりリンクが途切れると送受信機の電源の再投入までサーボは動作しません。また、スキャン時間が必要なので電源ON後からサーボ動作まで時間が必要です。
注意(2013年10月現在 こちらの機能は使用しません)最新情報は弊社HPにてご案内いたします。

1. システムメニューより(Spectra) アイコンを選択します。

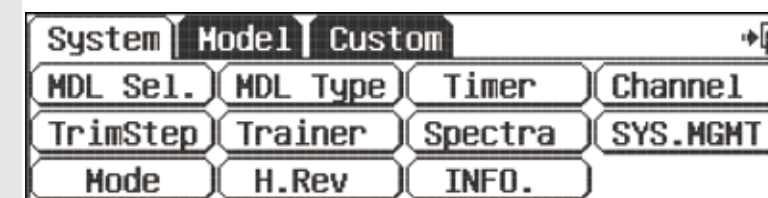
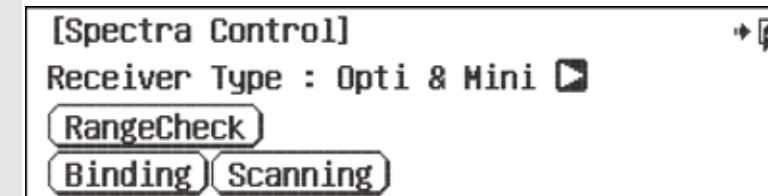
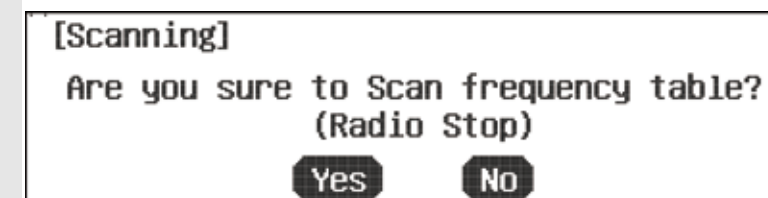
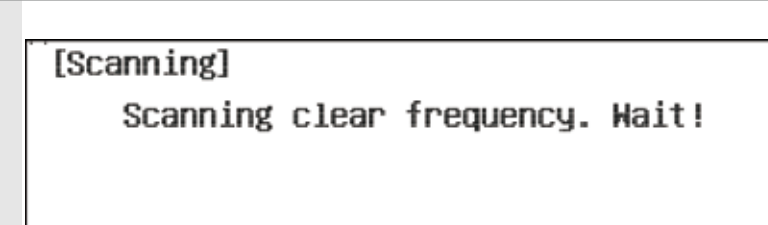
2. スキャンアイコンを押します。

[Spectra Control]
Receiver Type : Opti & Mini

3. YESアイコンを押します。

Are you sure to Scan frequency table?
(Radio Stop)
Yes

4. スキャン中はしばらくお待ちください。

[Scanning]
Scanning clear frequency. Wait!

スキャン中は機体と送信機の傍を離れないようにしてください。
その他アイコンを押さないでください。
スキャンモードが完了するまで何も操作しないでください。

AURORA 9X アクセサリー

各種アクセサリーを用意してございます。

●送信機バッテリー　#54128
・7.2V 6N 1300mAh Ni-MHバッテリー

●HPP-22　PCインターフェイス　#44470
・AUROLAのシステムバージョンアップやデーター転送に使用します。

●送信機バランサー　#55843
・ネックストラップ等のオプションパーツの取り付け位置を変更可能です。

●ネックストラップ　#58311
・首かけストラップです。

●トレーナーコード　#58321
・2台の送信機で教習を行う時に使用します。

●送信機アルミニウムケース　＃55445

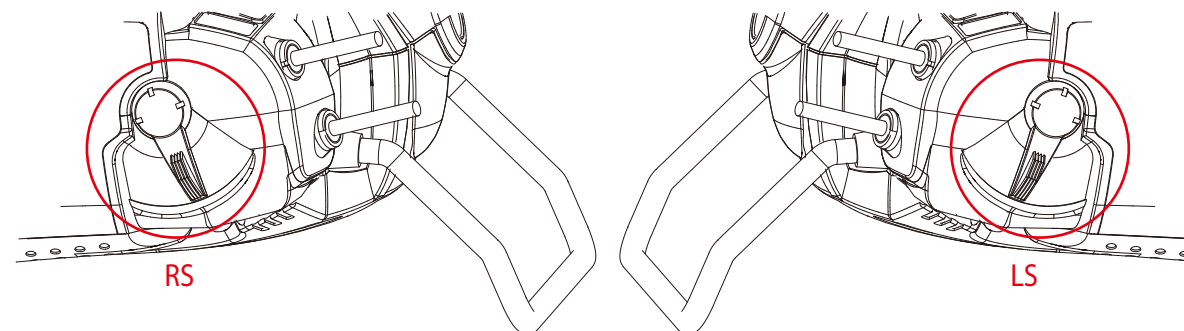
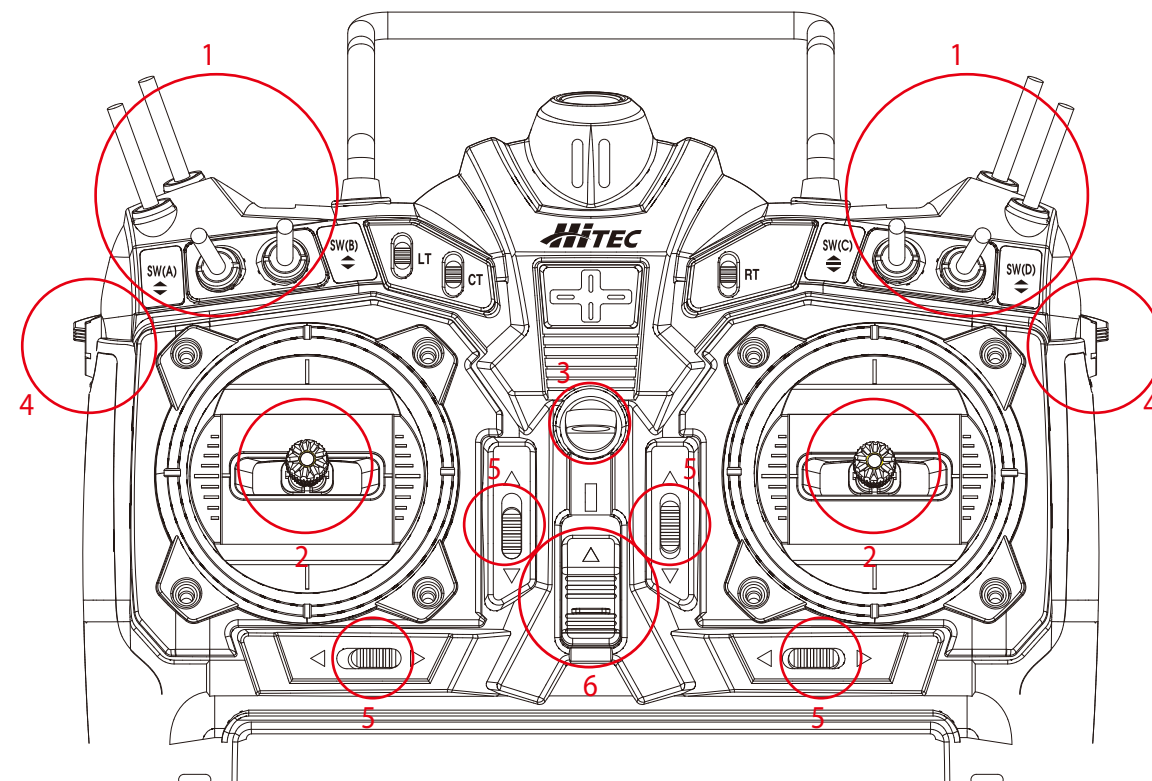
●コントロールスティック
・スティックの長さを任意の長さに調整する為のオプションパーツです。
#55838 シルバー
#55839 レッド

●サーボ用ケーブル
・延長コードや二股コード、電流容量も各種用意してございます。
純正品は有数プロポメーカー以外の製品に比べ確実なコネクタ接点構造を持ち線材も高品質です。
大切な機体の安全の為に純正品を強く推奨します。

●サーボ
・Hitec製品以外にも「1.5ms」ニュートラルの全サーボが使用できます。

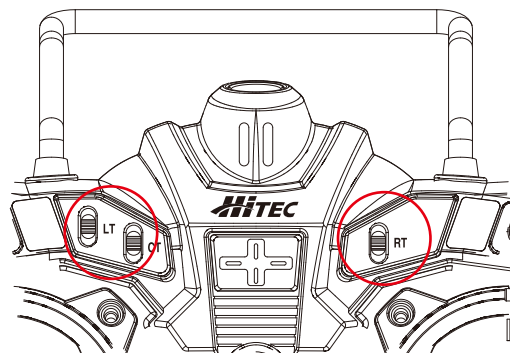
2.4GHzの受信機には必ずヘビーデューティスイッチハーネス（大電流用）をご使用ください。（＃54407S）

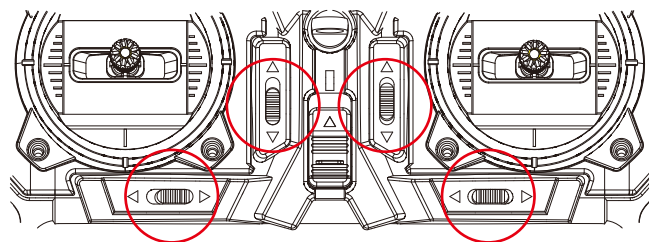
送信機各部名称

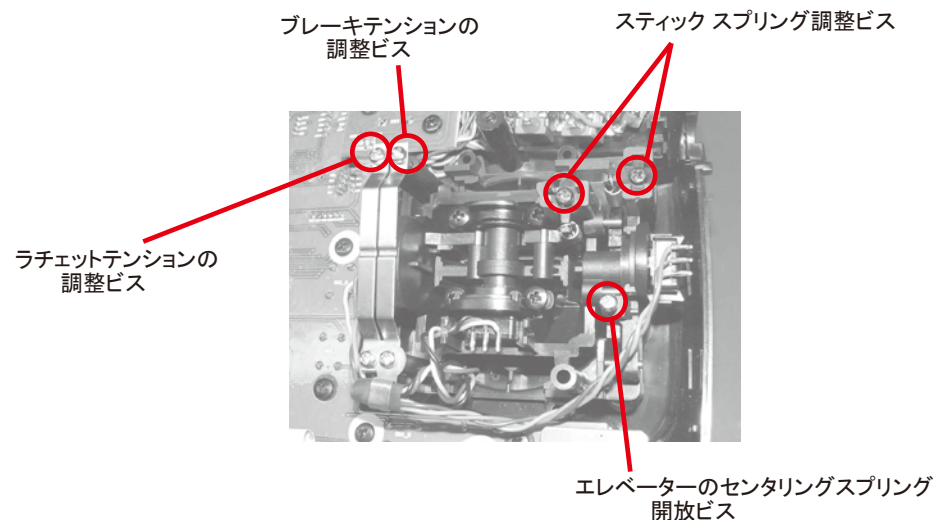
1: A,B,C,D,E,F,G,H スイッチ
2: J1、J2、J3、J4 スティック
3: 首掛け用ホルダー
4: LS、RS サイドレバー
5: T1、T2、T3、T4 トリム
6: 電源スイッチ

サイドレバー
側面のスライドレバーはスティックのようなアナログ操作に利用できます。
役割の割り当ては自由に選ぶことが可能です。

送信機各部の名称

●デジタルスイッチ　LT,CT,RT

このデジタルスイッチはホバリングピッチやフラップ操作など、細かな位置調整に利用できます。
位置はLCD画面に表示されます。

●デジタルトリム

各スティックにはデジタル式のトリムが装備されています。
ステップ毎にビープ音が鳴りますがセンター位置を通過した時と端一杯すると音が変化して画面を見なくても確認できます。各トリム位置はモデルメモリー毎に記憶されます。
トリム位置はLCD画面に表示されます。

●スティックの構造

AURORA 9Xは他社に無い独自な構造で、ラチェットやブレーキ、センタリングの選択、そしてスプリング調整が裏ケースを開ける事無く可能になっています。

送信機各部の名称

●スティックのスプリング調整

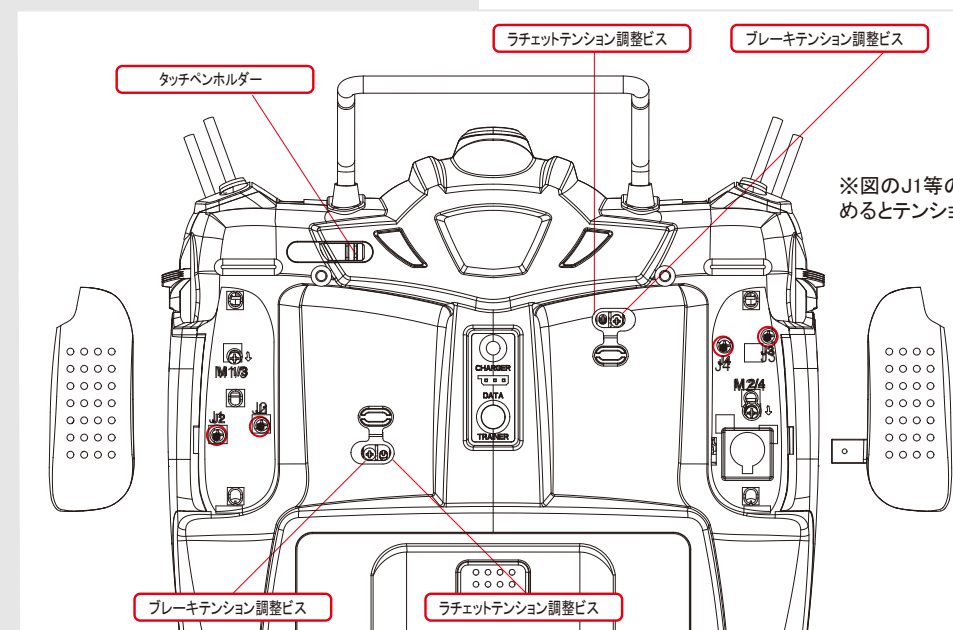
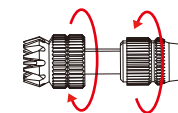
1：ケース背面のラバーパッドを取り外します。
2：適合するドライバを穴にあわせ入れて慎重に調整します。
3：右回転でテンションは強くなり、左回転で弱くなります。
4：調整が完了したらラバーパッドを取り付けます。

注意：テンション調整が変化しなくなる範囲はビスを回さないでください。
　回しすぎるとスプリングが外れたり、部品が破損する事があります。

各スティックのテンション調整には1.5mm六角レンチが必要です

●スティックヘッドの長さ調整

図のようにダブルナット方式になっています。緩めてから長さを調整して締めて固定します。

※図のJ1等の各スティック調整ネジを締めるとテンションが強くなります。

●スティックモードの変更

AURORA 9Xは裏蓋を開ける事なくスティックのスプリング開放やラチェット＆ブレーキ調整が可能です。
手順（モード1→2の場合）
1：ケース背面のラバーグリップを取り外します。
2：裏面を見て左側スティックの「ラチェットテンション調整ビス」と「ブレーキテンション調整ビス」を左回転させると各テンションが弱まり接触を感じなくなります。
注意：　テンションを感じなくなった後も無用にビスを回しますと部品が外れる恐れがあります。
　　感触の変化の無い領域ではビスを不用意に回さないでください。
3：同じく左側の「スプリングリリースビス」を左回転するとスティック動作範囲の端からスプリングによるセンタリング範囲が狭まってきます。
4：スプリングでしっかりと中立が出るところまでビスを回転させます。
注意：　中立が出た後に不用意にビスを回転させますとビスが脱落する恐れがあります。
　　感触の変化の無い領域ではビスを不用意に回さないでください。
5：次に背面から見て右側のスティックに上記と逆の作業を行います。
6：右側の「スプリングリリースビス」を右回転するとスティックのセンタリング範囲が広がります。スティックの動作範囲にスプリングのテンションを感じなくなる箇所までビスを回します。
7：右側スティックの「ラチェットテンション調整ビス」と「ブレーキテンション調整ビス」の希望する方のビス右回転させて締め込んでいきます。希望する感触位置でビス回転を止めます。
8：これでスティックは機構的に変更されました。
9：スティック機構の変更後は「P-70」を参照してLCD画面での電気的なモード切替を行ってください。モード切替はモード1や2だけでなく3や4も可能です。

タッチスクリーンロック Touch Screen Lock

こちらのタッチスクリーンロック設定するとフライト中などにスクリーン上の不意な誤操作を防ぐことができます。
セットアップの方法につきましては下記をご参照ください。

タッチスクリーンロック機能を使用する事で誤動作の防止に役立ちます。

タッチスクリーンロック設定

1.システムメニューよりSYS.MGMT（システムマネージメント）を選択します。

2.矢印のアイコンをタッチしてタッチスクリーンロック機能をONにしてください。最初は機能が作動するまでの時間が5秒で設定されておりますので、設定後、約5秒でタッチスクリーンロックが作動します。また、タッチロックまでの作動時間は5秒・10秒・20秒・60秒またはオフのいずれかで設定可能です。

[System Management] 1/2
Backlight : Always On
Touch Lock : Always Off
Touch Feedback : Tone/Vibe
Auto Hibernation : Never

3.タッチスクリーンロックが正常に機能すると、画像のような文字がディスプレイに表示されます。

Touch Lock is activated.

4.タッチスクリーンロック機能が作動すると、スクリーンにタッチしても画像のような文字がディスプレイに表示され、画面をタッチしてもロックされて操作できなくなります。

5.画面を2～3秒ほど長押しすると、一時的にロックを解除することが可能です。しかしその後、画面の操作を行わなかった場合は再度ロックが作動します。

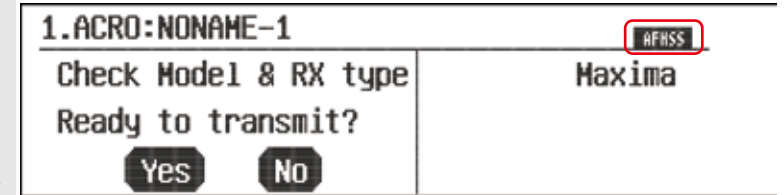
Touch Lock is activated.
Press & hold the screen to deactivated.

電源投入後の初期画面 The First Screen

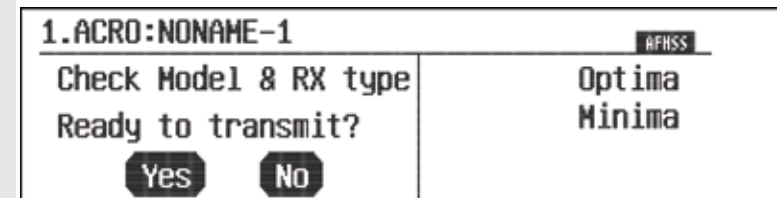
電源を入れたとき下記の画像の表示がスクリーンに現れます。

2.4GHz AFHSSモード（マキシマ受信機 使用時）

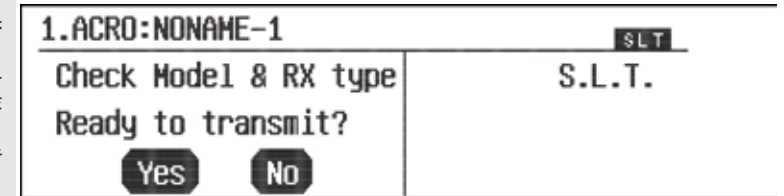
1.最上段には選択されているモデルNoと名前が表示されます。
2.右上に使用しているプロトコルのタイプが表示され、その下に予め設定したプロトコルのタイプが表示されます。マキシマタイプを選択した場合は(Maxima)と表示されます。
3.電波の送信を行う時は「YES」電波を出さずに設定を行うときは「NO」をタッチします。

1.ACRO:NONAME-1 AFHSS
Check Model & RX type
Ready to transmit?
Yes No
Maxima

2.4GHz AFHSSモード（オプティマ・ミニマ受信機 使用時）

1.最上段には選択されているモデルNoと名前が表示されます。
2.右上に使用しているプロトコルのタイプが表示され、その下に予め設定したプロトコルのタイプが表示されます。オプティマ・ミニマを選択した場合は（Optima Minima)と表示されます。
3.電波の送信を行う時は「YES」、電波を出さずに設定を行うときは「NO」をタッチします。

1.ACRO:NONAME-1 AFHSS
Check Model & RX type
Ready to transmit?
Yes No
Optima
Minima

2.4GHz SLTモード

1.最上段には選択されているモデルNoと名前が表示されます。
2.右上に使用しているプロトコルのタイプが表示され、その下に予め設定したプロトコルのタイプが表示されます。SLTを選択した場合は(SLT)と表示されます。
3.電波の送信を行う時は「YES」電波を出さずに設定を行うときは「NO」をタッチします。

1.ACRO:NONAME-1 SLT
Check Model & RX type
Ready to transmit?
Yes No
S.L.T.

First Screen 追加メニュー

マルチI/Oポート

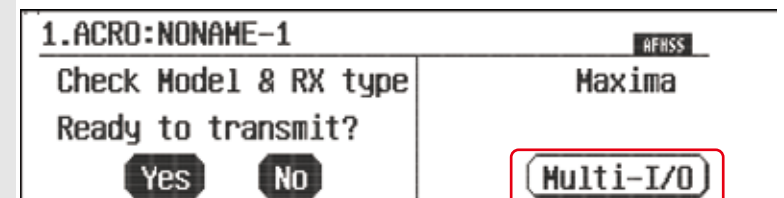
初期画面において送信機の裏のトレーナージャックに各種ケーブルを接続すると下記の画面が表示されます。

マルチI/Oポート表示設定

1.トレーナーケーブルやシミュレーターケーブルまたは（HPP-22)PC接続用インターフェイスなどをAURORA 9Xの背面のトレーナージャックに接続します。
2.AURORA 9Xの電源を入れてください。
3.画面にMulti-I/Oと表示されるので、タッチしてください。

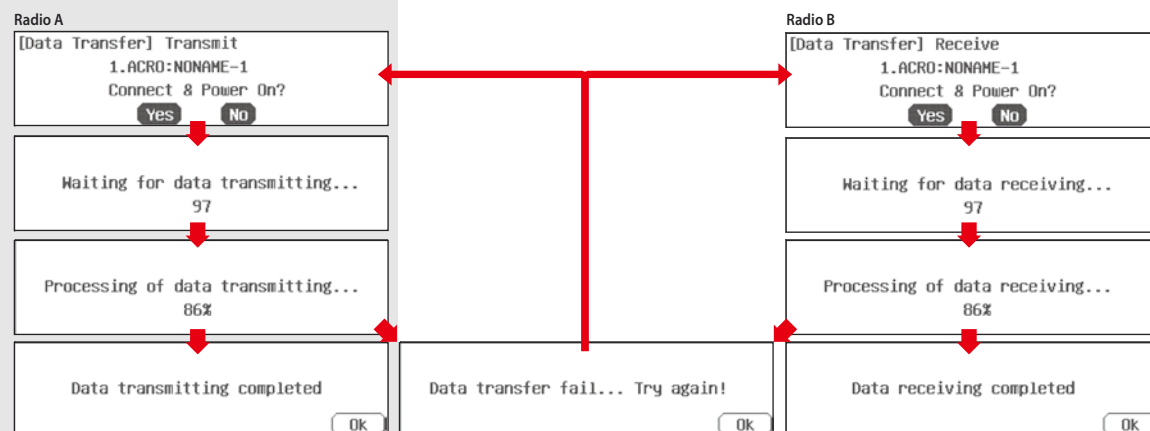
1.ACRO:NONAME-1 AFHSS
Check Model & RX type
Ready to transmit?
Yes No
Maxima
Multi-I/O

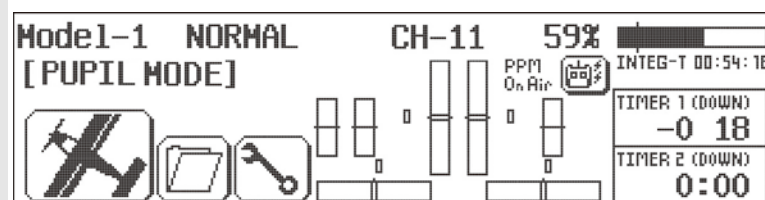
4.トレーナーケーブルやHPP-22で送信機間やPC上でデーターの管理を行う際は「Data Tran」を選択します。
5.トレーナーケーブルで生徒側を選択する際やフライトシミュレーターを使用する場合は「T.Pupil」を選択します。

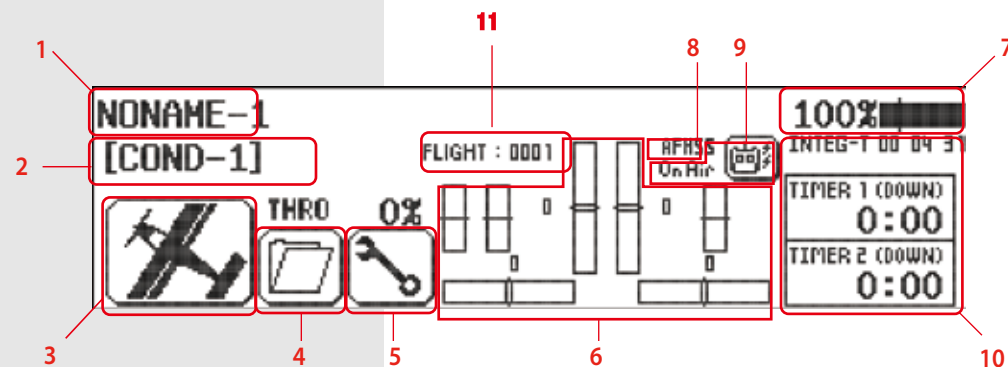
[Multi-I/O]
DataTran T.Pupil

トレーナーケーブル使用時の生徒側はいくつかの機能の制限を受けます。

ホームスクリーン画面 説明

●データ転送機能

「Data Tran」を選択した場合、トレーナーケーブルでAURORA 9X間のデータの転送が可能です。

●教習モード生徒側

生徒側の送信機の画面です。生徒側は専用のモードになり機能は使用不可となります。
詳しくは「P-65」を参照ください。

●ホームスクリーン画面説明

画面の各アイコンをタッチするとその関連する設定画面へ進みます。主なアイコンを覚えてください。

ホームスクリーン画面 説明

1：モデル No
現在選択されているモデルメモリーの番号です。 1 ～ 30 番まで登録できます。

2：フライトコンディション表示
現在、 選択されているフライトコンディションの名称です。 タッチするとフライトコンディション設定画面に進みます。

3：ウイングタイプ表示
このアイコンをタッチするとモデルファンクションメニューに進みます。

4：カスタムフォルダー
よく使用する機能を、 このカスタムフォルダーに登録できます。

5：システムメニュー
このアイコンをタッチすると基本システム機能が入っているシステムメニューに進みます。

6：デジタルトリム、＆デジタルスイッチ表示
このアイコンをタッチするとサブトリム画面に進みます。

7：電源電圧表示
このアイコンをタッチすると電圧数値表示が残量表示に切り替わります。

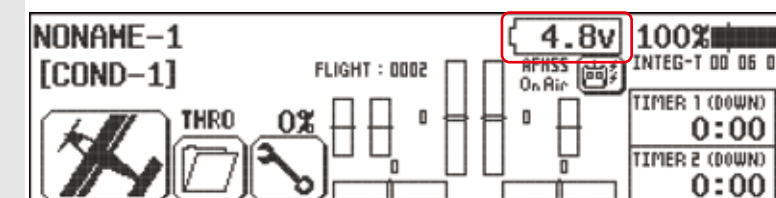
8：信号変調モード表示
2.4GHz は「AFHSS」SLTを選択した場合は「SLT」と表示されます。

9：電波送信状況
アイコンが黒の場合は電波は出ていません。
「OnAir」が出て白いアイコンの時に電波は発射されています。

10：タイマー表示
2 種類のタイマーが表示されます。 タッチするとタイマー設定ができます。
上部にはインテグラルタイマーが表示されます

11:フライトカウンター
フライト回数が表示されます

11：受信機電圧の表示
このアイコンをタッチすると受信機に接続したセンサーステーション（別売）の画面に進みます。

Caution

AURORA9Xにおいてタッチロックスクリーン機能を使用する場合は電波を発射していなければロック機能を使用できません

Section Two

クイックスタートガイド（アクロ）

一般的な機体を例にしたクイックセットアップガイドです。
AURORA 9Xの操作を簡単に習得できます。

もし機体タイプでグライダーを選んだ場合、アクロと重複する機能名が出てきます。

●受信機のサーボ接続チャンネル

単発エンジン-2エルロンの機体例
- CH1：エルロン-1
- CH2：エレベーター
- CH3：スロットル
- CH4：ラダー
- CH5：エルロン-2

2チャンネルグライダー（動力無し）
- CH1：エルロン又はラダー
- CH2：エレベーター

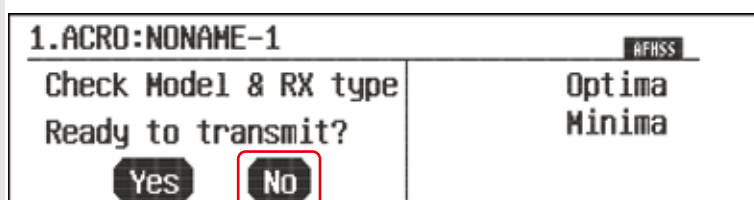
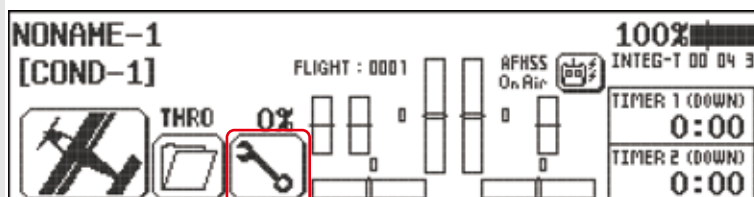
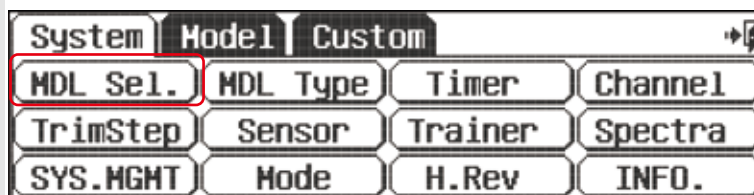
安全の為に電動機体のセットアップ中はプロペラを外してください。

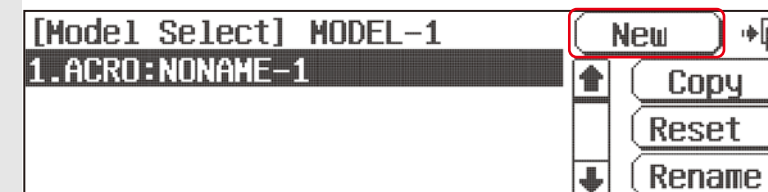
システムメニューの設定

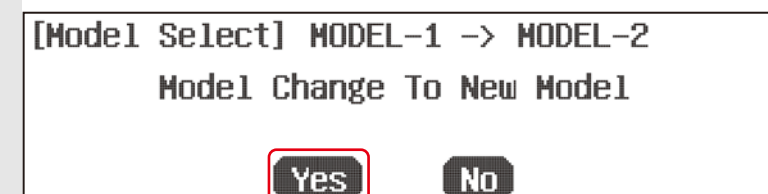
1：送信機の電源をONにします。
（受信機はOFF）

2：最初に電波を出して良いか聞いてくるので「No」をタッチします。

3：これはホームスクリーン画面です。レンチのアイコンをタッチしてシステムメニューに進みます。

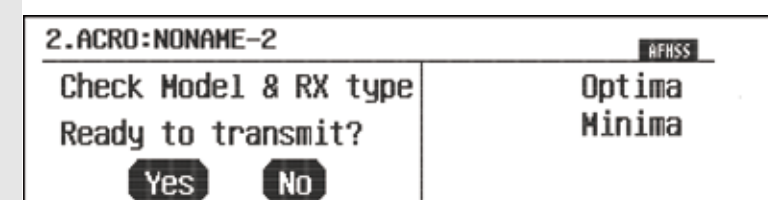
NONAME-1
[COND-1]
FLIGHT : 0001
THRO 0%
AFHSS On Air
100%
INTEG-T 00 04 31
TIMER 1 (DOWN) 0:00
TIMER 2 (DOWN) 0:00

4：他のアイコンには触れないで「MDL Sel」アイコンをタッチします。

システムメニューの設定

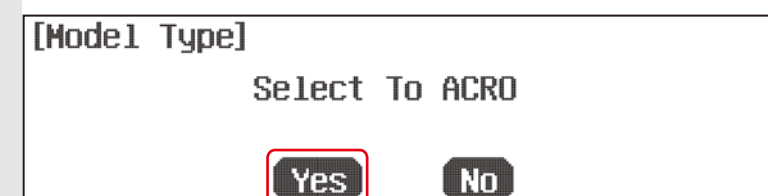
5：モデル選択画面で「New」をタッチして新しいモデルを作成します。

練習の為に、新たなモデルメモリーを新設してトレーニングします。

6：新しく作るモデルメモリーに切り替えて良いか聞いてくるので「Yes」をタッチします。

[Model Select] MODEL-1 -> MODEL-2
Model Change To New Model
Yes No

7：モデル名称の入力画面で機体名を入力します。
- ・Shiftで数字記号の表示になります。
- ・CapsLockで大文字、小文字の表示になります。
- ・完了したら「Enter」をタッチします。

[Model Name] ESC
Model-2 : NONAME-2
q w e r t y u i o p Shift
a s d f g h j k l Enter Del
z x c v b n m Space CapsLock

8：電波の発射を聞いてきますが、未だ設定は完了していないので「No」をタッチします。

9：機体タイプ選択画面が表示されますので「ACRO」をタッチします。

10：機体タイプの確認画面になりますので「Yes」をタッチします。

システムメニューの設定

11. 主翼のタイプを選択してください

Note

「1/2」の表示が出ている場合、続きのページがある事を表します。
この「1/2」アイコンをタッチすると次ページに進めます。
こちらの項目では2ページ目に新たにフライングウイング（エレボン）用の設定が現れます。

a. お使いの機体に適したウイングタイプを選択してください。例としましてエルロンサーボ1個でエルロンを作動させる場合は「1AILE」をタッチしますが機体がセパレートの2エルロンサーボの場合は「2AILE」を
b. タッチして選択して「SET」アイコンでのタッチで完了します。

Note

主翼タイプを選択するとき、オーロラ9Xはその主翼に適した設定項目に自動的に設定されます。例えば、主翼タイプでフラップを設定しない場合は後の設定項目においてフラップコントロール等の設定項目が表示されません。

12：尾翼のタイプを選択します。
「Normal」をタッチして
「SET」で完了します。

13：エンジンの数を選択します。

「Single Engine」をタッチして
「SET」で完了です。

14：引込脚の有無を選択します。

15：スポイラーの有無を選択します。
（YES）又は（No）をタッチします。

システムメニューの設定

16：各サーボをどのスティックやスイッチ、レバーで操作するかの設定画面（Channel Function）になります。ここでは表示のままで仮に設定を行いますので「Yes」をタッチします。

17：設定を確認したら画面右上の「EXIT」ドアアイコンをタッチします。

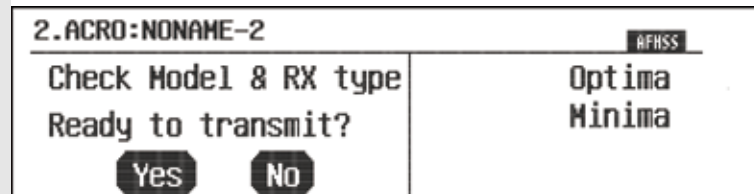
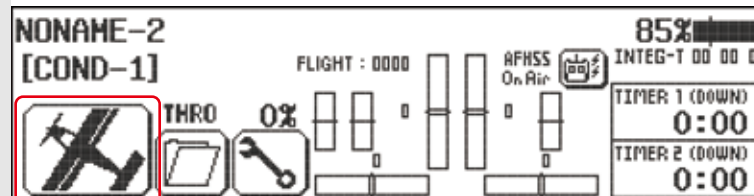
18：ここまで設定したモデルタイプが表示されますので確認します。OKで有れば「EXIT」アイコンをタッチしてモデルセレクト画面に戻ります。

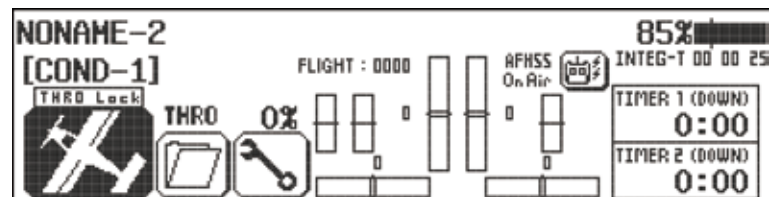
19：モデルセレクト（選択）画面を確認して「EXIT」アイコンをタッチします。

20：システムメニュー画面に戻りましたので、再度「EXIT」アイコンをタッチします。

21：ホームメニュー画面に戻ります。電源をOFFにすると設定は完了します。

モデルメニューの設定

22：送信機の電源をONにして「Yes」をタッチして電波を発射します。

23：ホームスクリーン画面の左下のモデルアイコンをタッチしてモデルメニューに進みます。

Tip

スロットルロック
エンジンが始動した機体や電動機を離陸場所に移動中に誤ってスロットルスティックに触れてプロペラが不用意に回ってしまう事故を防ぐ為の機能です。

画面左下のモデルアイコンを1秒間押し続けるとアイコンは黒になり「THRO LOCK」マークが表示されます。スロットル位置はアイコンを押した時の位置に固定されます。

24：システムメニュー画面には設定した機体で利用できる全ての機能アイコンが収納されています。この画面は2ページあります。

25：システムメニューで「Reverse」アイコンをタッチしてサーボリバース画面を出します。

希望するチャンネルをタッチして「REV」アイコンで方向を設定します。

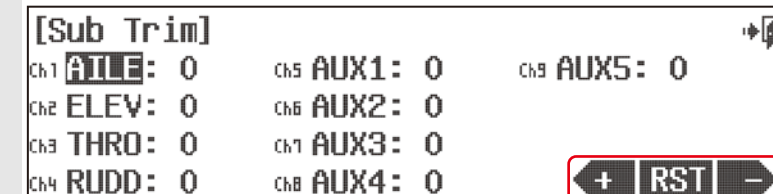
完了したら「EXIT」アイコンで画面を抜けます。

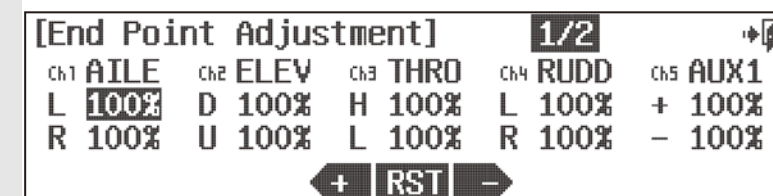
モデルメニューの設定

26：サブトリム「Sub trim」画面を出します。希望するチャンネルをタッチして選択します。数値設定は「＋・RST・－」アイコン部分で行います。RSTで数値は0に戻ります。完了したら「EXIT」アイコンでメニュー画面に戻ります。

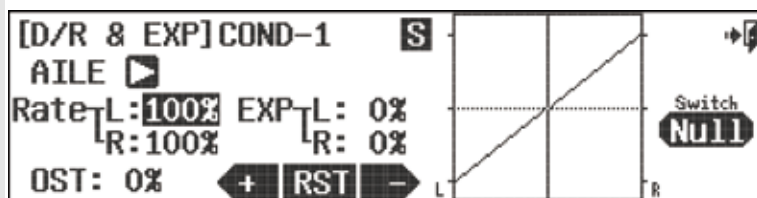
Caution

サブトリムはできるだけ多く使用しないように
サーボホーンとリンケージでニュートラルを合わせてください。

Note

クイックセットアップガイドの目的はAURORA9Xで利用可能な基本設定方法を説明する為にあります。
オーローラ9Xを最大限活用するための練習となりますので、以前の設定に続きまして以降の（EPA/Dual　Late/EXP）についても設定されることを推奨します。

27：エンドポイントアジャスト「EPA」画面に進みます。

サーボの動作角度を左右別レベルに調整する機能です。
調整を希望するチャンネルをタッチしてスティック等を操作します。
すると操作に合わせて数値が反転表示になりますので「＋・RST・－」アイコンで数値調整をします。
完了したら「EXIT」アイコンでシステムメニューに戻ります。
このEPA画面は2ページあります。

モデルメニューの設定

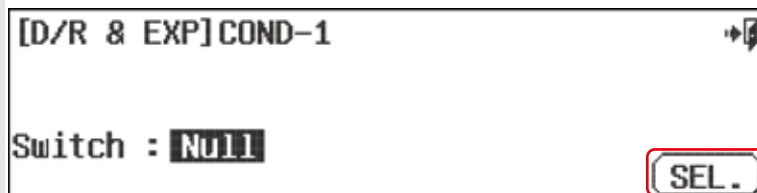
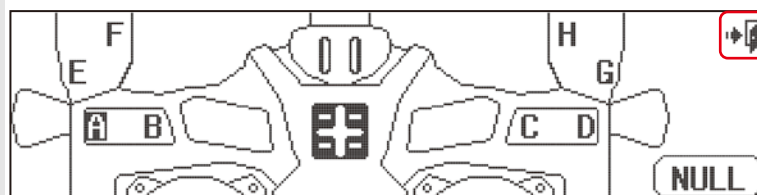
29:システムメニューから「D/R&EXP」
画面を開きます。

この画面では「D/R]デュアルレートと「EXP」エクスポネンシャルを設定できます。
また切替スイッチの選択も行います。
「D/R]デュアルレートは2種類の舵角を切り替える事ができます。
（3Pスイッチを選択すれば3種類の舵角）
機体が離陸や着陸のときは大きな舵角、上空で高速飛行の時は少な目の舵角にすると良いでしょう。
この「D/R」はスティック操作に対し左右（上下）別々に舵角が設定できます。

「EXP」エクスポネンシャルはスティックの動作に対してサーボの動作に
カーブを持たせて舵の効き方を変化させる機能です。

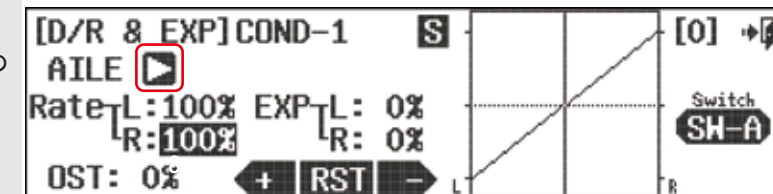
両機能共にスティックを操作すると画面右のグラフでサーボの動作を確認する事ができます。
画面で表示が反転している箇所の数値を「＋ RST －」アイコンで調整できます。
「D/R」はスティックを倒すと反転部分が移動して調整できる向きが変わります。

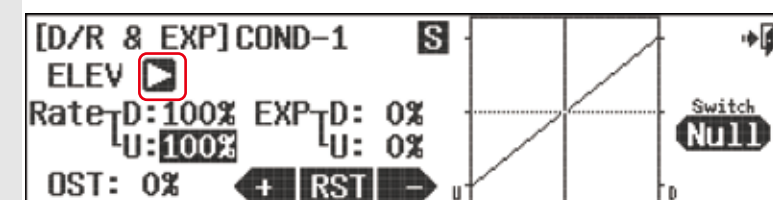
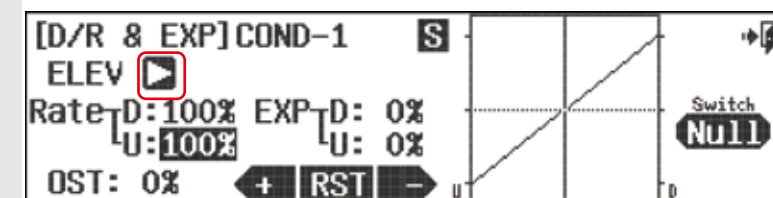
・最初の画面はエルロンの調整です。
・最初にL側とR側を舵角の数値を調整します。画面右で切替スイッチを設定していない場合は、この舵角が適用されます。
・次にスイッチを割当てる為に画面右の「NULL」アイコンをタッチします。
NULLとは何も選択されていないと言う意味です。

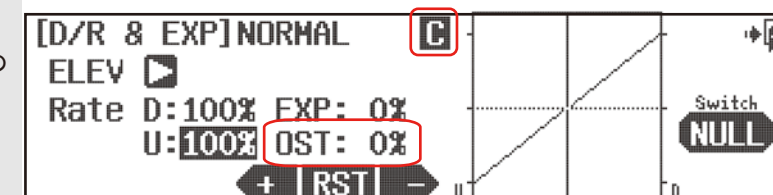
30:スイッチ設定画面になりますので「SEL」アイコンをタッチします。

[D/R & EXP]COND-1
Switch : Null
SEL.

31:送信機上部のイラストが表示され好きなスイッチを選びタッチします。
ここでは「A」スイッチを選びます。

スイッチ選択を解除する場合は「NULL」アイコンをタッチします。
設定が完了したら「EXIT」アイコンで元の画面に戻ります。

モデルメニューの設定

32:最初の「D/R&EXP」画面を表示させます。
今まではエルロンの「D/R」を設定しましたので次にエレベーターの「D/R」を設定します。

・画面の三角マークアイコンをタッチします、すると「AILE」表示が「ELEV」→「RUDD」と切り替ります。

33:エレベーターの画面もエルロン画面の時と同じように各設定を行います。
切替スイッチを別にしたりエルロンとの共用にもできます。

34:「EXP」エクスポネンシャルの設定

画面の「EXP:0%」のアイコンをタッチすると表示が反転してカーブの調整ができます。右側のグラフに、設定したカーブが表示されますのでスティックを操作しながら確認してください。
マイナス側の数値ではニュートラル付近の動作が少なくなり細かな操作が可能です。一方プラス側の数値はニュートラル付近の動作が急になりクイックな反応になります。

35:「OST:0%」と「C」アイコン
これは高度な設定を行う時に使用しますのでここでは設定をせずに説明を終了します。

この「D/R&EXP」設定はフライトコンディションごとに組合わせると
多くの異なった設定が可能になります。

Section Three

クイックスタートガイド（ヘリ）

一般的なピッチコントロールヘリや120°CCPMヘリなどの機体を例にしたクイックセットアップガイドです。
AURORA 9Xの操作を簡単に習得できます。

サーボやアンプなどの他のアクセサリーが受信機に正しく接続されていることを確認し下記の設定に移ってください。

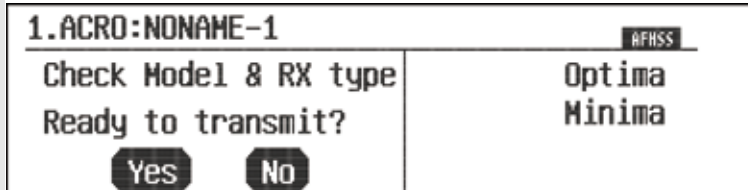
●受信機のサーボ接続チャンネル
- CH1：エルロン（ロールサイクリック）
- CH2：エレベーター（ピッチサイクリック）
- CH3：スロットル
- CH4：ラダー（テールローターピッチ）
- CH5：ジャイロ感度
- CH6：コレクティブピッチ

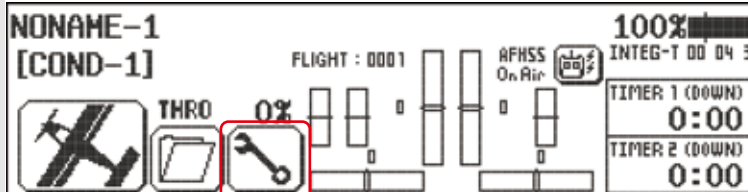
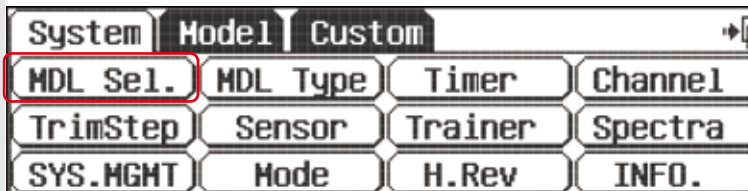
システムメニューの設定

1：送信機の電源をONにします。（受信機の電源は安全上OFFにします。）

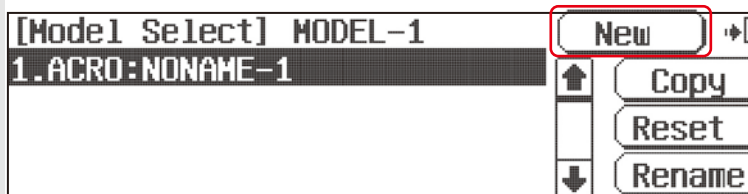
Warning

安全上、電動ヘリのセットアップ中、スピードコントローラーに
モーターは絶対に接続しないでください。

2：最初の画面で「No」をタッチします。
全ての設定が完了するまで電波は出さないでください。

1.ACRO:NONAME-1
Check Model & RX type
Ready to transmit?
Yes No
Optima
Minima

3：これはホームスクリーン画面です。
レンチのアイコンをタッチしてシステムメニューに進みます。

4：他のアイコンには触れないで
「MDL Sel」アイコンをタッチします。

5：モデル選択画面で「New」をタッチして
新しいモデルを作成します。

システムメニューの設定

Note

ここではモデル2に切り替えることで新しく飛行データを設定できます。また、設定練習のためにー つ自由に設定するスロットを確保しておくことをお勧めいたします。

6：新しく作るモデルメモリーに切り替えて良いか聞いてくるので「Yes」をタッチします。

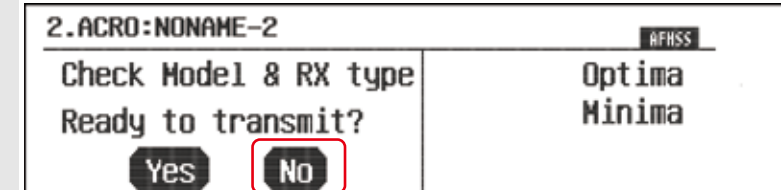
[Model Select] MODEL-1 -> MODEL-2
Model Change To New Model

No

7：モデル名称の入力画面で機体名を入力します。

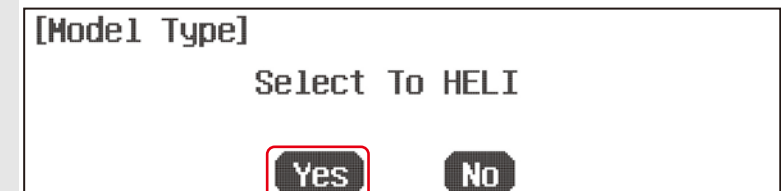
・Shiftで数字記号の表示になります。
・CapsLockで大文字、小文字の表示になります。
・完了したら「Enter」をタッチします。

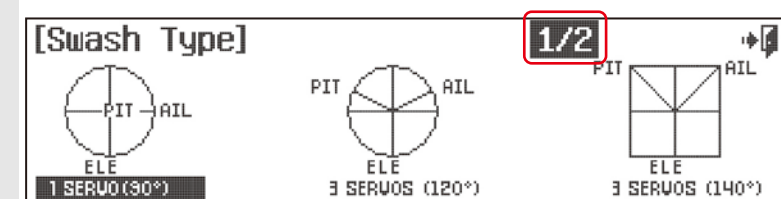
8：電波の発射を聞いてきますが、未だ設定は完了していないので「No」をタッチします。

2.ACRO:NONAME-2
Check Model & RX type
Ready to transmit?
Yes No
Optima
Minima

9：機体タイプ選択画面が表示されますので「HELI」をタッチします。

[Model Type]

GLID

10：機体タイプの確認画面になりますので「Yes」をタッチします。

11：機体のスワッシュプレートの種類を選択してタッチします。

このページは2ページあります。

システムメニューの設定

「1/2」の表示が出ている場合、続きのページがある事を表します。
この「1/2」アイコンをタッチすると次ページに進めます。

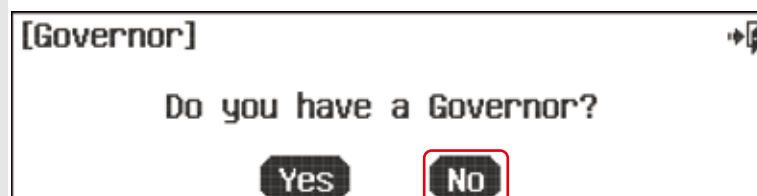
フライトシュミレーターや弊社SLT対応のヘリコプターシリーズはスワッシュタイプ1サーボ90°にて設定を行いますのでご注意ください。

下記の設定において、ユーザー自身で選択することにより後に表示されるモデルメニューが自動的に選択した設定に適したモデルメニューとなります。仮にガバナー使用をYESとした場合はガバナー設定に対応する設定メニューが追加されます。

12：ガバナーの使用を聞いてきますので「No」をタッチします。

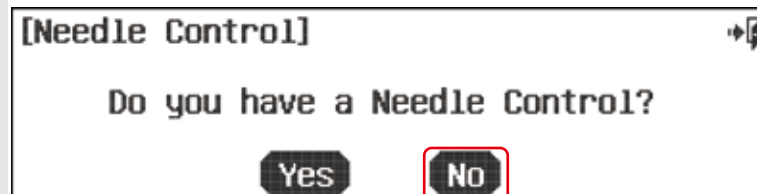
「Yes」をタッチするとガバナー設定メニューが追加されます。
詳細はP142をご覧ください

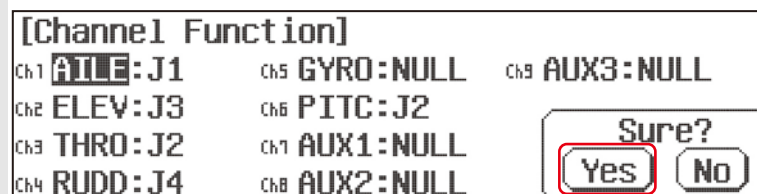
[Governor]

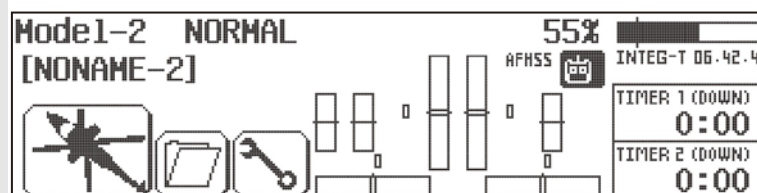
Do you have a Governor?

13：ニードルコントロールの使用を聞いてきますので「No」をタッチします。

「Yes」をタッチするとニードルコントロール設定メニューが追加されます。
詳細はP132をご覧ください

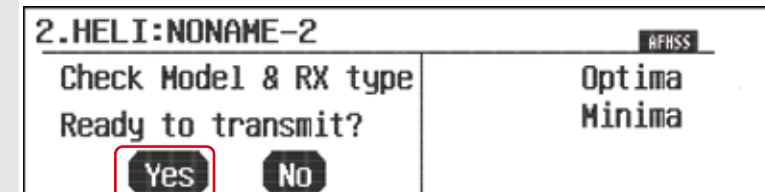
[Needle Control]

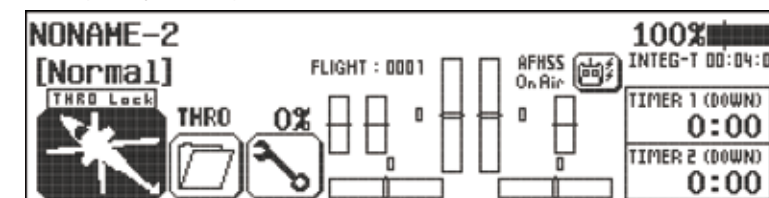
Do you have a Needle Control?

14：各サーボをどのスティックやスイッチ、レバーで操作するかの設定画面（Channel Function）になります。
ここでは表示のままでOKなので「Yes」をタッチします。

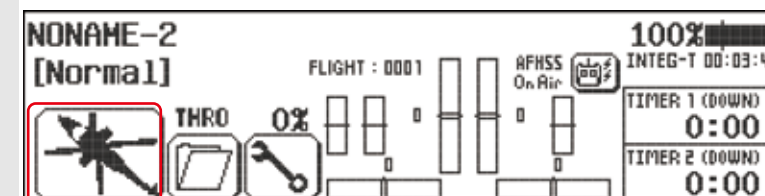
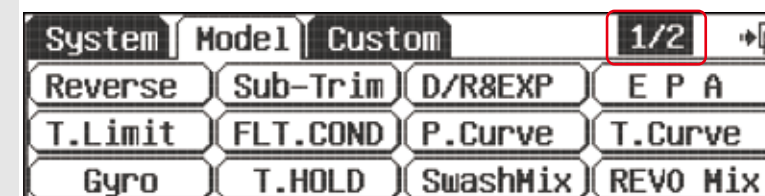
[Channel Function]
Ch1 AILE:J1 Ch5 GYRO:NULL Ch9 AUX3:NULL
Ch2 ELEV:J3 Ch6 PITC:J2
Ch3 THRO:J2 Ch7 AUX1:NULL Sure?
Ch4 RUDD:J4 Ch8 AUX2:NULL Yes No

15：上記の画面で「Yes」をタッチするとメイン画面に戻ります。

そして、モデルセットアップの準備のために一度送信機の電源を切ってください。

モデルメニューの設定

16：送信機の電源を再投入すると電波の発射確認画面になりますので「Yes」をタッチしてサーボを動かします。

Tip

スロットルロック
エンジンが始動した機体や電動機を離陸場所に移動中に誤ってスロットルスティックに触れてローターが不用意に回ってしまう事故を防ぐ為の機能です。

NONAME-2
[Normal]
THRO Lock
FLIGHT : 0001
THRO 0%
100%
INTEG-T 00:04:07
TIMER 1 (DOWN) 0:00
TIMER 2 (DOWN) 0:00

画面左下のモデルアイコンを1秒間押し続けるとアイコンは黒になり「THRO LOCK」マークが表示され、スロットル位置はアイコンを押した時の位置に固定されます。

17：ホームスクリーン画面の左下のヘリマークのアイコンをタッチするとモデルメニューに進みます。

18：こちらの画面がメインスクリーンとなり（Model）の設定では2ページあります。
ここで略すべての設定を行い幅広いRCモデルに対応した設定が可能です。

送信機のスティックを操作してもサーボ動作の端端でリンケージがロックしない事を確認してください。ロックしている場合はリンケージを再調整してください。ロックしたままですとサーボが故障します。

このヘリモードでは以下の機能が使用できます。

Reverse	サーボの回転方向を変更します
Sub-Trim	サーボのニュートラル位置を細かく調整します
EPA	サーボの左右（上下）の舵角を別々に調整します
Gyro	ジャイロの感度調整/切替を設定します
Pitch Curve	ピッチの動作カーブを自在に設定します
Throttle Curve	スロットルの動作カーブを自在に設定します
D/R&EXP	デュアルレート/エクスポ（カーブ）の調整を行います

高度な設定の前にまずは下記に記載するヘリの基本的な設定を行いAURORA9Xの操作に慣れていただくことを推奨いたします。

19：システムメニューで「Reverse」アイコンをタッチしてサーボリバース画面を出します。

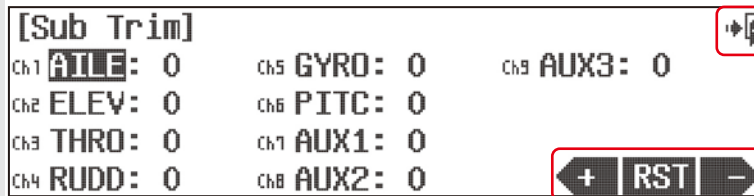
[Servo Reverse]

Ch1 AILE: NOR	Ch5 GYRO: NOR	Ch9 AUX3: NOR
Ch2 ELEV: NOR	Ch6 PITC: NOR	
Ch3 THRO: NOR	Ch7 AUX1: NOR	
Ch4 RUDD: NOR	Ch8 AUX2: NOR	REV

希望するチャンネルをタッチして「REV」アイコンで方向を設定します。
確認アイコンが出ますので動作方向を変更する場合は「Yes」をタッチします。
完了したら「EXIT」アイコンで設定を終了できます。

20：サブトリム「Sub trim」画面を出します。

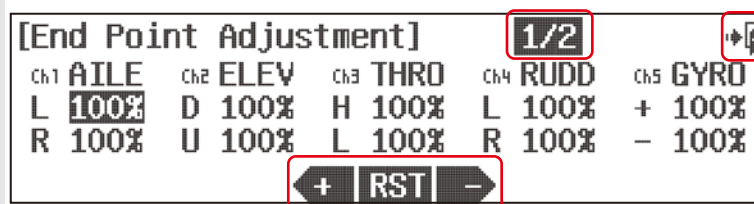
[Sub Trim]

Ch1 AILE: 0	Ch5 GYRO: 0	Ch9 AUX3: 0
Ch2 ELEV: 0	Ch6 PITC: 0	
Ch3 THRO: 0	Ch7 AUX1: 0	
Ch4 RUDD: 0	Ch8 AUX2: 0	+ RST −

希望するチャンネルをタッチして選択します。
数値設定は「＋・RST・－」アイコン部分で行いRSTで数値は0に戻ります。
完了したら「EXIT」アイコンでメニュー画面に戻ります。

サブトリムはできるだけ多く使用しないようにサーボホーンとリンケージでニュートラルを合わせてください。ヘリにおいてニュートラルを合わせる場合はまず、ピッチカーブが初期値である事を確認し、お手持ちの機体の説明書に従いリンケージを適切な長さにし、サーボホーンを指定のニュートラル位置に合わせてください。

その後、スロットルスティックを中立にしてサブトリムを入れる必要があればこちらを使用し、ホーンのニュートラルを正確に出してください。最後にスワッシュプレートの水平を確認し同時にブレードの角度が0°になるように調整してください。

21：エンドポイントアジャスト「EPA」画面に進みます。

詳細はP85をご覧ください。

EPAはサーボの動作角度を左右別レベルに調整する機能です。調整を希望するチャンネルをタッチしてスティック等を操作します。すると操作に合わせて数値が反転表示になりますので「＋・RST・－」アイコンで数値調整をします。完了したら「EXIT」アイコンでシステムメニューに戻ります。このEPA画面は2ページあります。

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM

モデルメニューの設定

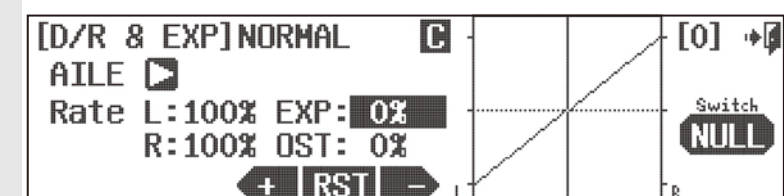
EPAの詳細な説明はP85にも記載しております。市販のピッチゲージで角度を確認しこちらの設定でピッチ角のストロークの設定が可能です。電動ヘリの場合、安全の為に調整中は必ずスピードコントローラー（ESC）からモーターを外してください。

ご使用のヘリのスワッシュタイプにご注意ください。
1SERVO（90°）の場合はこちらのEPAの設定でピッチや他の舵のストローク調整が可能です。
3SERVO（120°）の場合はSwashMixで設定をしてください。
Swash MixはP136にて詳細説明がございます。

EPA機能をエンジンのスロットルキャブレターのハイとロー位置の調整に利用すると便利です。
ESCが最スローを認識しない場合はこちらをEPAの設定を変更することで改善する場合があります。

22：ジャイロ感度設定
AURORA9Xでは一つチャンネルを設けることで送信機側で感度の設定を行うことが可能です。
詳細はP140をご覧ください。

23：ピッチカーブ＆スロットルカーブ設定
飛行させる場合はピッチカーブ＆スロットルカーブ設定が必要となります。
詳細はP130をご覧ください。

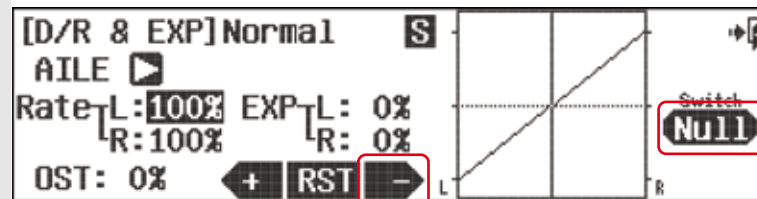
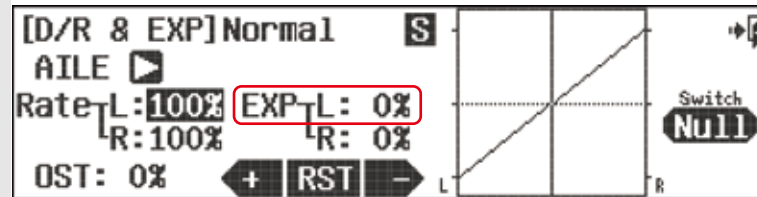
24：システムメニューから「D/R&EXP」画面を開きます。

モデルメニューの設定

・Using Exponetial Rates
この画面ではデュアルレートとエクスポネンシャルを設定します。また切替スイッチの選択も行います。
「D/R」デュアルレートは2種類の舵角を切り替える事ができます。
この「D/R」はスティック操作に対し左右（上下）別々に舵角の設定ができます。

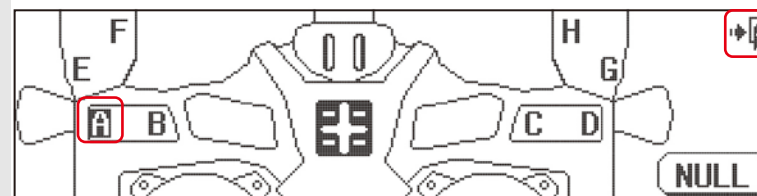
「EXP」エクスポネンシャルはスティックの動作に対してサーボの動作にカーブを持たせて舵の効き方を変化させる機能です。両機能共にスティックを操作すると画面右のグラフでサーボの動作を確認する事ができます。
画面で表示が反転している箇所の数値を「＋RST －」アイコンで調整できます。
「D/R」ではスティックを倒すと反転表示部分が移動します。

例としてエルロンの調整です。

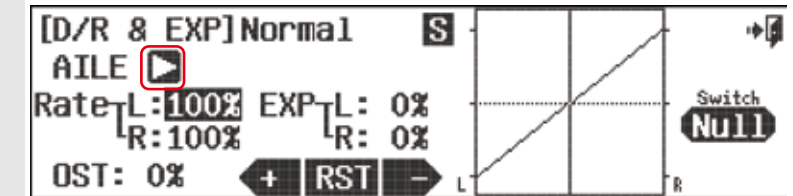
・最初にL側とR側を舵角の数値を調整します。画面右で切替スイッチを設定していない場合は、この舵角が適用されます。

・次にスイッチを割当てる為に画面右の「NULL」アイコンをタッチします。NULLとは何も選択されていないと言う意味です。

25：スイッチ設定画面になりますので「SEL」アイコンをタッチします。

26：送信機上部のイラストが表示され好きなスイッチを選びタッチします。ここでは「A」スイッチを選びます。

スイッチ選択を解除する場合は「NULL」アイコンをタッチします。
設定が完了したら「EXIT」アイコンで元の画面に戻ります。

モデルメニューの設定

27：「EXP」エクスポネンシャルの設定

D/R＆EXPの詳細な設定はP86にも記載しております。

画面の「EXP：0%」のアイコンをタッチすると表示が反転してカーブの調整ができます。
右側のグラフに、設定したカーブが表示されますのでスティックを操作しながら確認してください。
マイナス側の数値ではニュートラル付近の動作が少なくなり細かな操作が可能です。一方プラス側の数値はニュートラル付近の動作が急になりクイックな反応になります。

Note

この「D/R&EXPO」機能はフライトコンディションごとに設定する事ができます。

これまでの説明はヘリコプターでの設定の基本的な部分となります。
その他の詳細な設定をしたい場合は下記のページを参照ください。

ピッチ＆スロットルカーブ……P-130
スロットルホールド……P-135
フライトコンディション、アイドルアップ……P-128
ジャイロ感度……P140

システムメニュー System Menu

AURORA 9Xは大きく分けて二種類のメニューグループを持ちます。基本的な送信機の設定を行うのがシステムファンクションメニュ－です。そして機体ごとに色々な機能の設定行うのがモデルファンクションメニューです。

ここからお読みになる前に、理解が早まりますのでクイックスタートガイドをお読みになる事を推奨します。

下記に記載する項目はシステムメニューにて表示されます。

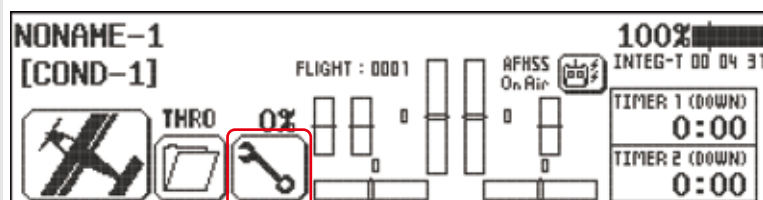
●システムメニューの機能

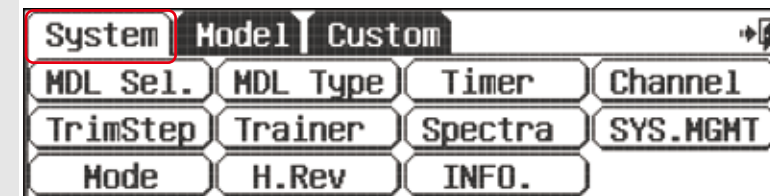
Model Select menu	新規の機体モデルの作成 モデルメモリーの切替 モデルメモリーのコピー モデルメモリーの初期化 モデルメモリーの名称変更
MDL Type	モデルタイプの変更（ACRO、GLID、HELI）
Timer	タイマー機能
Channel	チャンネルファンクション機能
TrimStep	デジタルトリムのステップ調整
Sensor	テレメトリーセンサー機能
Trainer	トレーナー（教習）機能
Spectra	電波の変調信号の切替（Optima Minima SLT）
SYS.MGMT	バックライトオプション タッチロックオプション タッチレスポンスオプション （スクリーンキャリブレーション） ワーニングオプション
MODE	スティックモードオプション
H.Rev	ハードウェアリバースオプション
Info	個別ID＆Ver情報

1：送信機の電源をONにします。

2：電波の発射を聞いてきますので現在は「No」をタッチします。

電波を出してサーボ動作を確認しながら設定したいときは「Yes」をタッチしてください。

3：システムメニューに入るにはホームメニュー画面のレンチ型のアイコンをタッチします。

システムメニュー System Menu

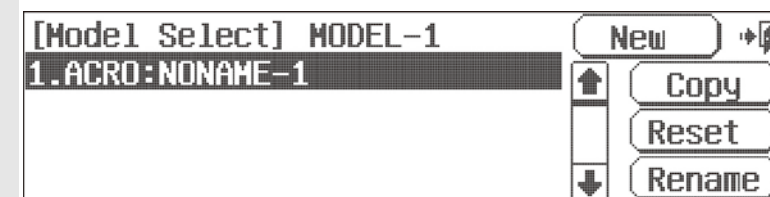
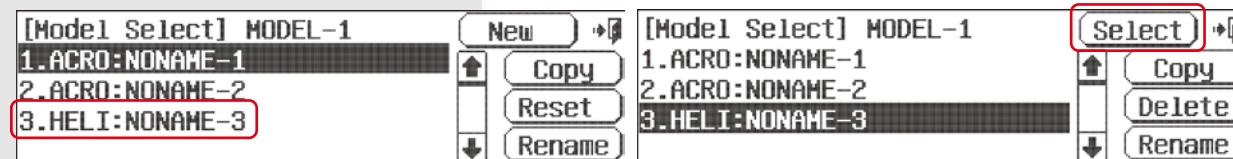
システムメニューの各機能のアイコンが一覧で表示されます。
希望するアイコンをタッチして、その画面に進みます。

モデルセレクトメニュー Model Select

ここでは次の作業が行えます。

1：新しいモデルメモリーの作成
2：モデルメモリーの切替
3：モデルデーターのコピー
4：モデルメモリーのリセット
5：モデルメモリーの名称変更

1：新しいモデルメモリーの作成
モデルメモリーは最大30台まで登録できますがAURORA 9Xでは新規に追加登録する方式になっています。

・システムメニューより「MDL Sel」を選択します。

新しくモデルを作成するには「NEW」アイコンをタッチします。

2：モデルメモリーの切替え

・モデル一覧の中から希望するモデルを見つけてタッチします。
・「Select」をタッチして切り替えます。
・確認の画面で「Yes」をタッチします。
・電波発射を聞いてきますので確認するまで「No」をタッチします。

モデルセレクトメニュー　Model Select

3：モデルメモリーのコピー

・コピーしたいモデルを選択します。
・「Copy」アイコンをタッチします。

・「New」アイコンをタッチします。
・モデルコピーの許可を聞いてきますので「Yes」をタッチします。
・「EXIT」アイコンのタッチで完了です。

4：モデルメモリーのリセットと消去

・モデルセレクトメニューより「MDL Sel」を選択してください
・リセットや消去をしたいモデルをタッチして選択します。
・選択したモデルをリセットし初期値に戻したい時は「Reset」を押します。現在選択されているモデルNo.でこの操作が可能です。
・メモリーを消去するには消去したいメモリーをタッチして「Delete」をタッチすると登録は消去されます。現在選択されていないモデルNo.でこの操作が可能です。

・いずれも確認の画面が出ますので「Yes」をタッチして完了です。
・「EXIT」のタッチで前の画面に戻ります。

[Model Delete] MODEL-1
Model Delete NONAME-1

現在選択されているモデルメモリーは消去できません

5：モデルメモリーの名称変更

・「Model Select」画面にします。
・名称を変更したいメモリーをタッチします。
・「Rename」をタッチします。
・キーボードが表示されますので好きな名称に変更します。
・完了したら「Enter」をタッチします。

・Shiftで数字記号の表示になります。
・CapsLockで大文字、小文字の表示になります。
・完了したら「Enter」をタッチします。

モデルタイプメニュー　Model Select

モデル（機体）のタイプを選択するとモデルタイプに適合した機能が自動的に選択されて表示されます。モデルメモリーを新しく登録するときに任意のアイコンをタッチしてご使用のモデルに適したタイプを設定してください。
それぞれのモデルタイプにて、そのモデルに適した設定項目にすることができますので9Xのメニュー画面には必要以上の機能は表示されません。使いやすく機体に合わせシンプルな送信機になります。

ACRO		エンジンや電動の一般的な飛行機の時に選択します。
GLID		グライダー（電動含む）の時に選択します。
HELI		ヘリコプターの時に選択します。

モデルタイプ　アクロのメニュー

・システムメニューより「MDL Type」を選択します。
・「Model」アイコンをタッチします。

・「ACRO」をタッチします。
・確認してきますので「Yes」をタッチします。

・主翼のエルロンやフラップの制御数であるウイングタイプを選択します。
この画面の2ページ目は無尾翼タイプです。ウイングタイプを選択したら「SET」をタッチします。

・尾翼の種類を選択します、通常型の場合は「Normal」です、「SET」をタッチして完了です。

・無尾翼の場合ラダーの有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

モデルタイプメニュー Model Select

・画面はエンジン(モーター)の数を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Engine Type]
Single Engine　Dual Engine
SET

・画面は引込脚の有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

引込脚を有に選択した場合、(P-61)のチャンネルファンクションで
引込脚をどのスイッチで操作するか設定しなくてはなりません。

・画面はエアブレーキ(スポイラー)の有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

・画面はどの操作をどのスティック等で操縦するか聞いてきます。
変更があれば(P-61)を参照して変更設定してください。
「Yes」で完了です。

・今までの設定一覧が表示されます。確認して「EXIT」でモデルタイプ画選画面に戻ります。
これでACROタイプの主要設定は完了です。

モデルタイプメニュー Model Select

モデルタイプ グライダーのメニュー

・システムメニューより「MDL Type」を選択します。

・「Model」アイコンをタッチします。

[Model Type]
Model　Wing　Tail
2AILE　Normal
NONE

・「GLID」をタッチします。
・確認してきますので「Yes」をタッチします。

[Model Type]
ACRO　GLID　HELI

[Model Type]
Change To GLID
Yes　No

・エルロンとフラップの制御数のウイングタイプを選択します。
・このページの2ページ目は無尾翼タイプです。ウイングタイプを選択したら「SET」をタッチします。

[Wing Type] 1/2
1AILE　1AILE+1FLAP　1AILE+2FLAP
2AILE　2AILE+1FLAP　2AILE+2FLAP
SET

[Wing Type] 2/2
Type : Flying Wing(Elevon)
2AILE　2AILE+1FLAP　2AILE+2FLAP
SET

[Tail Type]
Normal　V-tail　Ailevator
SET

[Tail Type]
NONE　1 Servo　2 Servo
SET

・尾翼の種類を選択します、通常型は「Normal」です、「SET」をタッチして完了です。

・無尾翼の場合、ラダーの有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

・動力(モーター)の有無を聞いてくるので選択しタッチします。

[Motor Control]
Do you have a Motor Control?
Yes　No

・引込脚の有無を聞いてくるので選択してタッチします。

[Retracts]
Do you have a Retracts?
Yes　No

モデルタイプメニュー　Model Select

・エアブレーキ（スポイラー）の有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Spoiler]

Do you have a Spoiler?

Yes　No

・画面はどの操作をどのスティック等で操縦するか聞いてきます。変更があれば変更設定してください。「Yes」で完了です。

[Channel Function]

Ch1 AILE:J4	Ch5 FLAP:LS	Ch9 AUX3:NULL
Ch2 ELEV:J2	Ch6 FLP2:LS	
Ch3 AIL2:J4	Ch7 AUX1:NULL	
Ch4 RUDD:J1	Ch8 AUX2:NULL	

Sure?　Yes　No

・今までの設定一覧が表示されます。確認して「EXIT」でモデルタイプ選択画面に戻ります。

[Model Type]

Model　Wing　Tail

2AILE+2FLAP　Normal

MOTOR

モデルタイプ ヘリメニュー

・「MDL Type」画面を出して「Model」をタッチします。

[Model Type]

Model　Wing　Tail

2AILE+2FLAP　Normal

MOTOR

・「HELI」をタッチします。

[Model Type]

ACRO

GLID

HELI

・確認してきますので「Yes」をタッチします。

[Model Type]

Change To HELI

Yes　

モデルタイプメニュー　Model Select

お使いの機体の説明書に従い正しいスワッシュタイプを選択してください。

・ガバナーの使用を聞いてきますので選択します。

[Governor]

Do you have a Governor?

・ニードルコントロールの使用を聞いてきますので選択します。

[Needle Control]

Do you have a Needle Control?

・画面はどの操作をどのスティック等で操縦するか聞いてきます。変更があれば変更設定してください。「Yes」で完了です。

[Channel Function]

Ch1 AILE:J4	Ch5 GYRO:NULL	Ch9 AUX3:NULL
Ch2 ELEV:J2	Ch6 PITC:J3	
Ch3 THRO:J3	Ch7 AUX1:NULL	
Ch4 RUDD:J1	Ch8 AUX2:NULL	

Sure?　Yes　No

・今までの設定一覧が表示されます。確認して「EXIT」でモデルタイプ選択画面に戻ります。

[Model Type]

Model　Wing　Tail

1AILE　Normal

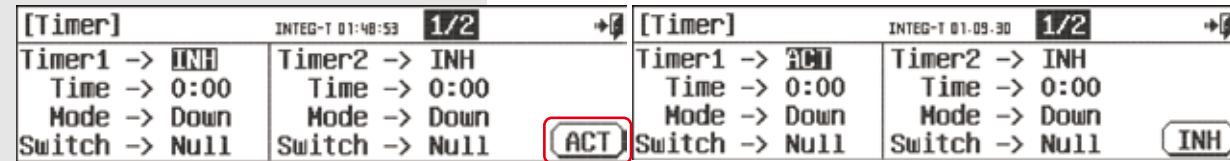
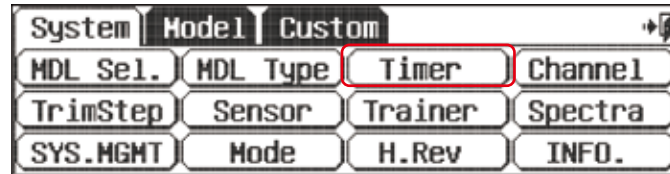
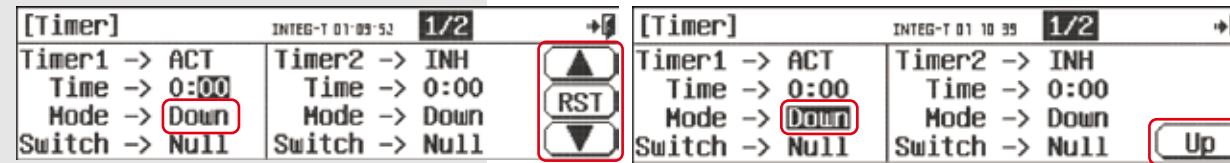
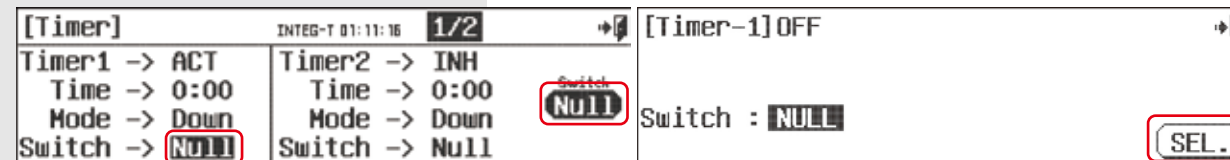
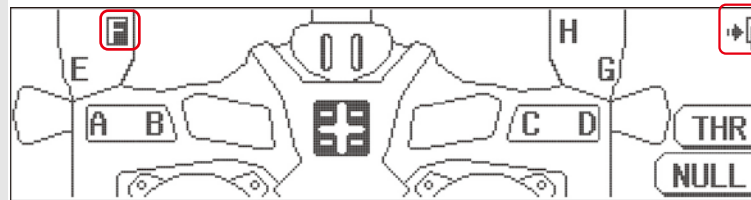
NONE

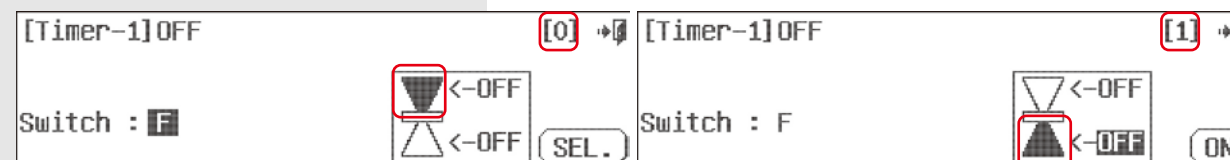
タイマーメニュー Timer Menu

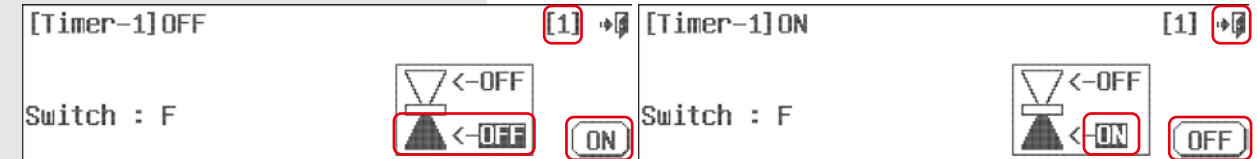
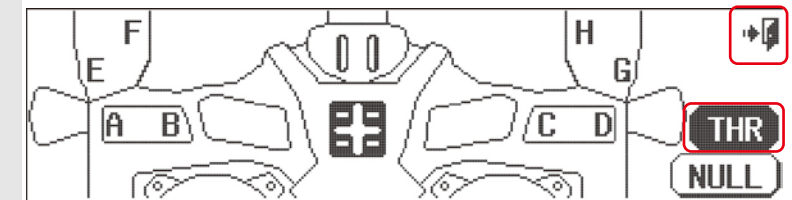
・AURORA9Xには二つの個別タイマー機能とカウントタイマー機能を有しております。
カウントタイマーはプロポの積算時間とフライト回数がメニュー画面に表示され設定の変更も可能です。

・最初、タイマーは解除状態なので「ACT」をタッチして動作状態にします。

[Timer] INTEG-T 01:48:53 1/2
Timer1 -> INH Timer2 -> INH
Time -> 0:00 Time -> 0:00
Mode -> Down Mode -> Down
Switch -> Null Switch -> Null ACT

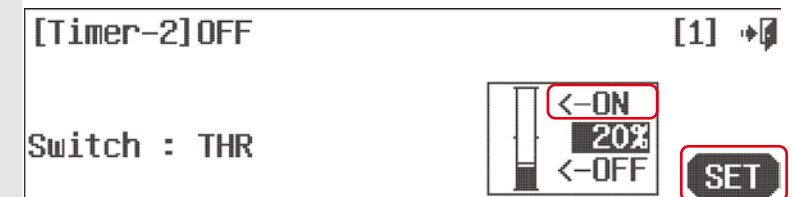
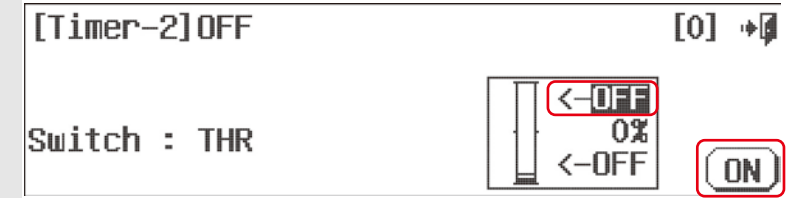
[Timer] INTEG-T 01:09:30 1/2
Timer1 -> ACT Timer2 -> INH
Time -> 0:00 Time -> 0:00
Mode -> Down Mode -> Down
Switch -> Null Switch -> Null INH

・タイマーの時間設定は分と秒の部分をタッチして「▲RST▼」で設定します。
・「Mode」でアップタイマー/ダウンタイマーを選択します。

・タイマーのSTART/STOPを行うスイッチを選択します。
・「NULL」をタッチして「SEL」でスイッチ選択画面に入ります。

・この画面でタイマーのSTART-STOPを行うスイッチをタッチして決めます。
例としてに「F」を選択した後に「EXIT」をタッチします。

全てのスイッチで設定可能です。
スイッチHのリターンスイッチは通常、トレーナーの切り替えやスロットルカットなどに使用します。

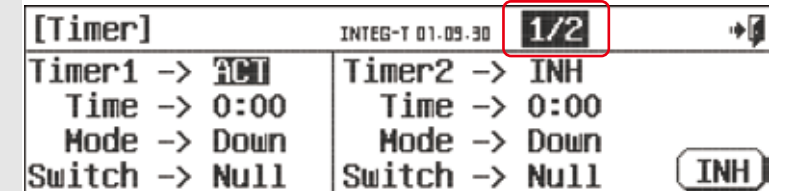
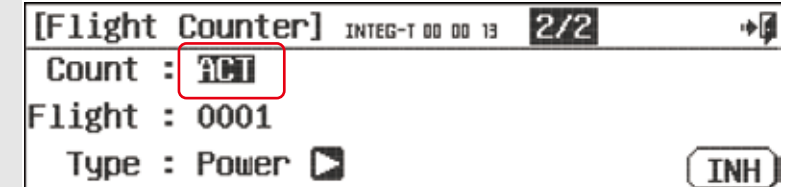
・Fスイッチを動かすと画面も反応します。アイコンタッチで好きな方向でON-OFFが設定できます。

タイマーメニュー Timer Menu

・スイッチを任意のポジションにしてください
・画面のスイッチ表示の何れかをタッチしてください
・機能させる場合は右下のON/OFFアイコンをタッチしてください。
・完了し前頁に戻る場合はEXITのアイコンをタッチしてください。

・タイマーはスロットルスティックでもON-OFFできます。
スイッチ選択画面で右端アイコンを「THR」→「EXIT」とタッチします。

スロットルスティックでのタイマー操作

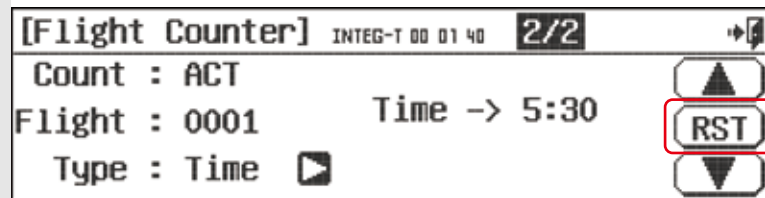
・スロットルのどの位置でタイマーをON-OFFするか設定します。

・スティックを操作し画面を確認しながら上下のON-OFFを選択します。

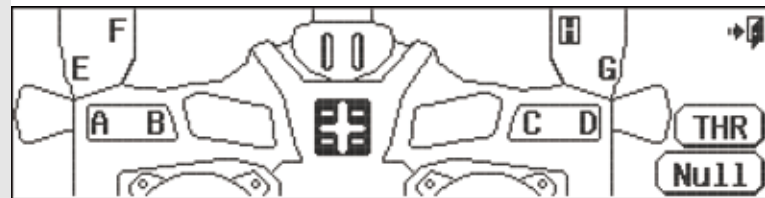
・次に切り換えたい位置にスティックを操作し、%アイコンを押した後、「SET」をタッチします。

フライトカウンター
フライトカウンターはメイン画面にフライト回数をカウントし表示することが可能です。下記に設定方法を記載します。

・1/2アイコンをタッチして2ページ目に移行します。

・Count右のINHアイコンを選択し、右下のACTアイコンをタッチします。

タイマーメニュー　Timer Menu

・「▲RST▼」アイコンを使用し希望するフライト回数に設定します。
設定したカウント数より加算されていきます。

・(RST)をタッチすると数値がリセットされます。

・フライト回数のカウント方法を設定します。
（デフォルトでは電源スイッチのON・OFFにてカウントします）

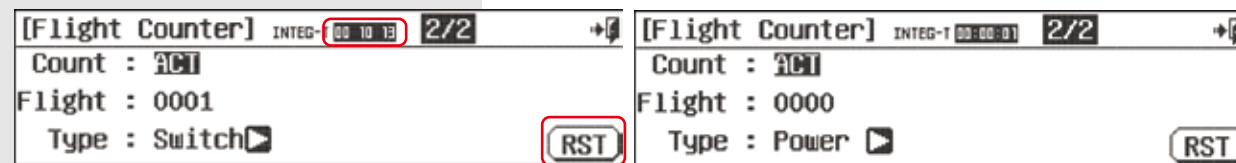
・Typeをタッチするとカウント方法が切り替わります。
・Timeを選択するとUp/Down RST　アイコンを使用し時間を設定することが可能です。Timeの設定では送信機の電源を入れてから任意に設定した時間が経過したときカウントします。

・Switchを選択すると任意で選択したSwitchを使用しフライトをカウントすることが可能です。
（デフォルトではスイッチHに設定されています）
また、こちらでもタイマーメニュー同様にカウントをスロットルスティックと連動させることが可能です、設定法は前項をご覧ください。

The Integral Timer
・インテグラルタイマーは送信機の電源が入っている時間を積算するタイマーです。

・インテグラルタイマーリセット

・システムメニューより「Timer」を選択します。

・右上のインテグラルタイマー部分を選択し反転させ「RST」をタッチするとリセットされます。

・「Exit」で設定を完了します。

チャンネルファンクションメニュー　Channel Menu

この画面は、受信機のチャンネル番号、操作機能種類、そして操作スティックや操作スイッチを自由に割り当てる事ができる画面です。
ご自身に合った操作しやすい送信機にカスタマイズできます。

●例としてチャンネル9番にNeedleを設定します。

1:システムメニューより(Channel)を選択します。

2:「AUX5」→「SET」の順でタッチします。

3:操作機能を選択します。

4:「Needle」→「SET」の順でタッチします。

Note

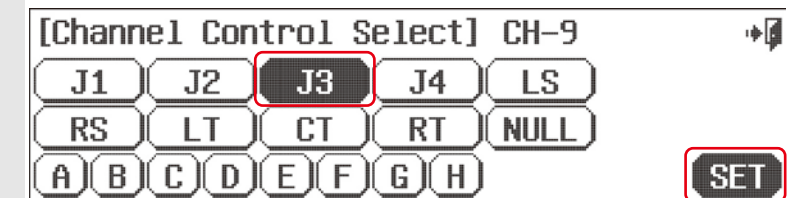
この画面は2ページあります。「1/2」アイコンをタッチすると次ページに進めます。

5:「EXIT」で前の画面に戻ります。

6:スイッチを選択します。最初は「NULL」で何も選択されていません。

7:「NULL」→「SET」とタッチします。

8:ここでフューエルミクスチャの入力のスロットルスティックを選択します。
（本例ではJ3）

9:「SET」→「EXIT」で設定完了です。

トリムステップ Trim Step

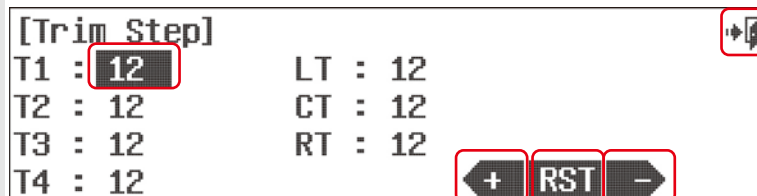
スティックのトリムと3個のデジタルスイッチにて、1クリックでのサーボの動作角度をお好みに調整できます。

1：システムメニュー画面で「TrimStep」を選択します。

2：希望するトリムやデジタルスイッチをタッチして選択します。

3：「＋・RST・－」アイコンで数値を増減します。「RST」で初期値に戻ります。

4：設定が完了したら「EXIT」アイコンでシステムメニュー画面に戻り設定を確定します。

Note

数値は1～200です。数値が小さいほどトリム1コマは少ない動きになります。
一般的推奨値は12です。

センサーメニュー Sensor Mene

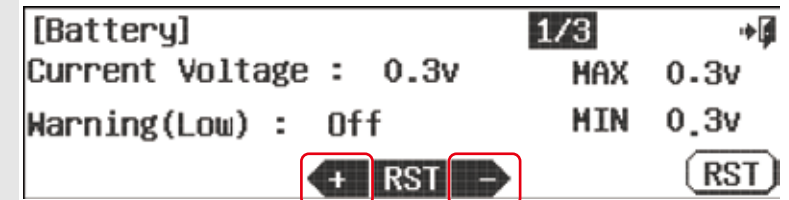
オプティマ受信機を使用するとテレメトリー機能を使用することができます。

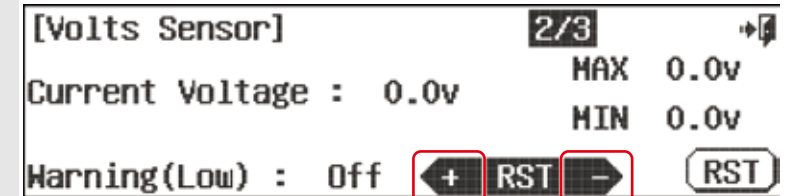
1: システムメニューより「sensor」を選択します。

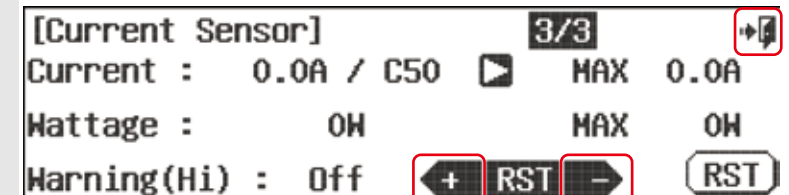
右の画像のようにその他のセンサーを取り付けていない場合はバッテリーの情報のみ表示されます。

[Sensor]
Battery

2: 最初の画面では受信機電源の電圧が表示されます。
現在の電圧とその最大値と最小値が表示され「＋RST－」を使用し警告電圧の設定変更ができます。

[Battery] 1/3
Current Voltage : 0.3v MAX 0.3v
Warning(Low) : Off MIN 0.3v
+ RST － RST

3: 次のページではオプションの電圧センサーを使用した場合に動力電源などの電圧が表示されます。
現在の電圧とその最大値と最小値が表示され「＋RST－」を使用し警告電圧の設定変更ができます。

[Volts Sensor] 2/3
Current Voltage : 0.0v MAX 0.0v
MIN 0.0v
Warning(Low) : Off + RST － RST

4:次のページではオプションの電流センサーを使用した場合に動力電源などの電流値が表示されます。現在の電流値とその最大値と最小値が表示され「＋RST－」を使用し警告電流値の設定変更ができます。
電圧センサーを併用することで消費電力も表示可能です。

[Current Sensor] 3/3
Current : 0.0A / C50 MAX 0.0A
Wattage : 0W MAX 0W
Warning(Hi) : Off + RST － RST

5:「EXIT」のアイコンで設定を終了します。

・HTS-SS Advance センサーステーションの使用

オーローラ9Xオプションのテレメトリーセンサーを使用することで機体の情報をリアルタイムに表示することができます。

Note

HTS-SSアドバンスで使用可能な各種センサーの機能説明はセンサーステーション付属の説明書をご覧ください。

センサーメニュー Sensor Mene

1:HTS-SS　アドバンスにセンサーを接続し、AURORA9Xと通信するとセンサーメニューに右の画像の項目が表示されます。

2:各センサーの項目をタッチすると選択したセンサーの設定変更が行えます。

3:「Cockpit」をタッチすると機体情報を一括で確認できるメニューに移行します。

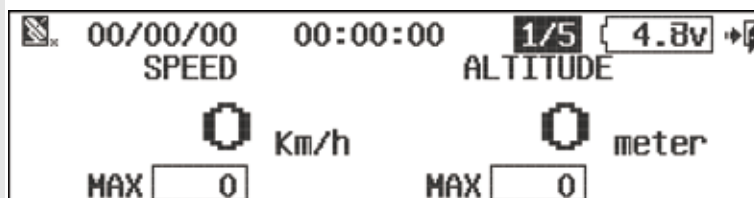
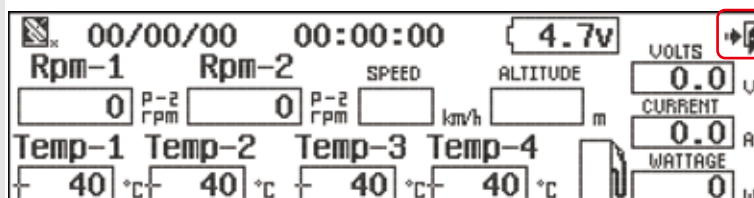
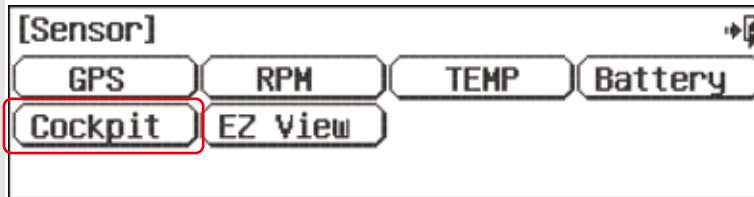
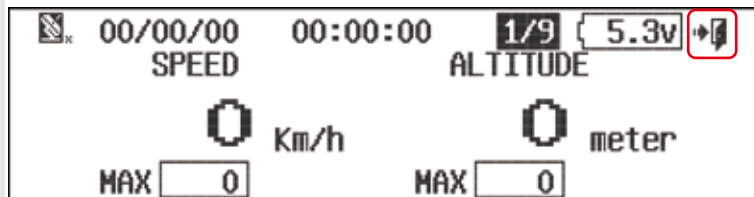
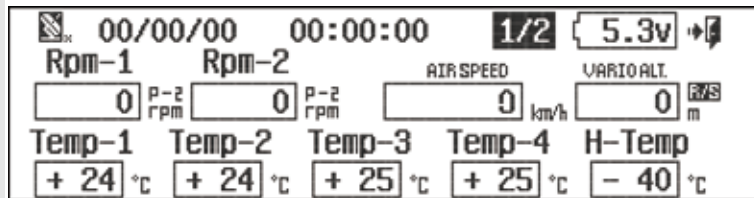
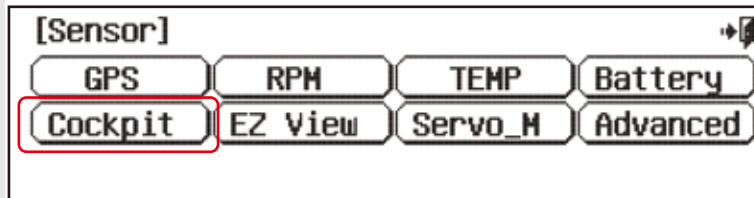
4:「EZ View」をタッチすると個々のセンサーに特化した表示画面に移行します。

・HTS-SS Nitro ＆Blue センサーステーションの使用

1:HTS-SS Nitro　&Blue センサーを接続し、AURORA9Xと通信するとセンサーメニューに右の画像の項目が表示されます

2:各センサーの項目をタッチすると選択したセンサーの設定変更が行えます。

3:「Cockpit」をタッチすると機体情報を一括で確認できるメニューに移行します。

4:「EZ View」をタッチすると個々のセンサーに特化した表示画面に移行します。

トレーナーメニュー Trainer Menu

別売のトレーナーコードでAURORA9X同士を接続すると初心者の指導が手軽に効率よく行えます。

さらに生徒の技量に応じて生徒が操作できるチャンネルや生徒と先生のスティック操作がミキシングする動作も可能ですので従来のようにスイッチで頻繁に切り替える必要もありません。
万一の事態に対処でき安全です。

Warning

・先生側のプロポは使用するモデルで飛行できる様に設定されていなければなりません
・生徒側の送信機のリバース方向やトリム位置は事前に先生側の送信機と同一に合わせておいてください。
・安全上、生徒側のRFモジュールは取り外してください。

マスター（先生）用送信機の設定

1：システムメニューより「Trainer」を選択します。

2：最初この機能はOFF「INH」になっていますので　「ACT」をタッチしてONにします。

[Trainer]
Mix->INH

3：生徒側送信機との切替用のスイッチを選択します。

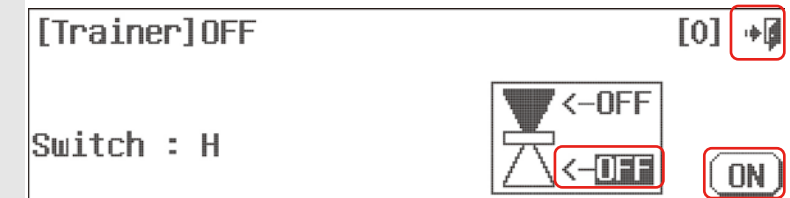
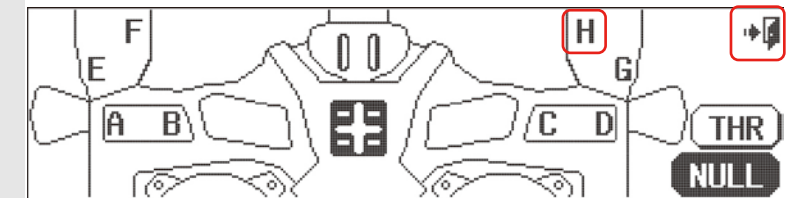
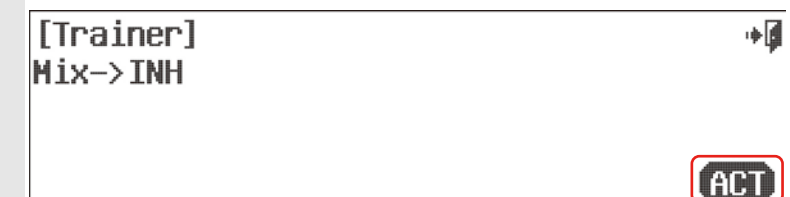
4：最初は未設定「NULL」なので「SEL.」をタッチしてスイッチ選択画面に行きます。

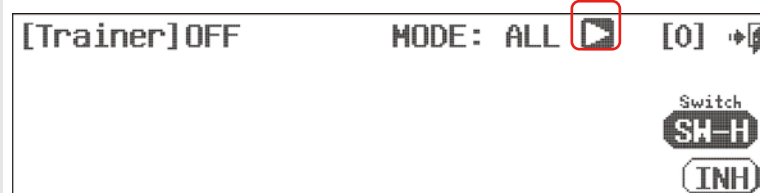
[Trainer]OFF
Switch : NULL
SEL.

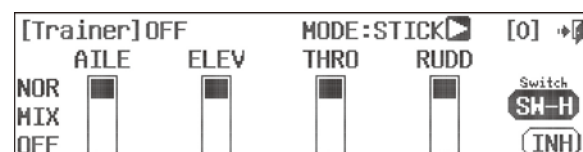
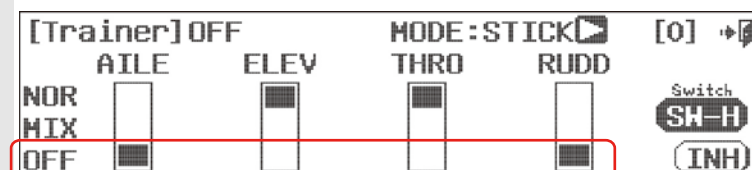
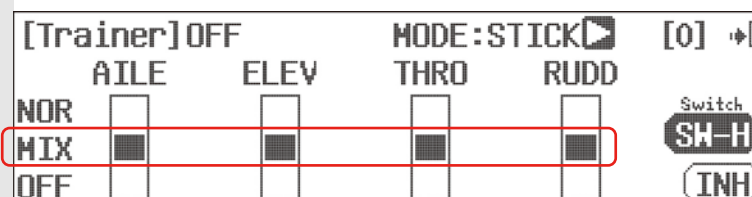
5：希望するスイッチのアイコンをタッチして「EXIT」で決定です。

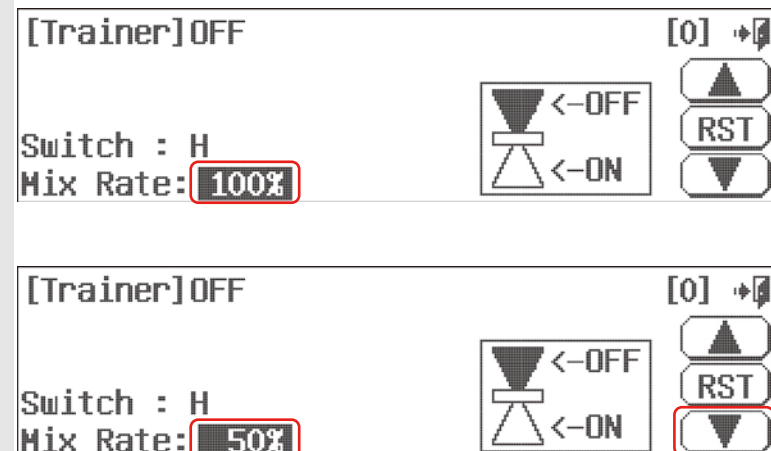
6：次にスイッチの方向を設定します。ONにした方をタッチして画面右下の「ON」をタッチして、この向きをONにします。方向はご自由に設定してください。

7：「EXIT」でスイッチ設定は完了です。

[Trainer]OFF　[0]
Switch : H

トレーナーメニュー　Trainer Menu

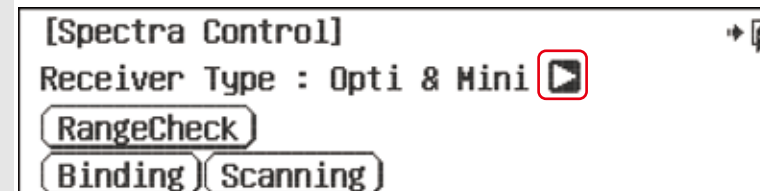
8：トレーナーのモードを設定します。初期状態では全スティックを生徒側に許可する「ALL」になっていますので横の矢印アイコンをタッチします。

9：それぞれのスティック操作の許可モードを設定する画面になります。

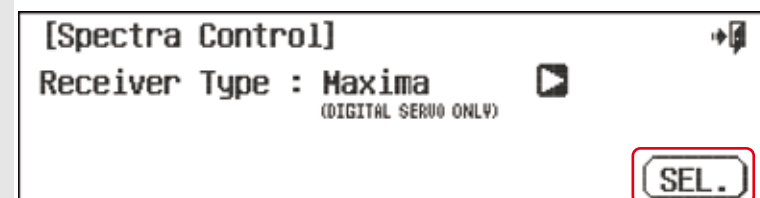
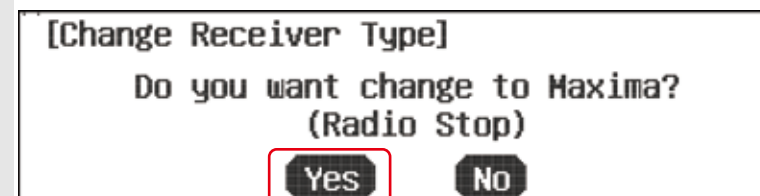
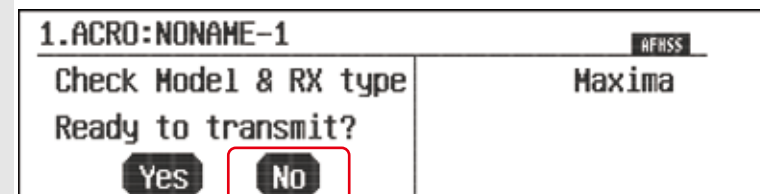
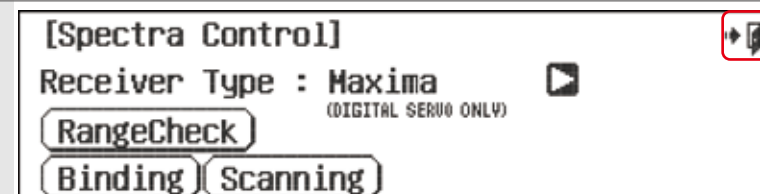
NOR：スイッチの切替で生徒側の操作になります。
MIX：先生と生徒のスティック操作がミキシングされます。
OFF：生徒の操作は無効です。

10：ここでは生徒のエルロン/ラダーの操作をOFFにしています。

11：先生と生徒のスティック操作をミキシングするには「MIX」に設定します。

12：生徒側送信機のスティック操作のミキシング量を設定します。

「Mix Rate」横の数値をタッチして画面右端の「▲RST▼」アイコンで調整してください。最初は50%を推奨します。

スペクトラコントロールメニュー　Spectra Control Menu

こちらで使用する受信機のタイプを設定できます。

1:. システムメニュー画面より「Spectra」を選択します。

2: 矢印のアイコンをタッチして受信機タイプを変更します。

ここでは例としてMaxima受信機での設定を記載します。

3: Maxima受信機を選択し決定したら「SET」ボタンを押します。

4:右の図の確認画面が現れますので、設定に間違いがなければ「YES」を押します。

5: 電波の発射の有無を選択します。

6:設定が完了したら「Exit」を押すことでシステムメニューの画面に戻ります。

こちらのメニューでは以下の設定が可能です。

- ・バックライトタイム
- ・タッチロック
- ・タッチバイブレーション
- ・パワーオフ ファンクション
- ・タッチスクリーンキャリブレーション
- ・電波チェック（OFFに設定すると電源を入れると同時に電波を発射します。）
- ・スロットルチェック
- ・フライトコンディションチェック

1: システムメニューより「SYS.MGMT」を選択します。

2:「Backlight」の矢印アイコンをタッチしバックライトの点灯、消灯の時間を設定します。

3:「Touch Lock」の矢印アイコンをタッチしタッチロックタイムを設定します。
（仮に5秒に設定すると5秒間画面を操作しなければ、画面がロックされタッチ操作ができなくなりますー時的に解除する場合は画面を長押ししてください。）

[System Management] 1/2
Backlight : Always On
Touch Lock : Always Off
Touch Feedback : Tone/Vibe
Auto Hibernation : Never
SCRN CAL

4:「Touch Feedback」の矢印アイコンをタッチし操作時のバイブレーションの有無を選択します。

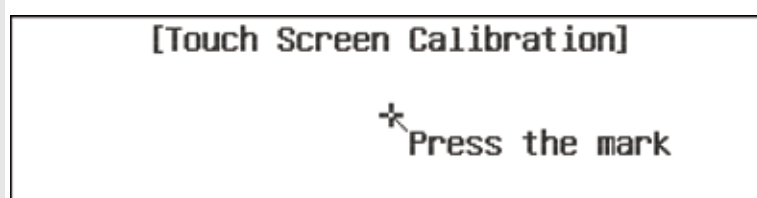
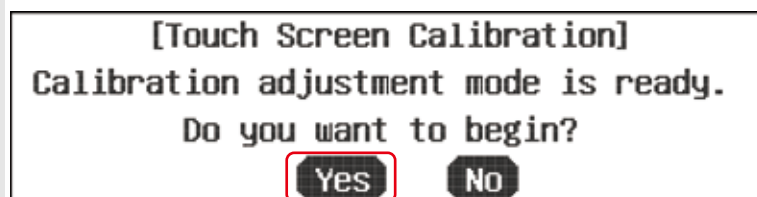
5:「Auto hibernation」の矢印アイコンをタッチしオートパワー オフの設定を行ってください。（任意に設定した時間が経過すると自動的にパワーオフとなります）

[System Management] 1/2
Backlight : Always On
Touch Lock : Always Off
Touch Feedback : Tone/Vibe
Auto Hibernation : Never
SCRN CAL

6:操作時にタッチ操作のズレが生じた場合はこちらのタッチスクリーンキャリブレーションをお試しください。設定する場合は「SCRN CAL」をタッチします。

[System Management] 1/2
Backlight : Always On
Touch Lock : Always Off
Touch Feedback : Tone/Vibe
Auto Hibernation : Never
7: 右の図のような確認が画面が現れますので設定する際は「YES」を押します。

[Touch Screen Calibration]
Calibration adjustment mode is ready.
Do you want to begin?
8: マークが現れますので、タッチペンを使用し各ポジションを3秒ほど押して行きます。

[Touch Screen Calibration]
Press the mark

9.「High Throttle」の矢印をタッチして電源投入時のスロットルチェックのON・OFFを設定します。

10.「Abnormal Flight condition」の矢印をタッチして電源投入時のフライトコンディションチェックのON・OFFを設定します。

[System Management] 2/2
Warning at Startup
-High Throttle : On
-Abnormal Flight Condition : On
●リポバッテリーの使用
AURORA9Xでは標準のニッケル水素バッテリーの他に2セルのリチウムポリマーバッテリーが使用できます。

Li-Po電池を使用時は必ずLi-po専用充電器で送信機から取り外して充電を行ってください。
付属の家庭用充電器では絶対に充電しないでください。大変危険で最悪発火する事があります。

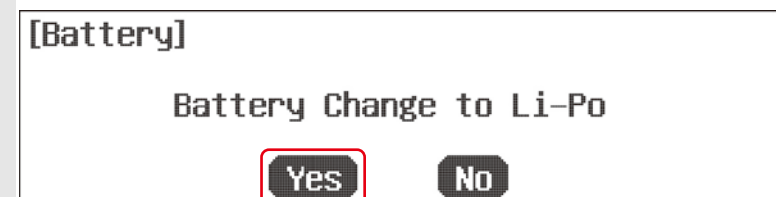
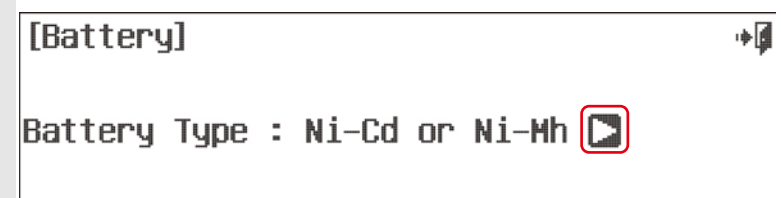
1:Ni-MH電池からLi-po電池（2S-7.4V）への変更

2:「Battery」アイコンをタッチすると電池の種類が変更できます。
標準では6セル7.2VのNi-CdかNi-MHとなっています。

[Battery]
Battery Type : Ni-Cd or Ni-Mh

矢印アイコンをタッチするとLi-Poに変更するか確認してきますので「YES」をタッチします。

3: Li-Po電池の場合、完全放電してしまうと電池にダメージを与えるのでオートカット電圧を設定できます。電池種類にあわせたカット電圧を「＋・RST・－」で設定します。

4:「EXIT」で画面から抜けます。

[Battery]
Battery Change to Li-Po
[Battery]
Battery Type : Li-Po
Off Voltage : 6.0V
ほとんどのLi-Po電池は1セル当たり3.0Vを使用下限として推奨しています。
本機に使用できるのは2セル（2S）ですので6.0Vを推奨します

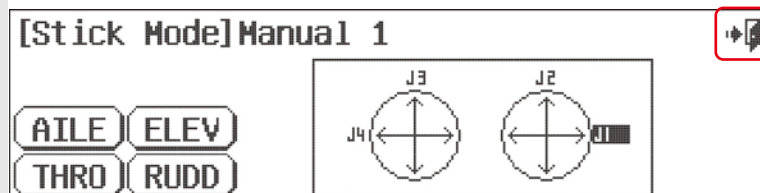
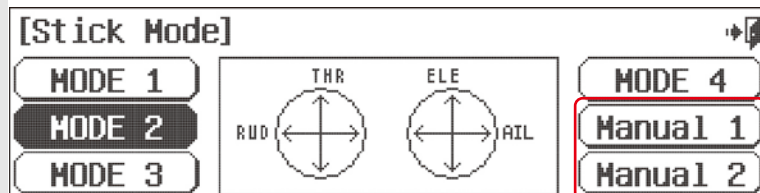
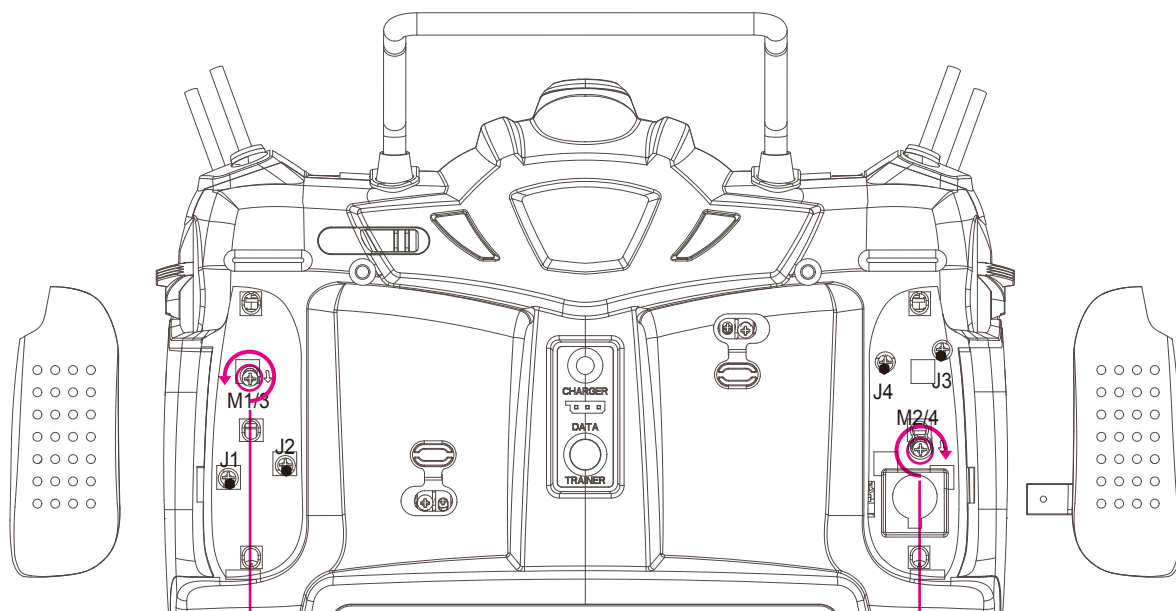
スティックモード Mode Menu

スティックモードはどのスティックでどの舵の操作を行うかを切り替える機能です。日本では通常モード1、アメリカでは通常モード2と呼ばれる配置です。これだけでなく全てのモードを選択できます。また自由な配置も選べます。

1：システムメニューより「Mode」を選択します

2: お好きなモードをタッチするとスティック配置が画面中央に表示されます。

3: モード1～4以外にご自由な設定を行いたい場合は「Manual」アイコンをタッチして設定画面に進みます。

4:スティックイラストで変更したい場所「J1～4」をタッチした後に画面左の設定したい操作名をタッチします。
確認したら「EXIT」で完了です。

スティックメカニズムの変更

詳細はP28～29を参照して構造を理解してから行ってください。

ハードウェアリバースメニュー Hardware Reverse

AURORA9Xハードウェアリバース設定では各スティックやスイッチの動作方向を自由に変更することが可能です。

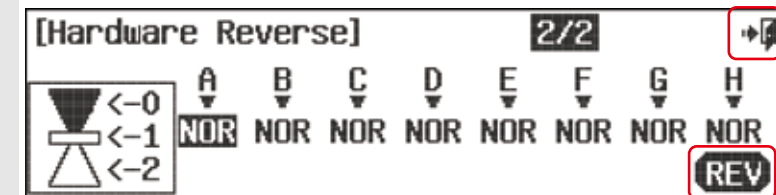
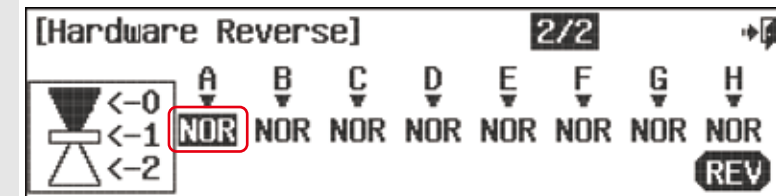
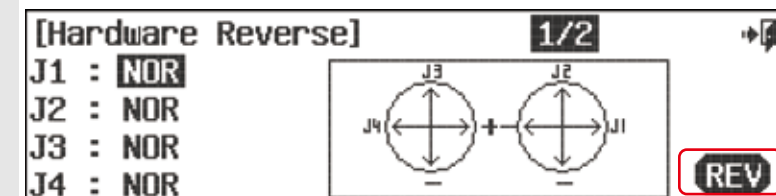
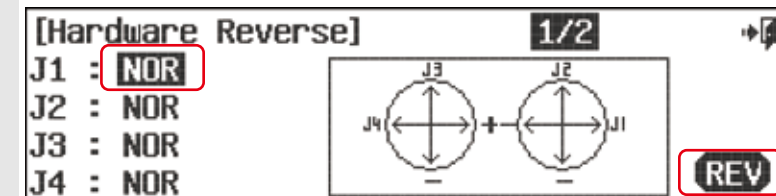
1: システムメニューより「H. Rev」を選択します。

2: どのスティックの動作方向を変更するのか選択します。

3: 選択したら「REV」アイコンをタッチし動作方向を変更します。

4: ここでは各スイッチの動作方向が変更可能です。変更したいスイッチを選択します。

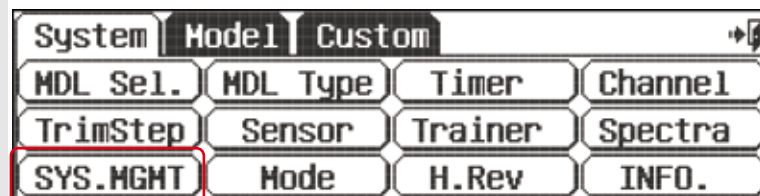
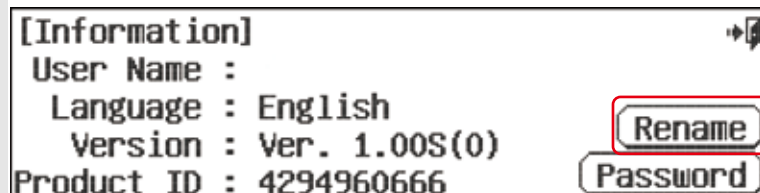
5: 「REV」アイコンをタッチすると動作方向が切り替わります。

6: 設定を終了する際は「EXIT」のアイコンをタッチします。

インフォメーションメニュー Info Menu

こちらのインフォメーションメニューでは下記に記載する設定の変更及び情報の確認が可能です。

・ユーザー名の設定
・使用言語表示
・ファームウェアVer、表示
・シリアルナンバー表示
・パスワード設定

●ユーザー名の設定

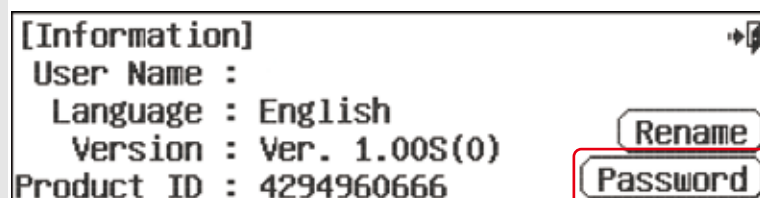
1: システムメニューより「INFO」を選択します。

2: 「Rename」をタッチします。キーボードが表示されますので好きな名称に変更します。

[Information]
User Name :
Language : English
Version : Ver. 1.00S(0)
Product ID : 4294960666
Rename
Password

3:完了したら「Enter」をタッチします。

・Shiftで数字記号の表示になります。
・CapsLockで大文字、小文字の表示になります。
・完了したら「Enter」をタッチします

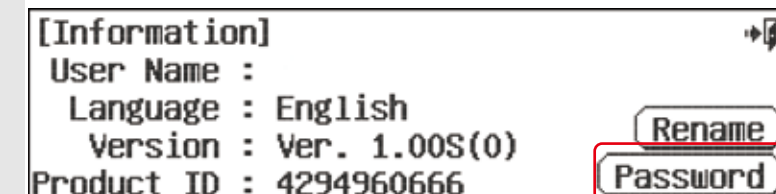
[User Name]
ESC
User Name : HITEC AURORA 9X
Q W E R T Y U I O P Shift
A S D F G H J K L Enter Del
Z X C V B N M Space CapsLock

・インフォメーションでは右の図のような画面が表示されます

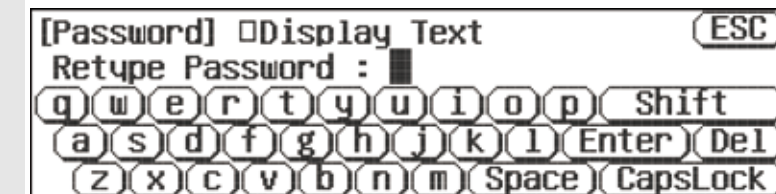
[Information]
User Name :
Language : English
Version : Ver. 1.00S(0)
Product ID : 4294960666
Rename
Password

インフォメーションメニュー Info Menu

●パスワード設定

1: パスワードを設定する場合は「Password」をタッチします。

[Information]
User Name :
Language : English
Version : Ver. 1.00S(0)
Product ID : 4294960666
Rename
Password

2; 任意のパスワードを入力し決定したら「Enter」をタッチしてください。

3: パスワードの再チェックがありますので再度同じパスワードを入力し「Enter」をタッチしてください。

[Password] □Display Text
ESC
Retype Password :
q w e r t y u i o p Shift
a s d f g h j k l Enter Del
z x c v b n m Space CapsLock

4: 設定が完了したら「Exit」を押すことでシステムメニューの画面に戻ります。

パスワードの解除

・パスワード入力画面において設定したパスワードを入力し、再チェック画面では何もに入力せずに「Enter」をタッチします。
そうすることでパスワードが解除されます。

モデルメニュー・重要なヒント

Section Five

こちらのセクションでは下記についての説明をします。

- ・カスタム＆アジャストメニュー
- ・アジャストメニュー
- ・スイッチセレクト
- ・キャンバー＆ランチメニュー
- ・スロットルカーブ＆ピッチカーブアジャストファンクション
- ・トリムリンク
- ・アジャストトリム（T，App）
- ・カットポジション
- ・ランチカット

************　設定に関する重要事項　************

スロットルロック
送信機と機体が通信している状態で機体の動作チェックをする場合は安全の為、メインスクリーン上のモデルアイコンを2秒間タッチしてスロットルロックを作動してください。

リセット
AURORA9Xは様々な設定を行うことができますがその反面、複雑な調整の中で設定を間違ってしまうこともあるかと思います、どの設定が間違っているのか分らなくなってしまったら、一度設定したモデルメモリーをリセットすることをお勧めいたします。

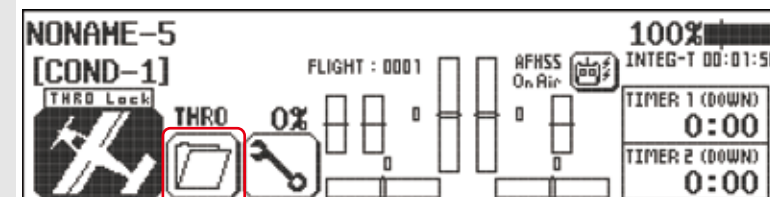
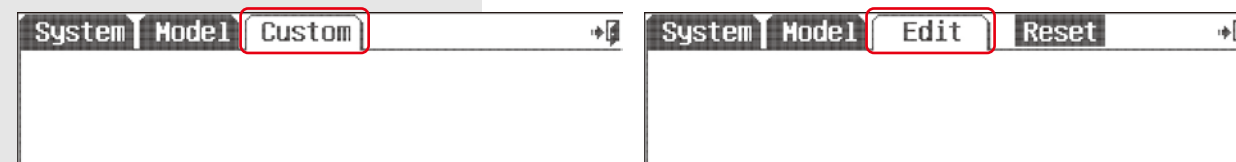
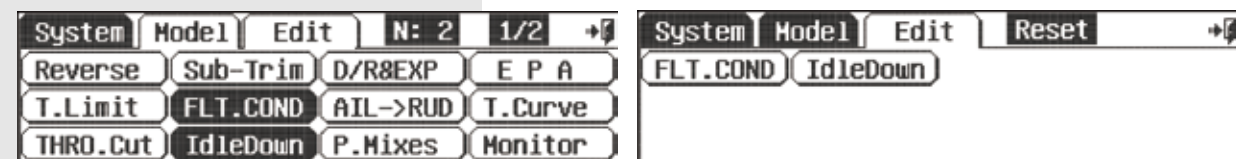
スイッチ
AURORA 9Xは全てのスイッチを自由に各機能に割り当てることが可能です。
初期状態では「NULL」に設定されておりますので各種設定でスイッチの割り当てが可能です。「NULL」でスイッチの割り当てを行わなければ機能は常時「ON」となります。また、各ミキシングでスイッチの割り当てを行う場合はミキシングのON/OFFを一つのスイッチに重複して割り当てることで連動させることが可能です、またここでのミキシングの数値変更はフライトコンディションごとにも切り替えることができます。

フライトコンディション
AURORA 9Xは各種設定を任意に選択したスイッチの他にフライトコンディションごとにも切り替えられる為、
数多くの設定変更が可能です。
設定画面の「S」セパレート、「C」コンビネーションの切り替えで反映されます。

各チャンネル調整数値の選択
AURORA 9XはD/Rの設定などの際に各チャンネルの数値を上下左右、独立して変更可能です。変更には3つの方法があります。
・任意のチャンネルを選択し、そのチャンネルに適合した舵を上下左右に動かすことで変更できます。
・任意のチャンネルを選択し、そのチャンネルに適合した%アイコンをタッチすることで変更できます。
・各チャンネル名や「Rate」アイコンをタッチすることで数値を同時に変更できます。
これらの設定はD/Rなどで実際に確認してください。

カスタムメニュー　Custom　Menu

モデルメニューやシステムメニューの一覧画面に「Custom」タブがあります。このタブの中にご自由な機能アイコンを登録する事ができます。使用頻度の多い機能を登録すると良いでしょう。

1：ホームスクリーン画面のフォルダアイコンをタッチしてカスタム画面に切替えます。

2：「Custom」タブをタッチすると「Edit」と表示が変わり登録受付状態になります。

3：次にシステムメニューやモデルメニューをタブをタッチして必要な機能アイコンをタッチします。

4：「Edit」タブをタッチしてページを切替えると選択した機能アイコンが登録されています。タブが「Edit」状態で登録した機能アイコンを再びタッチすると消去されます。ページ内のアイコンを一括消去するには「Reset」をタッチします。

アジャストメニュー　Adjust　Menu

多くの機能の中で数値調整をサイドレバーやデジタルスイッチに割り当てるとアジャストメニュータブ「Adjust」が追加され、そのアジャストメニュー内に、その機能アイコンも自動的に追加されます。

Model Menu and More - The Switch Selection Process

スイッチ選択

AURORA 9XはD/RやEXPのように多くの機能を各種スイッチに割り当てることが可能です。

スイッチ割り当ては各種調整項目にあり説明が重複してしまう為、この項目にて合わせて説明します。
こちらの項目では下記に記載する内容が含まれます。

1. NULL コンディション
2. 2･3ポジションスイッチ設定
3. アジャストファンクションスイッチ設定
   キャンバー＆ランチメニュー
   ヘリスロットル＆ピッチカーブ調整機能
4. トリムリンク機能
   Adjust to trim（アジャストトリム）
   T.APP.（トリムリンク）
5. カットファンクション設定
   ランチカット

1. NULLコンディション

AURORA 9Xの多くの機能でスイッチ割り当てが「NULL」となっている場合はその機能はONとなります。
「NULL」はどのスイッチにも割り当てられていないことを示します。

AURORA 9Xでは設定時に下記の質問に自身で選択し回答する必要があります。

"この機能にスイッチを割り当てたいですか?"

はい	いいえ
機能のON/OFFやスイッチポジションごとに設定数値を切り替えることが可能です。	特にスイッチを割り当てる必要のない場合は（NULL）を選択し設定を終了してください。

2. 2･3ポジションスイッチ選択
AURORA 9Xには2または3ポジションのトグルスイッチが装備されております。
これらのスイッチと必要に応じてスライダースイッチなども使用可能です。

On /Off
各種スイッチをエルロン→ラダーミキシング等の機能のON／OFFに割り当てることが可能です。

設定数値切り替え
D/R機能などで各種スイッチごとに異なる数値を入力し切り替えることが可能です。

スイッチ選択

2ポジションスイッチのON/OFF

ここでは例として「AIL to RUDD Mix」のON/OFFについて説明します。

1: モデルメニューより「AIL-RUD」を選択します。

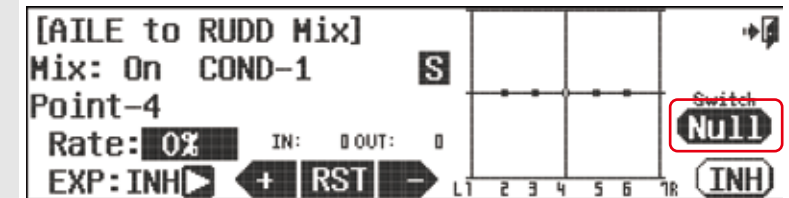
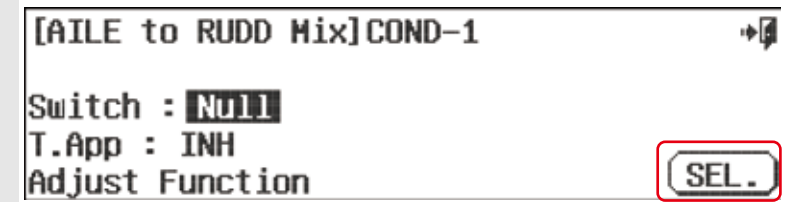
2: Mixメニュースクリーンで「ACT」をタッチします。

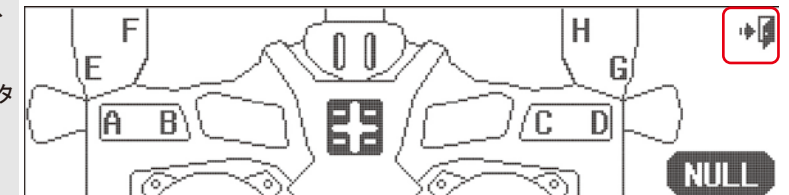
[AILE to RUDD Mix]
Mix->INH

3: 「Null」のアイコンをタッチします。

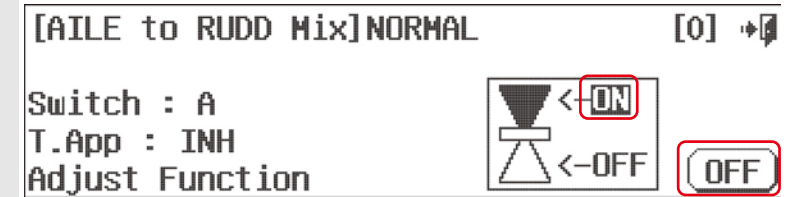
[AILE to RUDD Mix]
Mix: On COND-1 S
Point-4
Rate: 0%
EXP:INH + RST -
Switch Null INH

4: 「SEL」をタッチします。

[AILE to RUDD Mix]COND-1
Switch : Null
T.App : INH
Adjust Function
SEL.

5: ここで仮に「AIL to RUDD Mix」のON/OFFをスイッチBに割り当てます。

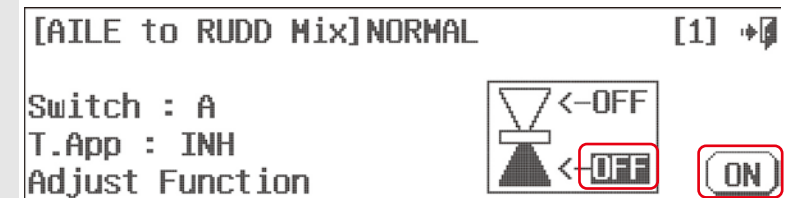
6: 選択画面でスイッチBを選択した後、「Exit」をタッチします。

7: 右の画像の「ON」をタッチします。

8: 画面右下の「OFF」をタッチすると、スイッチ表示がOFFに切り替わります。

[AILE to RUDD Mix]NORMAL [0]
Switch : A
T.App : INH
Adjust Function

9: 右の画像の「OFF」をタッチします。

10: 画面右下の「ON」をタッチすると、スイッチ表示がONに切り替わります。

11: 割り当てたスイッチBを上下に動かすと画面右上の「0/1」と「ON/OFF」の表示が動作に応じて切り替わります。

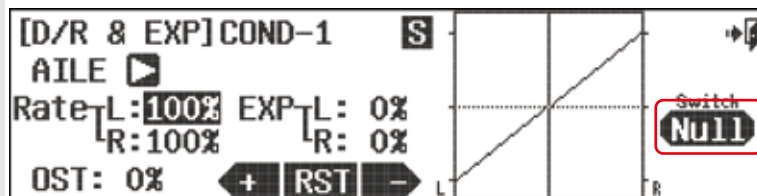
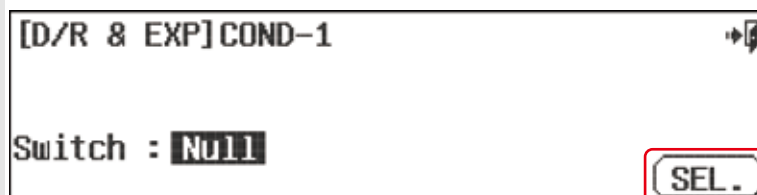
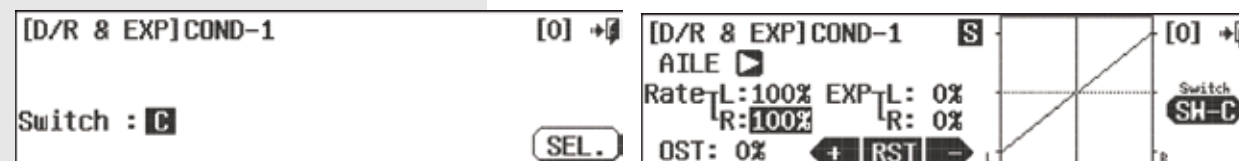
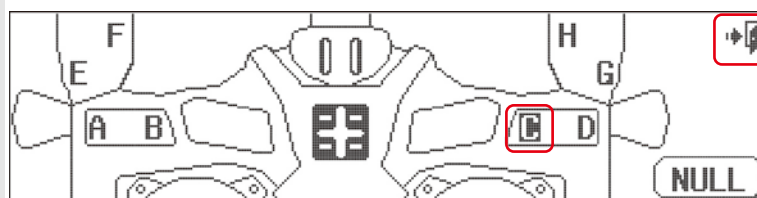
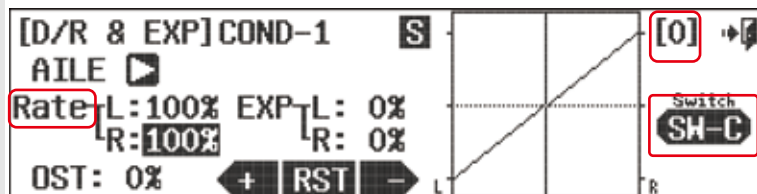
[AILE to RUDD Mix]NORMAL [1]
Switch : A
T.App : INH
Adjust Function

スイッチ選択

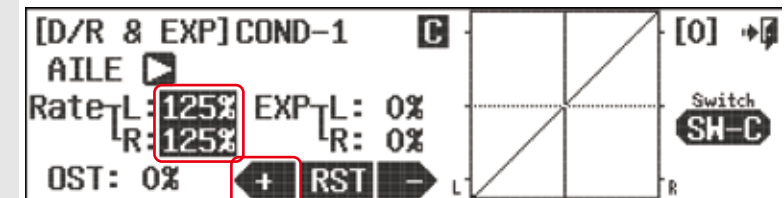
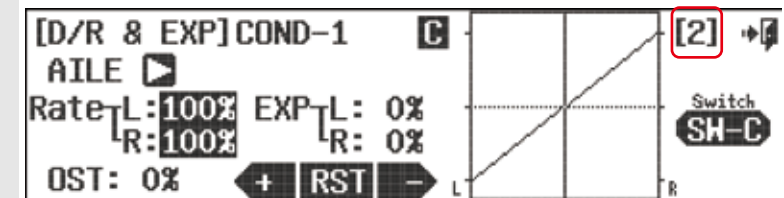
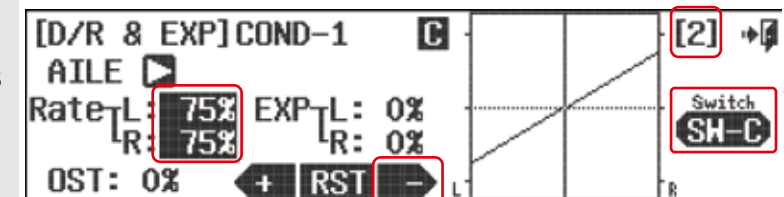
3ポジションスイッチの設定

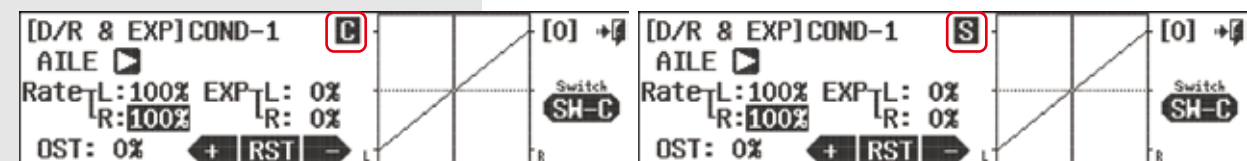
ここでは例として「D/R&EXP」のスイッチ切り替えについて説明します。

2ポジションスイッチについても下記と同様に設定します。

1：モデルメニューより「D/R&EXP」を選択します。

2:「NULL」を選択します。

3: ここでは仮にスイッチCを選択します。

4: 選択画面でスイッチCを選択した後、「Exit」をタッチします。

5: スイッチCは一番上の位置でポジション「0」となります。
「Rate」アイコンをタッチし、L/R両方同時に変更できるようにします。

スイッチ選択

6:「＋」アイコンをタッチし両数値ともに125%にします。

7: スイッチCを真中にしてポジション「1」にします。数値は変更せずに100%とします。

8: スイッチCを一番下にしてポジション「2」にします。「－」アイコンをタッチし両数値ともに75%にします。

これでエルロンの数値を三段階設定することができました。
他のチャンネルでも同じように切り替えたい場合は上記の設定を他のチャンネルにも行います。

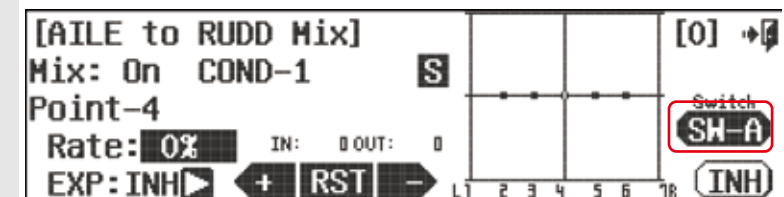
上記で設定した3ポジションスイッチの他にフライトコンディションごとに数値を変更させることも可能です。S・Cを切り替え設定します。

Cをタッチするとに変わり、各データーはセパレート設定となりコンディションごとに数値が切り替わります。

Sをタッチすると Cに変わり、各データーはコンビネーション設定となり、コンディションごとの数値は共通となります。

アジャストファンクションスイッチ設定

ミキシング量の調整や各種数値の変更をリアルタイムに調整したい場合はスイッチ選択画面の「Adjust Function」を選択することでデジタルスイッチやサイドレバーで飛行中に調整可能です。

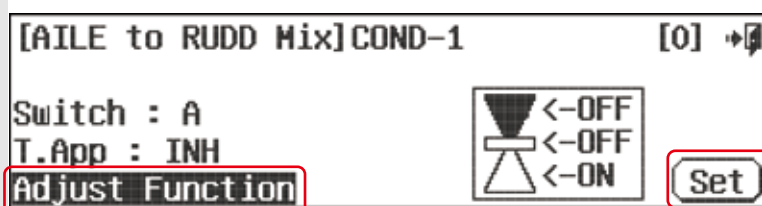
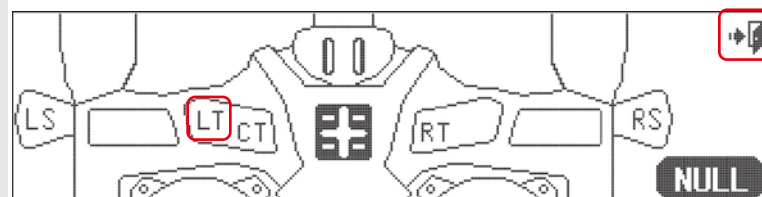
1：モデルメニューの「AIL to Rudd Mix」を例にして説明します。

2：「SW-A」又は「NULL」アイコンをタッチします。

アジャストファンクションスイッチ設定

3:「Adjust Function」→「SET」の順でタッチします。

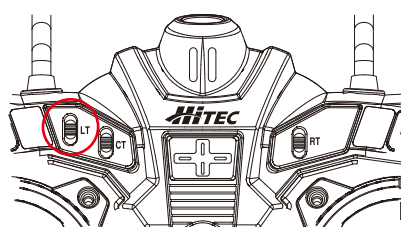
[AILE to RUDD Mix]COND-1 [0]
Switch : A
T.App : INH
Adjust Function
<-OFF
<-OFF
<-ON
Set

4:「SEL」アイコンをタッチします。

[AILE to RUDD Mix Adjust]
Switch :NULL
Rate :+30%
+ RST −
0
SEL.

5:ミキシング量を調整するデジタルスイッチ＆サイドレバーの選択画面になります。

6:ここでは「LT」を選択して「EXIT」で抜けます。

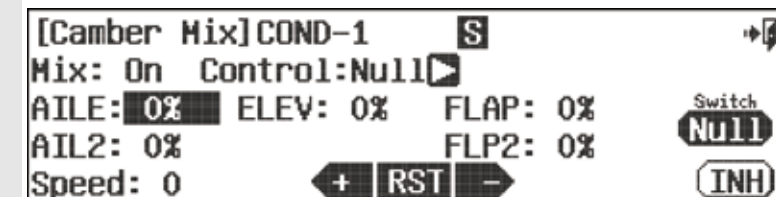
7:LTデジタルスイッチでの調整幅は「＋・RST・－」アイコンで調整します。

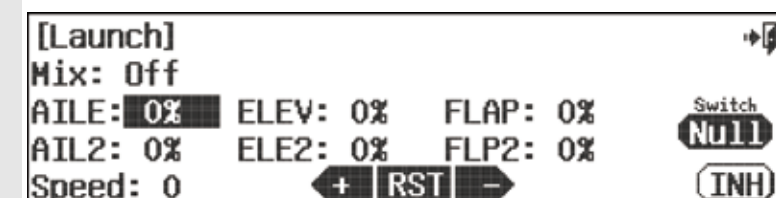
[AILE to RUDD Mix Adjust]
Switch :LT
Rate :+30%
+ RST −
0
SEL.

8: ホームスクリーン画面で飛行中にLTを操作すると自動的に画面が表示されます。

グライダータイプでのキャンバー＆ランチメニュー補足

「CANBERMIX」や「Launch」でアジャストファンクションを設定した場合、画面は2ページになります。
ここでは各サーボの最大動作量を設定できます。

・こちらはキャンバーミックスの画面になります。この画面より「Null」をタッチしてアジャストファンクションを選択すると1/2アイコンが表示されます。
2ページ目では各サーボの最大動作量を設定できます。

[Camber Mix]COND-1 S
Mix: On Control:Null
AILE: 0% ELEV: 0% FLAP: 0%
AIL2: 0% FLP2: 0%
Speed: 0 + RST −
Switch Null
INH

・こちらはランチメニューの画面になります。この画面より「Null」をタッチしてアジャストファンクションを選択すると1/2アイコンが表示されます。
2ページ目では各サーボの最大動作量を設定できます。

[Launch]
Mix: Off
AILE: 0% ELEV: 0% FLAP: 0%
AIL2: 0% ELE2: 0% FLP2: 0%
Speed: 0 + RST −
Switch Null
INH

ヘリコプターでのホバリングスロットル＆ピッチカーブ

「P.Curve」ピッチカーブや「T.CurveV」スロットルカーブ画面ではスティック動作に対するカーブを設定できます。
「Adjusut Function」でサイドレバーやデジタルスイッチを使用するように設定するとそれぞれ次の操作を割り当てられます。

●スロットル機能
・ホバリングスロットル
・ホバリングピッチ

●ピッチカーブ機能
・ホバリングピッチ
・ハイピッチ
・ローピッチ

例としてスロットルカーブ機能での設定を説明します。ピッチカーブ機能も同様に設定できます。

1:システムメニューから「T.Curve」スロットルカーブ機能を選びます。

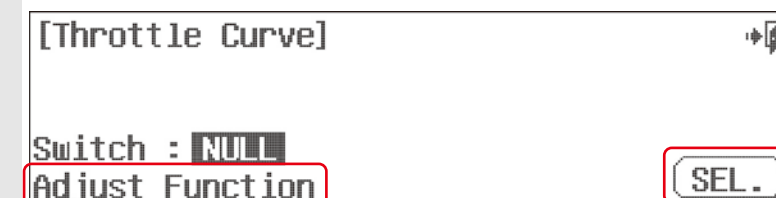
2:最初は「INH」で機能が停止していますので「ACT」をタッチして機能をONにします。

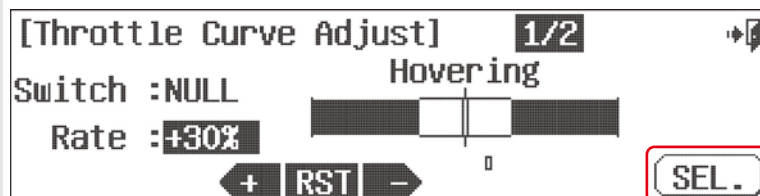
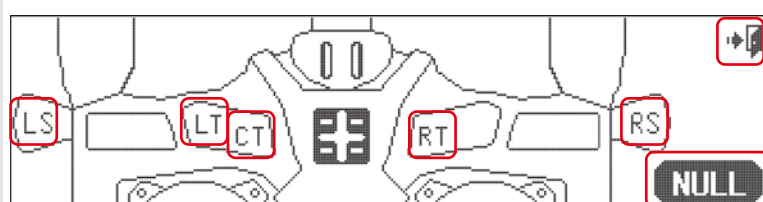
3:「NULL」をタッチします。

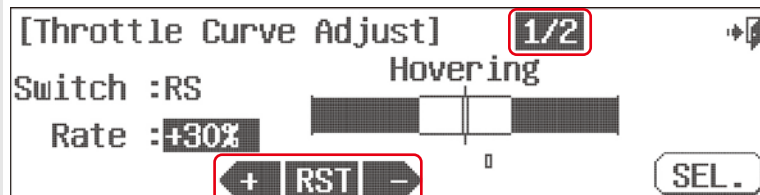
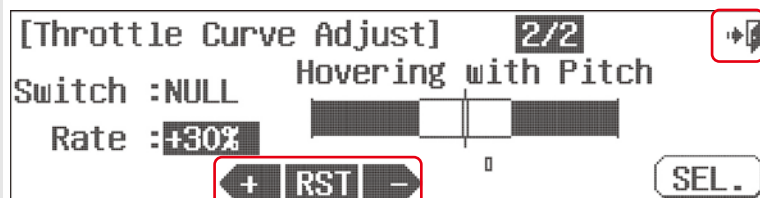
[Throttle Curve]
Mix->INH
ACT

[Throttle Curve]
THRO Normal S
Point-2 ACC: 0%
Rate: INH IN: 25 / OUT: 25
EXP:INH + RST −
Switch Null
INH

4:「Adjust Function」→「SEL」の順でタッチします。

[Throttle Curve]
Switch : NULL
Adjust Function
SEL.

ヘリコプターでのホバリングスロットル＆ピッチカーブ

5：この画面はホバリングスロットルの画面です。「SEL」をタッチしてレバーやデジタルスイッチの選択画面に行きます。

6：選択画面から設定する箇所をタッチして選択します。
例では「RS」を選択します。選択したら「EXIT」で戻ります。

7：「＋・RST・－」で調整幅を設定できます。

8：続いて次ページに「1/2」アイコンで進みます。

9：ここではホバリングピッチの設定が選択できます。操作する場所は上記と同じように選択します。

※ホバリングピッチはスティック中立付近のスロットルカーブを調整します。デフォルト数値から変更している時に機能します。

[Throttle Curve Adjust] 2/2
Hovering with Pitch
Switch :NULL
Rate :+30%
+ RST −
SEL.

トリムリンク Trim link

・Adjust to Trim
各スティックにはデジタルトリムが装備されています。
ミキシングや他機能の際にこのトリムの位置をミキシング先にリンク（有効）にするかを選択ができます。

例では「Idle Down」画面です。

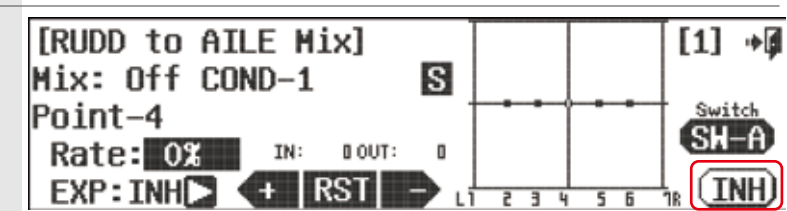
1：「Adjust to Trim」の「INH」アイコンをタッチして「SEL」で「ACT」有効、「INH」無効を選択します。

トリムリンク Trim link

T.APP
この例ではラダー → エルロンミキシングの画面です。

2：初期設定ではラダートリムはミキシングされません。

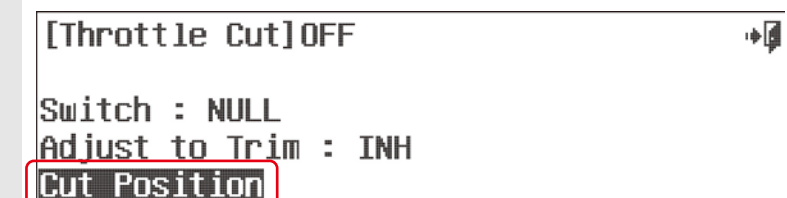
「SW-A」をタッチして進む画面に「T.App」アイコンがあります。その表示を「INH」から「ACT」にするとミキシングにトリムが有効になります。

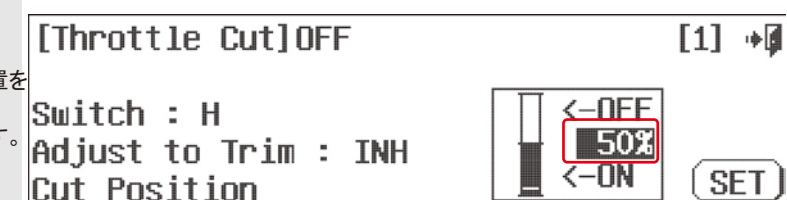
[RUDD to AILE Mix] [1]
Mix: Off COND-1 S
Point-4
Rate: 0%
EXP: INH + RST −
Switch SW-A
INH

カットポジション設定 Cut Position

ここではスロットルカット設定を例に説明します。
スロットルカットはある位置にスロットルスティックが下がった時に、予め設定してある位置までサーボが移動してキャブを閉じてエンジンを停止する機能です。この機能はスイッチに割当て着陸後にONにしてスロットルを下げてエンジン停止するように使用します。ここでは既に「H」スイッチに割り当ててあります。

1：「Throttle Cut」画面でスイッチアイコンをタッチしてこの画面にします。

2：「Cut Position」をタッチします。

[Throttle Cut]OFF
Switch : NULL
Adjust to Trim : INH
Cut Position

3：%アイコンをタッチし、スロットルスティックを希望する位置にして「SET」をタッチするとスロットルカットファンクションが作動する位置を設定できます。さらに上下のON・OFFを選択しどちら側で作動させるのか決定します。

[Throttle Cut]OFF [1]
Switch : H
Adjust to Trim : INH
Cut Position

ランチカット設定　Lanch cut

機体をウインチやショックコードで曳航する際の各舵の設定機能です。
索を外すエレベーター操作を行った時に自動でランチモードを解除する事ができます。

Note

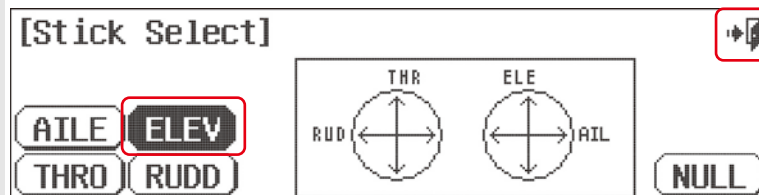
この機能にはON-OFFスイッチの割り当てが必須です。

1:「Launch」メニューでスイッチ選択の画面にします。

2:スイッチが割り当てられていないので「NULL」→「SEL」とタッチします。

[Launch]OFF
Switch : NULL
Cut Function : NULL
Adjust Function
SEL.

3:ランチモードを解除するスティックを選択します。通常「ELEV」を選択し「EXIT」で戻ります。

[Stick Select]
AILE ELEV THRO RUDD
THR ELE RUD AIL
NULL

4:「Cut Function」の「ELEV」をタッチします。

[Launch]OFF [0]
Switch : D
Cut Function : ELEV
Adjust Function
SEL.

5:この画面で解除するエレベータースティックの位置を設定します。

[Launch]OFF [1]
Switch : D
Cut Function : ELEV
Adjust Function
SEL.

6:スティックを操作すると画面のバーが動きます。希望する位置にスティックを止めて「SEL」をタッチすると位置が設定されます。

[Launch]OFF [1]
Switch : D
Cut Function : ELEV
Adjust Function
SET

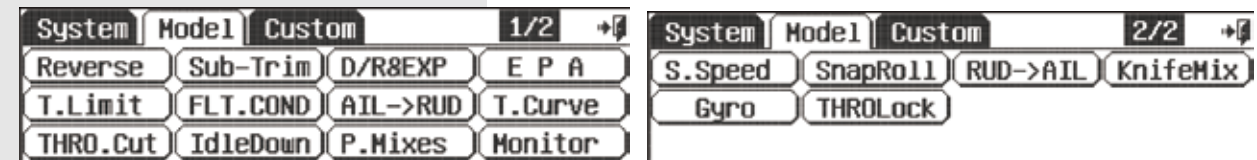
7:次にON－OFFの向きを設定します。「OFF」部をタッチして「ON」をタッチすれば設定ができます。

[Launch]OFF [1]
Switch : D
Cut Function : ELEV
Adjust Function
ON

ACRO, GLID and HELI用　標準メニュー

この項では各機体タイプに共通の標準的な機能メニューを説明します。

この項目では以下のメニューが含まれます。

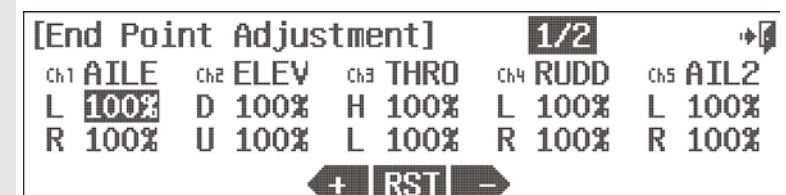
EPA	エンドポイント調整
D/R&EXP	デュアルレート＆エクスポ
Sub-Trim	サブトリム
Reverse	リバース
S. Speed	サーボスピード
T.Limit	サーボモニター
Monitor	プログラムミキシング
P. Mixes	フェイルセーフ
Gyro	ジャイロ感度

「1/2」アイコンのタッチで次ページに進めます。

エンドポイント調整（EPA）

EPA機能はスティック操作に対して左右、上下別々にサーボの動作角度を調整する機能です。

Note

・この画面は2ページあります。
・調整できる数値範囲は0～140です。
・サブトリムやデュアルレートの設定値もサーボの動作角度に影響します。

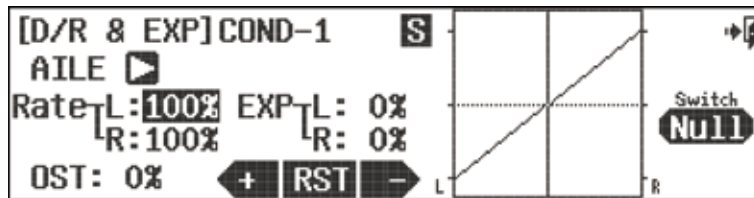
1:モデルメニューから「EPA」画面に入ります。

2:調整を希望する箇所の名前をタッチするとその下の数値が反転します。
3:そのスティック等を操作すると反転部分が切替ります。
4:反転している数値を「＋・RST・－」アイコン部分で調整します。
5:設定が完了したら「EXIT」でモデルメニュー画面に戻り完了です。

デュアルレート＆エクスポネンシャル（D/R＆EXP）

この機能はサーボの左右の動作角度、動作カーブ、オフセット等の設定をスイッチやフライトコンディション切替え等によって飛行中に複数切替える事ができる機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

特徴：AURORA 9Xのこの機能は通常の送信機より細かな設定が可能です。
- D/Rは左右上下別々に設定できますので機体のクセに応じた細かな調整が可能です。
- EXPOはニュートラル付近を細かな動作にするマイルドカーブに加え初期反応を鋭くするクイックカーブにも調整できます。
- OSTオフセットは別トリムとしても使用可能で応用範囲が広がります。
- この機能が適用されるのはエルロン、ラダー操作です。
- スイッチは舵ごとに別にしたり同一のスイッチ（他と兼用可能）に集約したりできます。
- スティックを操作すると画面のグラフに位置が表示されますので理解が容易です。

1：モデルメニューより「D/R＆EXP」を選択します。

スイッチオプション
こちらの設定に注意し任意のポジションスイッチ割り当てが可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応

2：「AILE」横の矢印をタッチすると適用されるスティックが切替ります。

3：スイッチ切替えで複数の設定を行う時はスイッチを設定します。画面右の「NULL」アイコンをタッチして選択します。
スイッチは舵毎に別や同じに設定できます。

4：数値（Rate）のL,R（U,D）表示部はサーボの左右別の動作角です。
数値部分をタッチすると反転表示になり、その数値を「＋・RST・－」アイコン部分で調整やリセットが行えます。

5：EXPはカーブを変更します。－側がマイルドカーブ、＋側がクイックカーブです。スティック操作でグラフの縦線が移動しますので効果が分かります。サーボは回転ホーンなので直線動作のロッドではクイックな特性を持ちます。またリンケージから各舵へのホーン伝達も同じ特性です。ですから多少－側の設定が本来のリニアな動作となります。

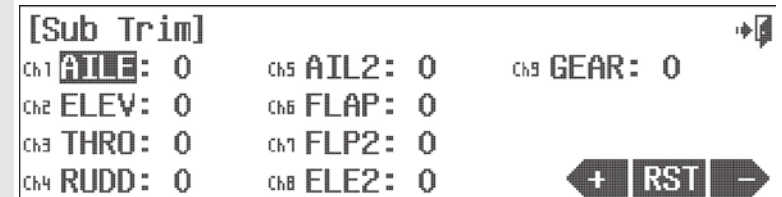
6：オフセット調整では通常のD／RカーブやEXPカーブとは異なり、カーブ全体を上下に移動させることができます。 その為、より幅広い調整が可能となります。

7：設定が終わりましたら「EXIT」でホームスクリーン画面に戻り完了です。

- それぞれの項目の変更はサーボを動作させながら行うと結果が理解しやすいです。
- 画面で調整すると時は間違って設定のない様に必ずスイッチ位置を確認してください。
- この機能は他で使用中のスイッチにも同時に設定可能です。

サブトリム Sub-Trim

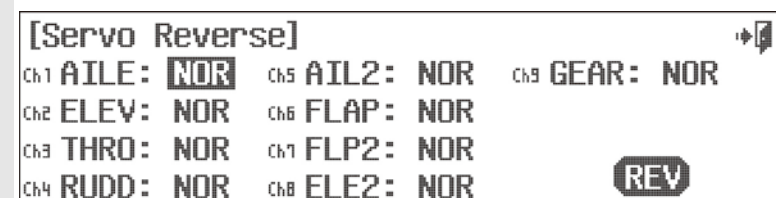
サーボのニュートラルはリンケージロッドに対してホーンが直角である事がリニアリティ上重要です。スティックのトリムがセンターの時にこのようになれば良いのですが、サーボホーンの穴位置では合わせられない場合にこのサブトリムが有効です。
機能的には受信機側でのサーボ個別のトリムとお考えください。

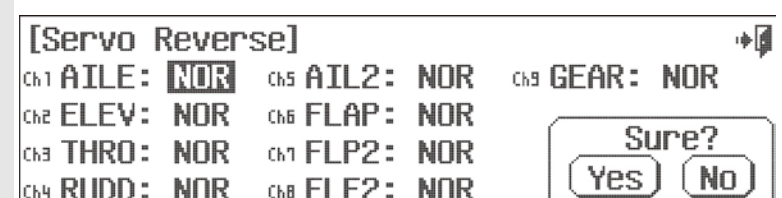
1：モデルメニューより「Sub-Trim」を選択します。

2：変更したいサーボ名をタッチして反転表示させます。
3：「＋・RST・－」アイコン部で調整します。
4：画面右上の［EXIT」でメニューに戻り完了です。

サブトリムで調整変更した場合はリンケージのロックに注意してください。

サーボリバース Servo Reverse

各サーボの回転方向を逆にできます。受信機のチャンネル単位での設定です。

1：モデルメニューより「Reverse」を選択します

2：変更したいサーボ名をタッチして反転表示させ「REV」アイコンをタッチします。

3：確認してきますので「Yes」を押します。

4：画面右上の「EXIT」でメニューに戻り完了です。

サーボスピード　S.Speed

サーボの動作を実機の様に遅い動作にする機能で受信機のサーボ個別での設定になります。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

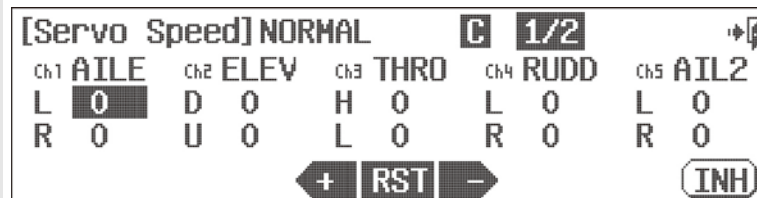
・調整できるスピードは遅くなる方向のみです。
・必ずサーボモニター「Monitor」画面、又は実際のサーボ動作で確認してください。
・正確にはギア比の大きなサーボのような動作ではなく最高速度を抑えるスピードリミッターとお考えください。

1：モデルメニューより「S.Speed」を選択します

2：最初は機能停止状態（INH）なので「ACT」をタッチして機能をONにします。

[Servo Speed]
Mix->INH

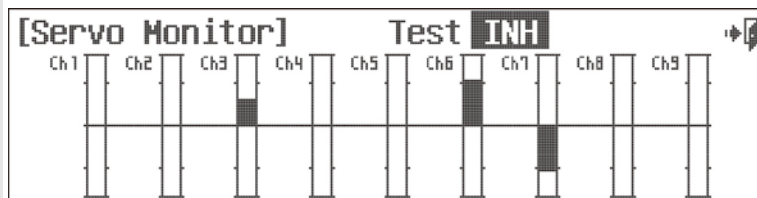
3：調整したいサーボ名をタッチして反転させ「＋・RST・－」部で調整します。この数値設定はEPAやD/Rのようにスティック操作の右側操作、左側操作という表現ではありません。サーボの右回転、左回転とお考えください。単純にサーボの動作を遅くしたい場合は両方向の数値を同じにします。

4：調整が完了したら画面右上の「EXIT」アイコンでメニュー画面に戻り完了です。

サーボモニター　Monitor

サーボモニター画面では最終的な各サーボの動作をバーグラフで確認できます。
動作角度やミキシングや速度等が事前に確認できます。色々な機能を設定して複雑になった場合は安全の為にも予想外の動作が無いか確認してください。

また全サーボを自動的に動かすテスト機能も付いています。飛行前のサーボ動作確認が容易にできます。

1：モデルメニューの「Monitor」でこの画面に入ります。

2：各サーボ動作がサーボごとに確認できます。

★サーボテスト機能
1：画面上のTestアイコン横の「INH」をタッチします。表示は「ACT」となり全サーボが自動的に動作します。
テストを停止する場合は再びタッチします。

トラベル・リミット　T.Limit

こちらの機能ではEPA（エンドポイント）設定で反映されるのサーボの最大動作幅の変更が可能です。

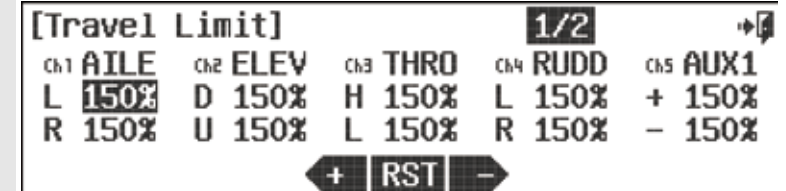
1：モデルメニューの「T.Limit」を選択します。

2：調整を希望する箇所の名前をタッチするとその下の数値が反転します。

3：そのスティック等を操作すると反転部分が切替ります。

4：反転している数値を「＋・RST・－」アイコン部分で調整します。

5：設定が完了したら「EXIT」でモデルメニュー画面に戻り完了です。

[Travel Limit] 1/2
Ch1 AILE　Ch2 ELEV　Ch3 THRO　Ch4 RUDD　Ch5 AUX1
L 150%　D 150%　H 150%　L 150%　+ 150%
R 150%　U 150%　L 150%　R 150%　- 150%
+ RST −

プログラム ミキシング（P.Mixes）

AURORA 9Xはプログラムミキシングを8個装備しています。モデルメニューに無いミキシングが必要な場合に自由な組合わせで新たなミキシングを設定できます。
ここでは例としてスロットル操作をラダーにミックスする場合を説明します。

###　この機能はフライトコンディション毎に設定できます。　###

1：モデルメニューより「P.Mixes」を選択します。

2：8個あるミキサーの中からどれかをタッチして反転表示させます。

3：現在は「INH」なので「ACT」をタッチして有効にします。

[Programmable Mixes]
1.INH　5.INH
2.INH　6.INH
3.INH　7.INH
4.INH　8.INH
ACT

4：先ずミキサーの入力チャンネル（マスター）を決めます。ここでは「THRO」をタッチします。

[Programmable Mix-1] ->
Ch1 AILE　Ch2 ELEV　Ch3 THRO　Ch4 RUDD　Ch5 AIL2
Ch6 FLAP　Ch7 FLP2　Ch8 ELE2　Ch9 GEAR

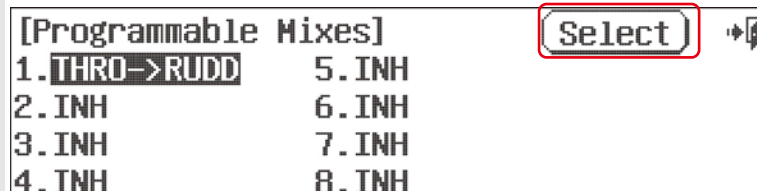
5：次に出力先（スレーブ）を決めます。ここでは「RUDD」をタッチします。

[Programmable Mix-1] THRO->
Ch1 AILE　Ch2 ELEV　Ch3 THRO　Ch4 RUDD　Ch5 AIL2
Ch6 FLAP　Ch7 FLP2　Ch8 ELE2　Ch9 GEAR

6：「EXIT」アイコンで前の画面に戻ります。

[Programmable Mix-1] THRO->RUDD
Ch1 AILE　Ch2 ELEV　Ch3 THRO　Ch4 RUDD　Ch5 AIL2
Ch6 FLAP　Ch7 FLP2　Ch8 ELE2　Ch9 GEAR

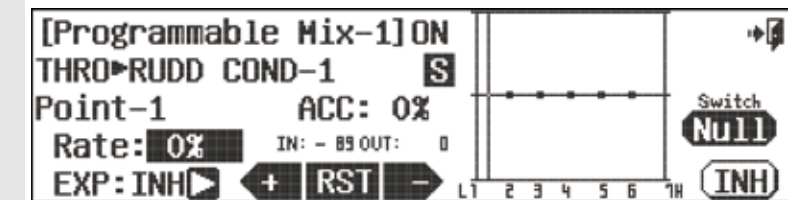
7：今設定したミキサーが表示されています。

[Programmable Mixes]　Select
1.THRO->RUDD　5.INH
2.INH　6.INH
3.INH　7.INH
4.INH　8.INH

8：次に詳細設定に入りますので希望するミキサー名をタッチして反転表示にして「Select」をタッチします。

プログラム ミキシング（P.Mixes）

9：この画面でミキサーの各要素を設定します。
　各数値は「＋・RST・－」のアイコンを使用して変更してください。

・ スロットルスティックを操作するとグラフでバーが移動します。調整したいポイントにスティックを操作して「Rate」の数値を設定してください。
・ ACCはアクセレーションで加速度ミキシングです。
　加速度ミキシングは出力先に反映され、数値を上げるとサーボはオーバーシュートするような動作をします。数値を下げるとサーボが遅れて動作します。実際にサーボを動作させて効果を確認・理解してください。
・ 各ポイントでRSTアイコンをタッチするとカーブのポイント数と位置を自由に変更できます。
・「EXP」は各ポイントの接続を曲線で滑らかにします。

注意：この画面で「INH」をタッチすると設定されているミキシングは消去されてしまいます。

スイッチオプション
　このミキシングにもON-OFFスイッチを設定できます。画面右の「NULL」をタッチして他機能と同様に設定します。
　ON-OFF制御なので2Pスイッチが適当です。トリムもリンク「T.APP」するか選択できます。
　スイッチ設定画面にてトリムリンクをONにするとマスター側のトリム変更数値が出力先のサーボにも反映されます。
　詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

上記画像のマーク（C）はコンビネーションを意味します。（C）の状態ではフライトコンディションごとに数値を切り替えることはできません。コンディションごとに数値を変更したい場合はタッチして（S）に変更してください。

Switch type	Function	Trim link
2ポジションスイッチ対応	On / Off	トリムリンク対応

Note

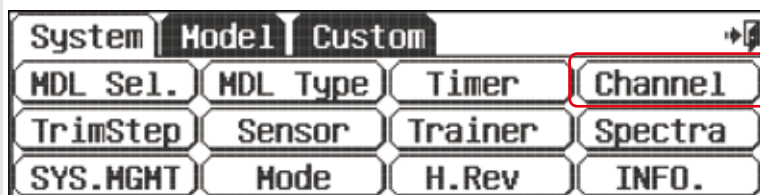
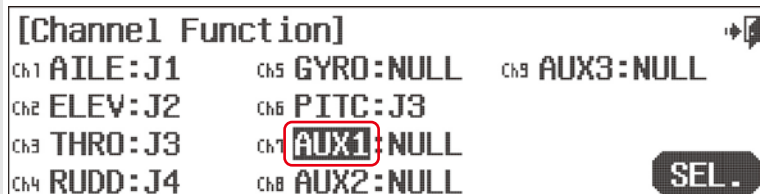
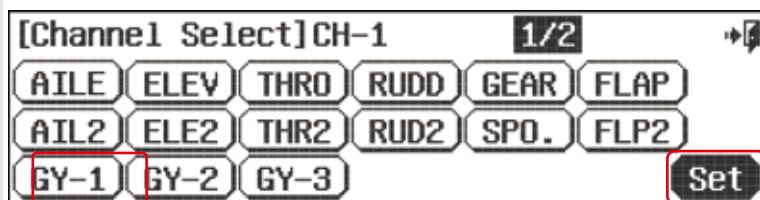
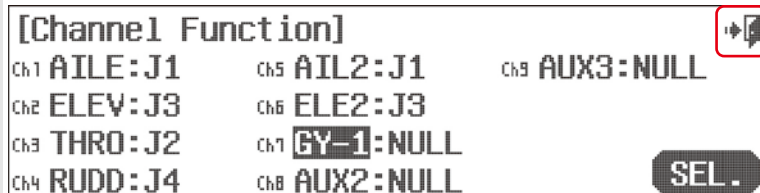
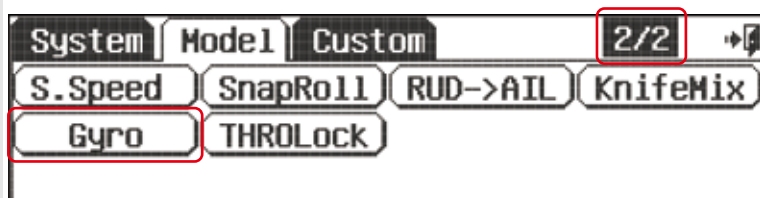
一つのサーボに複数からのミキシングをかけたい場合は新しく、同じマスターチャンネルを使用したミキシングの設定することで動作可能となります。

ジャイロ設定　Gyro

ヘリコプターや飛行機に搭載するジャイロの感度を送信機から切替えることができる機能です。組合せのスイッチで最大3段階の感度を切替えられます。AURORA 9Xはこのジャイロ感度を3個装備しています。
（GY-1、GY-2、GY-3）異なる機体ごとに設定が可能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

モデルタイプをヘリにした場合はジャイロ感度別チャンネルで3つ設定することはできません。
ラダージャイロの１軸のみ対応しています。

1：最初にシステムメニュー画面の「Channel」機能でジャイロ感度に使用するチャンネルを指定します。

2：ここでは「AUX1」に設定します。
「AUX1」→「SEL」とタッチします。

3：ここで機能を割り当てますので
「GY-1」→「SET」とタッチします。

4：チャンネルの設定を確認したら「EXIT」で戻ります。

5：モデルメニューの「Gyro」をタッチします。

ジャイロ感度

6：「ACT」をタッチして有効にします。

スイッチオプション
ジャイロの設定に注意し任意のポジションスイッチの割り当てが可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応

7：「GY-1」の横の数値が感度になります。
「＋・RST・－」アイコンで設定します。

8：完了したら「EXIT」で画面を抜けてください。

●スイッチの割当て

画面右の「NULL」をタッチするとスイッチを割当てられます。
他画面と同じように設定してください。
2Pスイッチでは2種類の感度、3Pスイッチでは3種類の感度設定が可能です。
スイッチ位置を確認しながら感度を設定してください。

ACRO and GLID用 専用メニューの詳細説明

この項は飛行機(ACRO)グライダー(GLID)用の専用機能を説明します。

FLT.COND	フライトコンディション	
Spoiler	エアブレーキ	
SPO- ELE	エアブレーキ→エレベーターミックス	
AIL-RUD	エルロン→ラダーミックス	
ELE-CAM	エレベーター→キャンバーミックス	
RUD-AIL	ラダー→エルロン	
AIL DIFF	エルロンディファレンシャル	
AIL- FLP	エルロン→フラップミックス	
CAMBMIX	キャンバーコントロール	
FLP CON	フラップコントロール	
V.Tail	Vテールミックス	
AILEVATR	エイルベーター	
Elevon	エレボン	
Fuel Mix	フーエルミックス	
Thro.Cut	スロットルカット	
T.Curve	スロットルカーブ	
IdleDown	スロットアイドルダウン	
B-fly	バタフライ(クロウ)ミックス	
Flap Trim	フラップトリムミックス	
knifemix	ナイフエッジミックス	
offset	オフセットファンクション	
Snaproll	スナップロール	ACRO only
Motor	モーターコントロール	GLID only
Launch	ランチミックス	GLID only

フライトコンディション(ACRO＆GLID)

フライトコンディションとは色々な設定を一括で切替える事ができる機能です。最大8種類のフライトコンディションを設定できます。

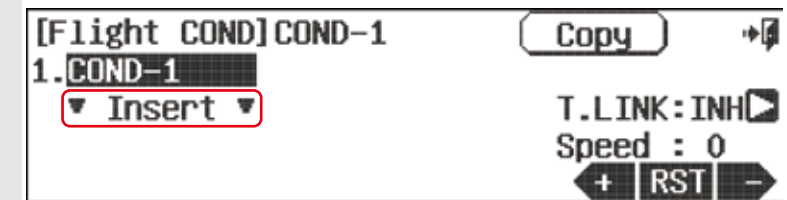
下記のモデルメニュー機能をフライトコンディション毎に設定できます。

各機能においてスイッチをフライトコンディション切換えスイッチと同一のスイッチに登録する事により使用できます。

1:D/R＆EXP	デュアルレート＆EXP	11:AIL→FLP	エルロン＞フラップ	
2:S.Speed	サーボスピード	12:CAMBMIX	キャンバーミックス	
3:P.Mixes	プログラムミックス	13:Launch	ランチモード	
4:T.Curve	スロットルカーブ	14:FLAP CON	フラップコントロール	
5:Fuel Mix	フーエルミックス	15:Gyro	ジャイロ感度	
6:Spoiler to Elevator MiX	スポイラー＞エレベーター	16:SnapRoll	スナップロール	
7:AIL→RUD	エルロン＞ラダー	17:V.TAIL	Vテール	ACRO only
8:ELE→CAM	エレベーター＞キャンバー	18:Elevon	エレボン	GLID only
9:RUD→AIL	ラダー＞エルロン	19:AILEVATR	エイルベーター	GLID only
10:AIL DIFF	エルロンディファレンシャル	20:knife Edge Mix	ナイフエッジミックス	

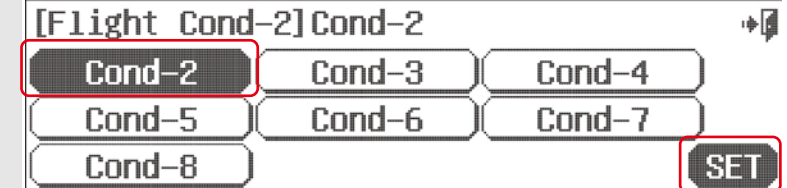
フライトコンディション(ACRO＆GLID)

●フライトコンディションの設定方法
この例では3種類のフライトコンディションをスイッチCで切替える設定を行います。

1:モデルメニューを「FLT.COND」画面を出します。

2:最初はNORMAL設定だけなので新規に新設します。「INSERT」をクリックして新しいフライトコンディションを追加します。

[Flight COND] COND-1　Copy
1.COND-1
Insert　T.LINK:INH
Speed : 0
+ RST -

3:例として「Cond-2」→「SET」とタッチします。

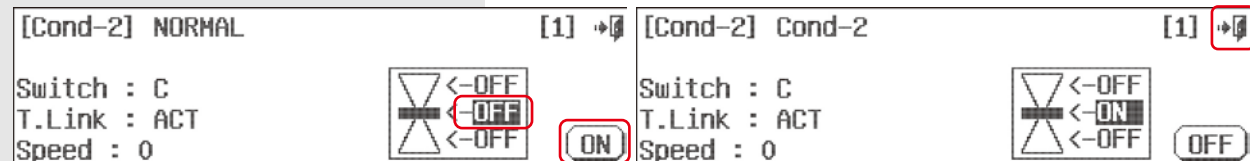
[Flight Cond-2] Cond-2
Cond-2　Cond-3　Cond-4
Cond-5　Cond-6　Cond-7
Cond-8　SET

4:次に切換えスイッチを設定します。「NULL」をタッチして他画面と同じ様にスイッチを選択します。

[COND-2] COND-1
Switch : Null
T.Link : INH
Speed : 0　SEL.

5:例として「C」を選択し「EXIT」をタッチします。

F E H G LS A B C D RS STICK Null

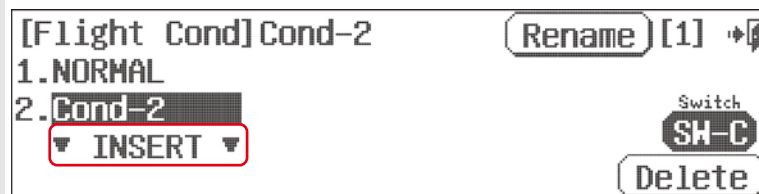
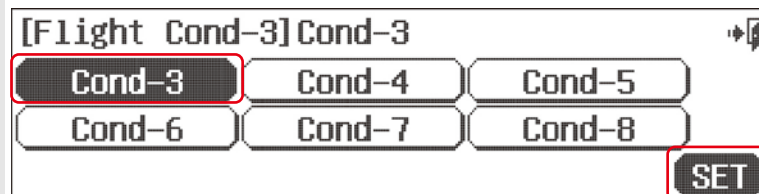
6:次にスイッチポジションの割当てをします。「Cond-2」を呼び出すスイッチの位置を設定します。希望する位置にスイッチを操作します。そのポイントの「OFF」表示を「ON」アイコンをタッチして「ON」にします。ONの位置が「Cond-2」を呼び出す位置となります。
※他のスイッチ位置には他のフライトコンディションを設定できます。

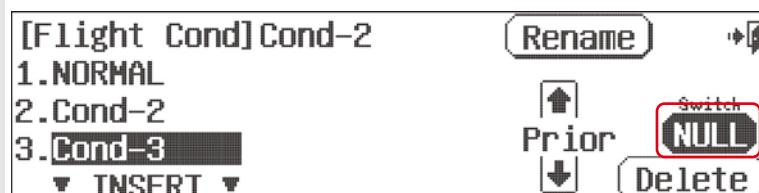
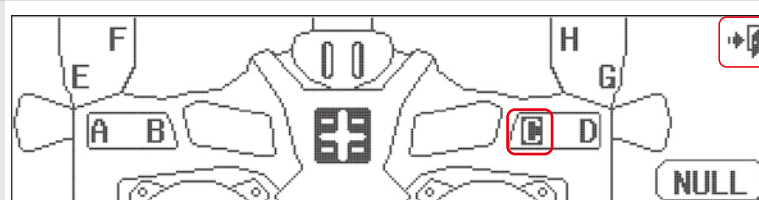
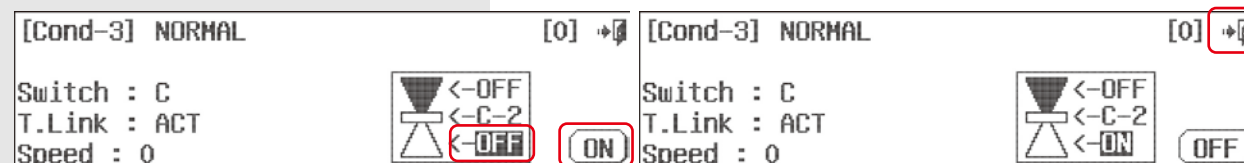
[Cond-2] NORMAL [1]
Switch : C　<-OFF
T.Link : ACT　<-OFF
Speed : 0　<-OFF　ON

フライトコンディション（ACRO＆GLID）

7：次にもう一つフライトコンディションを設定します。「INSERT」をタッチします。

[Flight Cond]Cond-2 Rename [1]
1.NORMAL
2.Cond-2
▼ INSERT ▼
Switch SW-C
Delete

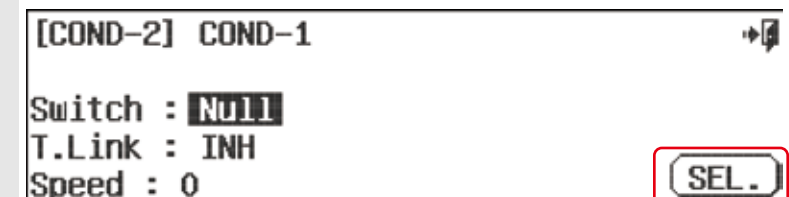
8：「Cond-3」→「SET」とタッチします。

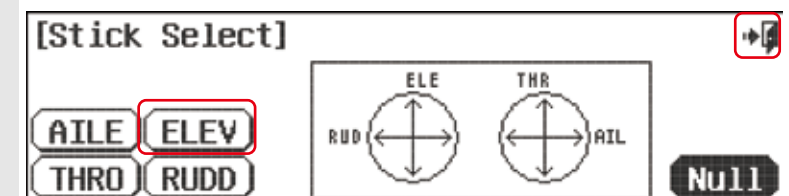
[Flight Cond-3]Cond-3
Cond-3 Cond-4 Cond-5
Cond-6 Cond-7 Cond-8
SET

9：この「Cond-3」を呼び出すスイッチを選択します。「NULL」をタッチしてスイッチ選択画面に入ります。

[Flight Cond]Cond-2 Rename
1.NORMAL
2.Cond-2
3.Cond-3
▼ INSERT ▼
Prior
Switch NULL
Delete

10：「Cond-2」と同じスイッチCを選択します。「EXIT」とタッチします。

11：次にスイッチポジションの割当てをします。「Cond-3」を呼び出すスイッチの位置を設定します。既に「Cond-2」の位置は設定済なので違う位置に設定します。希望する位置にスイッチを操作してそのポイントの「OFF」表示を「ON」をタッチして設定します。ONの位置が「Cond-3」を呼び出す位置となります。
※これでスイッチの3ポジションそれぞれに別々のフライトコンディションが設定されました。

フライトコンディション (ACRO)

AURORA9XはフライトコンディションのON／OFFを各スティックで作動させることが可能です。
下記には例としてエレベーターに割り当てます。

1. スイッチ割り当ての項目にて「SEL」を選択します。

[COND-2] COND-1
Switch : Null
T.Link : INH
Speed : 0
SEL.

2. スティックのアイコンをタッチします。

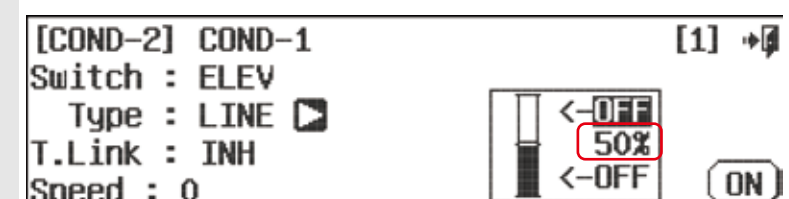
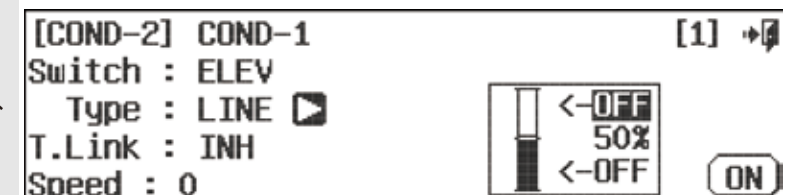
3.「ELEV」のアイコンをタッチします。

4.「Exit」をタッチすることでこの設定を完了し前項目に戻ります。

[Stick Select]

ELE THR RUD AIL
Null

5. コンディションを切り替える中立域の設定を行うため、中央の「50%」をタッチしてエレベーターのスティックを任意の位置に動かしてください。

6.位置が決まったら、「SET」をタッチします。

[COND-2] COND-1 [1]
Switch : ELEV
Type : LINE
T.Link : INH
Speed : 0
<-OFF
50%
<-OFF
ON

7. グラフのいずれかの「OFF」アイコンをタッチし右下の「ON」を選択することでどの方向で作動させるか決定します。

8. その他にグラフのタイプ、トリムリンクの有無、スピードの設定が可能です。

[COND-2] COND-1 [1]
Switch : ELEV
Type : LINE
T.Link : INH
Speed : 0

ON

フライトコンディション (GLID)

AURORA9Xのグライダーモードではグライダーに適したフライトコンディションが予め設定されております。しかし、従来と同様にコンディションを自由に変更することも可能ですので詳しくは前項の説明と共に下記をご覧ください。

1. モデルメニューより「FLT COND」を選択します。

```
[Flight COND]Normal        Copy
1.Normal      5.LAUNCH
2.LANDING        ▼ Insert ▼   T.LINK:INH
3.SPEED                       Speed : 0
4.THEARMAL                    + RST -
```

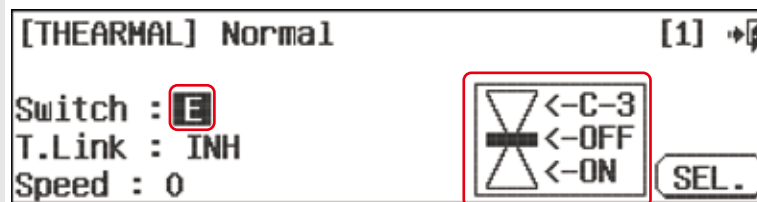
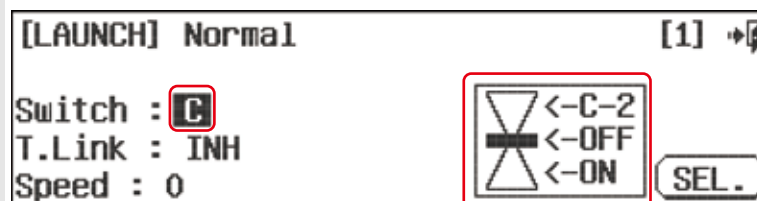
2. コンディション2には「LANDING」がスイッチCに設定されております。設定変更が必要な場合は前項の手順で変更します。

```
[LANDING] Normal                  [1]
Switch : C        <-ON
T.Link : INH      <-OFF
Speed : 0         <-C-5     SEL.
```

3. コンディション3には「SPEED」がスイッチEに設定されております。設定変更が必要な場合は前項の手順で変更します。

```
[SPEED] Normal                    [1]
Switch : E
T.Link : INH
Speed : 0                   SEL.
```

4. コンディション4には「THEARMAL」がスイッチE設定されております。設定変更が必要な場合は前項の手順で変更します。

```
[THEARMAL] Normal                 [1]
Switch : E        <-C-3
T.Link : INH      <-OFF
Speed : 0         <-ON      SEL.
```

5. コンディション5には「LAUNCH」がスイッチCに設定されております。設定変更が必要な場合は前項の手順で変更します。

6. 右の画面より「Exit」のアイコンをダブルクリックすることで設定メニューを終了します。

```
[LAUNCH] Normal                   [1]
Switch : C        <-C-2
T.Link : INH      <-OFF
Speed : 0         <-ON      SEL.
```

Note

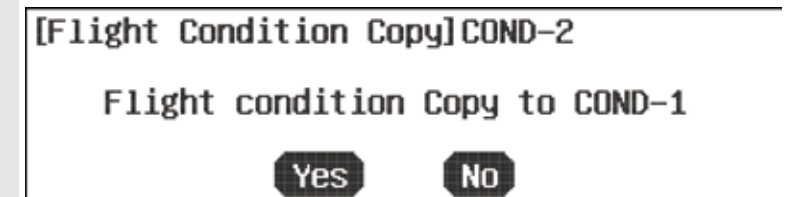
最初の設定画面でSpeedの数値を増加させるとこれに比例し、任意のコンディションから戻る際にディレイが掛かります。逆に「Normal」以外のコンディションのスイッチ設定画面でSpeedの数値を増加させると、これに比例しそのコンディションに行くまでにディレイが掛かります。
また、各コンディションで「T.Link」を「ACT」にするとそのコンディションでトリムが連動されます。

フライトコンディション (ACRO and GLID)

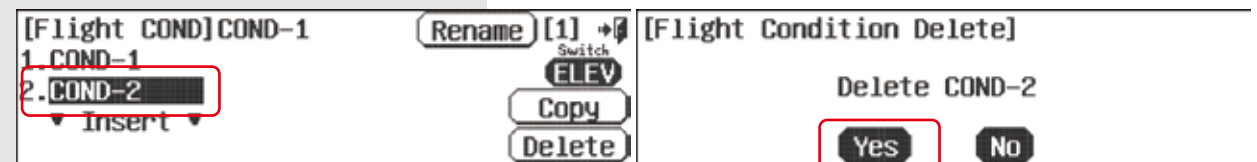
●フライトコンディションコピー

こちらの機能では、フライトコンディションに起因する各種設定データーを別のコンディションへとコピーすることができます。

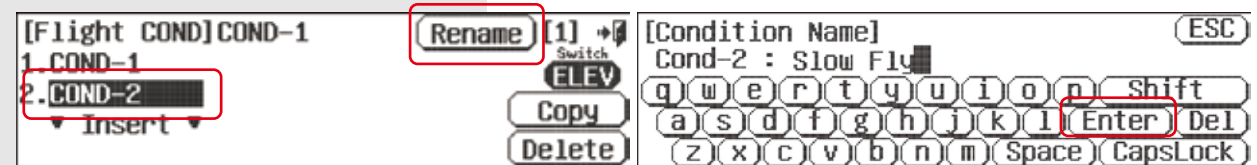
1・コピーしたいコンディションを選択し「Copy」をタッチします。
2・コピー先のコンディションを選択し再度、「Copy」をタッチします。

3・確認し「YES」をタッチします。

●フライトコンディションの削除

一度作成したフライトコンディションを削除します。

1：画面で消去したいコンディションをタッチして反転させます。そして「Delete」をタッチします。
2：確認してきますので「Yes」をタッチします。

●コンディションネームの登録

設定したフライトコンディションに名前をつけます。

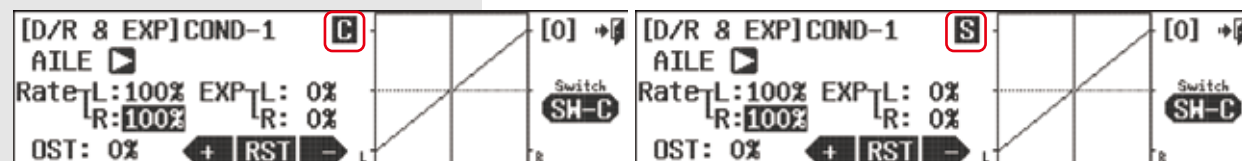
1：希望するコンディションをタッチして反転表示にします。
2：「Rename」をタッチするとキーボード画面になりますので名前を入力します。
3：最後に「Enter」で確定します。

フライトコンディション　FLT.COND (ACRO and GLID)

●フライトコンディションの追加
デフォルトで設定されているコンディションの他に新たにコンディションを追加できます。

●フライトコンディションの優先順位変更
「Prior」アイコンの矢印をタッチすることでコンディションの優先順位を変更できます。コンディション番号が上がるに従い優先順位も上がっていきます。

C ＆ S, コンビネーション ＆セパレート"設定

・こちらの設定がAURORA9X の最大の特徴です。このS、Cの表示は多くの設定で現れます。
Cに設定するとコンビネーションの設定になり、フライトコンディションごとに設定データーは切り替わらず共通の設定となります。

Sに設定するとセパレート設定となりフライトコンディションごとに異なる設定数値を入力できます、また多くの場合コンディションスイッチとは別のスイッチでも数値を切り替えられる為、より多くの設定数値の切り替えを実現します。

Cをタッチすると Sに変わり、各データは
セパレート設定となります

Sをタッチすると Cに変わり、各データは
コンビネーション設定となります。

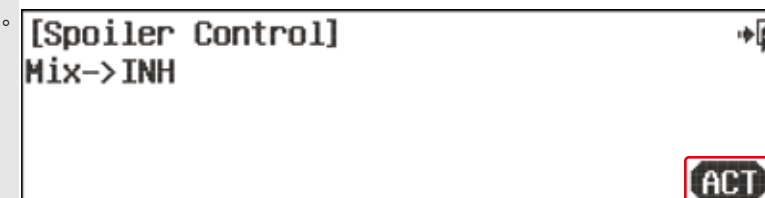
スポイラー　Spoiler （GLID）

Spoiler Function and Landing Mode.
●着陸用スポイラー設定

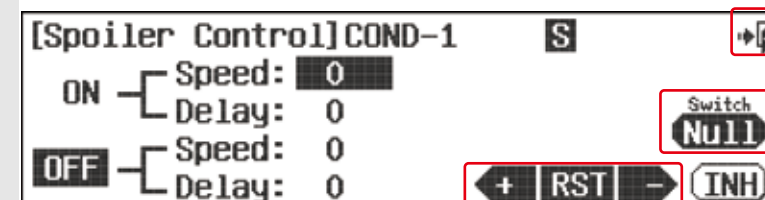
Note

・こちらの設定ではスイッチのON-OFFによりスポイラーを動作させます。
・スポイラーの動作を調整式として使用したい場合はP61をご参照ください。
・スポイラーをこちらの設定でスイッチ操作に割り当てるとサイドレバー等の操作よりスイッチが優先されます。

1. モデルメニューより「Spoiler」を選択します。

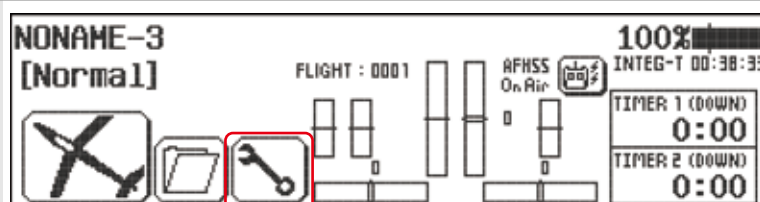
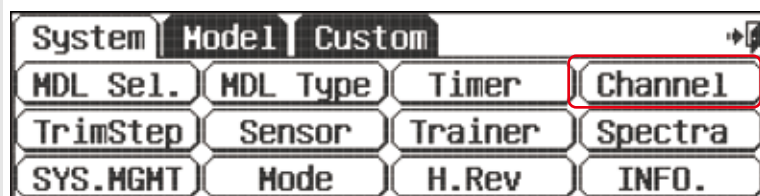
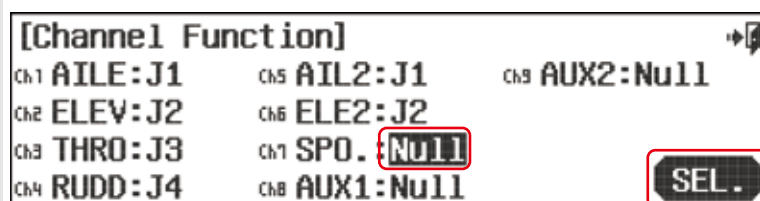
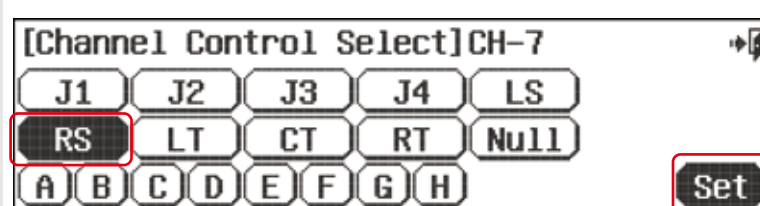
2. 「ACT」をタッチしてスポイラーを有効にします。

3. スイッチオプション
最初に操作するスイッチを選択します。「NULL」をタッチして他画面と同じようにスイッチを選択します。

Switch type	Function
2ポジションスイッチ対応	On / Off

4. Speed とDelayの設定を変更することでスポイラーの動作時間を変更可能です。Speedを調整するとスポイラー動作時にディレイを掛けることが可能です。Delayを調整するとスポイラーが動作するまでのインターバルタイムを設定することが可能です、ここでの設定は「＋・RST・－」を使用します。

スポイラー→エレベーターミックス　SPO-ELE (GLID)

Spoiler to Elevator Mix
スポイラーをサイドレバーでの操作に設定した場合、スポイラーの操作量に応じてエレベーターにミキシングする機能です。
スポイラー作動時の機体のピッチングの緩和に最適です。

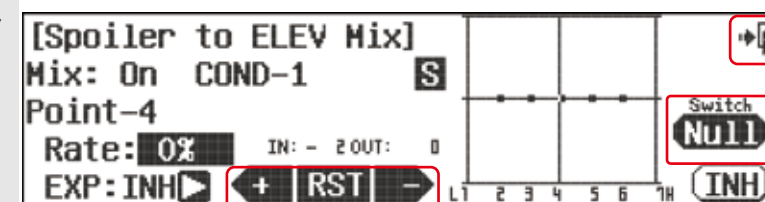
●スポイラーの設定
最初にスポイラーの操作をサイドレバーに設定します。

1:ホームスクリーン画面からシステムメニュー画面に入ります。

2:「Channel」をタッチします。

3:「Spoiler」が設定してあるチャンネル横の「NULL」→「SEL.」とタッチします。

4:サイドレバーを設定しますので「RS」または「LS」をタッチして「SEL.」で決定します。

5:「Spoiler」の設定を確認したら「EXIT」でシステムメニュー画面に戻ります。

スポイラー→エレベーターミックス　SPO-ELE (GLID)

Program a Spoiler to Elevator mix
1:モデルメニューより「SPO-ELE」を選択します。

2:「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

3: AURORA 9Xでは各動翼の動作角を7ポイントカーブで調整可能です。デフォルトで設定されているスティックやスイッチ、又は任意で設定したものを動作させるとグラフ中央のバーが連動し移動しますので＋・ーアイコンで数値を変更します。ここでのカーブのポイントは「RST」アイコンでポイント数と位置を自由に変更可能です。

4: 「EXIT」で設定完了です。

スイッチオプション
2ポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用し各フライトコンディションごとに設定数値を切り替えることが可能です。また、アジャストファンクションにも対応しておりますので詳しくはp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR adjustment
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	アジャストファンクション対応

エルロン→ラダーミックス　AIL-RUD (ACRO and GLID)

Aileron to Rudder Mix.

エルロンからラダーへのミキシングです。 大型スケール機の操縦に適します。

###　この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1:モデルメニューより「AIL-RUD」を選択します。

2:「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

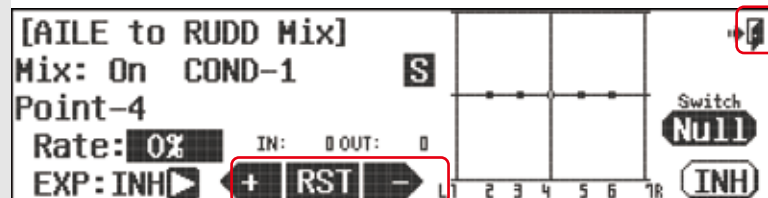
スイッチオプション
2ポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用し各フライトコンディションごとに設定数値を切り替えることが可能です。また、トリムリンクとアジャストファンクションにも対応しておりますので詳しくはP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Trim link	VR adjustment
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応	アジャストファンクション対応

3:AURORA 9Xでは各動翼の動作角を7ポイントカーブで調整可能です。

デフォルトで設定されているスティックやスイッチ、または任意で設定したものを動作させるとグラフ中央のバーが連動し移動しますので＋・ーアイコンで数値を変更します。

4:ここでのカーブのポイントは「RST」アイコンでポイント数と位置を自由に変更可能です。

5:「EXIT」で設定完了です。

エレベーター→キャンバーミックス ELE-CAM (ACRO and GLID)

Elevator to Camber Mix.

エレベーター操作をキャンバー変化にミックスします。
これはキャンバー変化が可能な舵面構成である必要があります。

###　この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

1:モデルメニューより「ELE-CAN」を選択します。

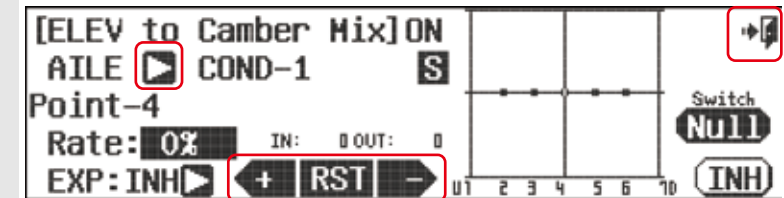
2:「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

スイッチオプション
2ポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用し各フライトコンディションごとに設定数値を切り替えることが可能です。
また、トリムリンクにも対応しておりますので詳しくはp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Trim link
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応

3: AURORA9Xでは各動翼の動作角を7ポイントカーブで調整可能です。デフォルトで設定されているスティックやスイッチ、または任意で設定したものを動作させるとグラフ中央のバーが連動し移動しますので＋・ーアイコンで数値を変更します。ここでのカーブのポイントは「RST」アイコンでポイント数と位置を自由に変更可能です。

4:次に、フラップやエルロンの可変量を設定します。舵面が複数ある場合は三角アイコンをタッチして各舵面に切換えます。

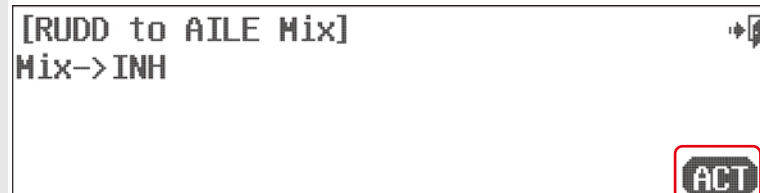
5:「EXIT」で設定完了です。

ラダー→エルロンミックス　RUD-AIL (ACRO and GLID)

Rudder to Aileron Mix.

ラダー操作をエルロンにミキシングする機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

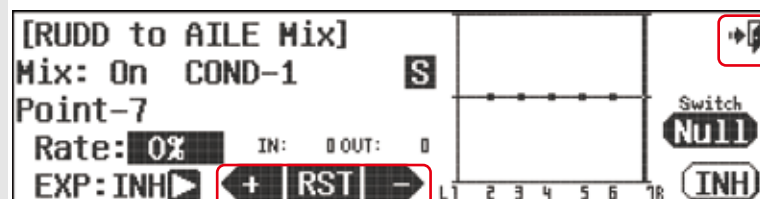
1：モデルメニューより「RUD-AIL」を選択します。

2：「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

[RUDD to AILE Mix]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
2ポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用し各フライトコンディションごとに設定数値を切り替えることが可能です。また、トリムリンクにも対応しておりますので詳しくはP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Trim link
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応

3: AURORA 9Xでは各動翼の動作角を7ポイントカーブで調整可能です。デフォルトで設定されているスティックやスイッチ、または任意で設定したものを動作させるとグラフ中央のバーが連動し移動しますので＋・ーアイコンで数値を変更します。ここでのカーブのポイントは「RST」アイコンでポイント数と位置を自由に変更可能です。

4:「EXIT」で設定完了です。

エルロンディファレンシャル　AIL DIFF (ACRO and GLID)

Aileron Differential.

２サーボ以上の主翼ではエルロンの上下の舵角に差をつける事ができます。
特にクラークYや半対称の翼型では、この差動を付けないと抵抗成分の影響で機首が逆に向く現象が出易くなります。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

1:モデルメニューより「AIL DIFF」を選択します。

スイッチオプション
エルロンディファレンシャルの設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとトリムリンクに対応します。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

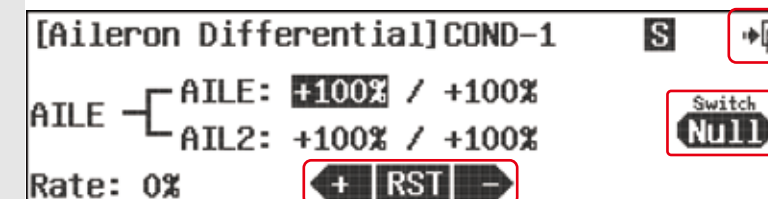
Switch type	Function	Trim link
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	トリムリンク対応

2:変更したい数値をタッチします。

3:（ーRST＋）アイコンで数値を変更します。

4:「EXIT」で設定完了です。

[Aileron Differential] COND-1 S
AILE ┬ AILE: +100% / +100%
└ AIL2: +100% / +100%
Rate: 0%
+ RST −

Tip

「AILE」と「AIL2」でそれぞれのエルロンの舵角を設定できます。必ずサーボを動作させて確認してください。
通常、下側の舵角を50%から試してください。

エルロン→フラップ　AIL- FLP (ACRO and GLID)

Aileron to Flap Mix.

2フラップ以上のフラップを持つ主翼ではエルロン操作をフラップに
ミックスして全翼エルロンが可能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

1：モデルメニューより「AIL-FLP」を選択します。

2：「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

スイッチオプション
2ポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用し各フライトコンディションごとに設定数値を切り替えることが可能です。また、トリムリンクとアジャストファンクションにも対応しておりますので詳しくはP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Trim link	VR adjustment
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応	アジャストファンクション対応

3: AURORA 9Xでは各動翼の動作角を7ポイントカーブで調整可能です。デフォルトで設定されているスティックやスイッチ、または任意で設定したものを動作させるとグラフ中央のバーが連動し移動しますので＋・ーアイコンで数値を変更します。ここでのカーブのポイントは「RST」アイコンでポイント数と位置を自由に変更可能です。

4: フラップ2を設定している場合は画像の「FLAP」の隣の矢印アイコンを押すことで切り替わります。

5: 「EXIT」で設定完了です。

キャンバーミックス　CAMBMIX (ACRO and GLID)

Wing Trailing Edge Camber Mix.

2エルロン以上の舵面構成の主翼で翼型を可変させる設定が可能です。同時にエレベーターの補正もできます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1：モデルメニューより「CANBMIX」を選択します。

2：「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

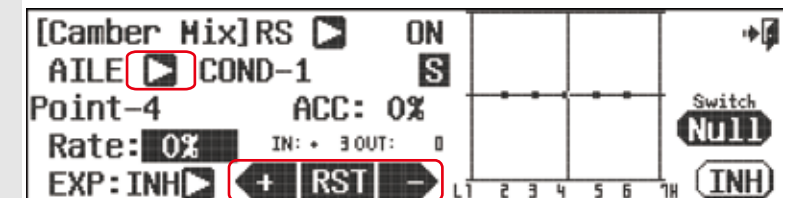
[Camber Mix]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
2ポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用し各フライトコンディションごとに設定数値を切り替えることが可能です。また、アジャストファンクションの設定も可能ですので詳しくはP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。
詳しい説明はP74以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR adjustment
2 ポジションスイッチ対応	ON/OFF	アジャストファンクション対応

3：最初にキャンバーを操作するスイッチ、レバーを選択します。画面最上部の三角アイコンをタッチすると選択画面に進みます。

4：次に、フラップやエルロンの可変量を設定します。舵面が複数ある場合は三角アイコンをタッチして各舵面に切換えます。

5：機能のON-OFFスイッチが設定されていない場合は画面右の「NULL」をタッチしてスイッチを割り当てます。

6: AURORA 9Xでは各動翼の動作角を7ポイントカーブで調整可能です。デフォルトで設定されているスティックやスイッチ、または任意で設定したものを動作させるとグラフ中央のバーが連動し移動しますので＋・ーアイコンで数値を変更します。ここでのカーブのポイントは「RST」アイコンでポイント数と位置を自由に変更可能です。

7：「EXIT」で設定完了です。

※「ACC」はアクセラレーション量で加速度ミキシングです。サーボを動作させてご確認ください。
「EXP」は各ポイントの接続を曲線で滑らかにします。

Note

上記画面の「RS」のスイッチ割り当てをNullにすることで画面が切り替わります。

フラップコントロール　FLP CON (ACRO and GLID)

Flap to Elevator Mix.

フラップ動作角度の設定とエレベーターへのミキシングを行いフラップ作動時のピッチングを補正します。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

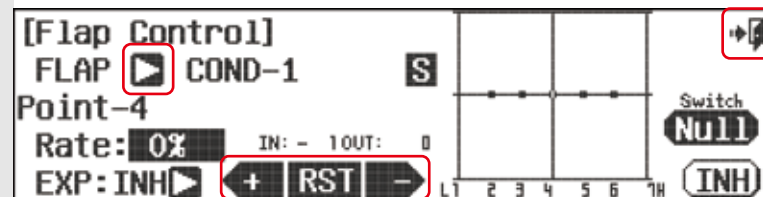
1：モデルメニューより「FLAP CON」を選択します。

2：「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

スイッチオプション
フラップコントロールの設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの設定が可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR adjustment
2又は3ポジションスイッチ	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

3：最初にこの機能を切替えるイッチを選択します。画面右の「NULL」をタッチすると選択画面に進みます。
「Adjust　Function」でミックス量も飛行中に調整可能です。

4：次に、フラップの動作量を設定します。
「＋・RST・－」部分でミキシングカーブを調整します。
「ELEV」でエレベーターの補正も設定できます。

6：フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。スイッチ別のポジションをよく確認してください。
各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、共通で使用する場合は「C」表示にします。

7：「EXIT」で設定完了です。

Note

チャンネルファンクションでフラップを独立して設定していない場合は、「Flap Control」の横に現れるNullをタッチしコントロールするスイッチを選択します。

フラップトリム　FLAPTRIM (ACRO)

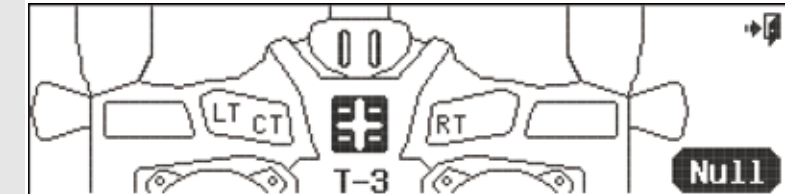
Flap Trim Mix.

フラップトリム機能は一般的に二つのフラップのアップ/ダウンを微調整するために使用されます。

1：モデルメニューより「Flap Trim」を選択します。

2：「ACT」でこの機のを有効にします。

3：変更したい項目を選択し、「＋RST－」アイコンを使用し数値を変更します。

4：スイッチはLT, CT,RT いずれかに割り当てることができます。

5：「EXIT」で設定完了です。

Vテール　V.Tail (ACRO and GLID)

V.Tail Set up

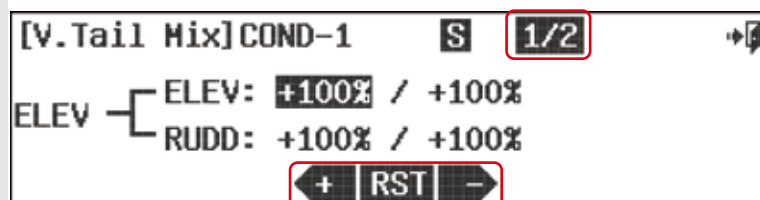
ここではVテール設定でエレベーターとラダーのミキシング差動量を変更出来ます。

Tip

この機能の初期設定は各100%になっていますので通常、改めて調整する必要はありません。

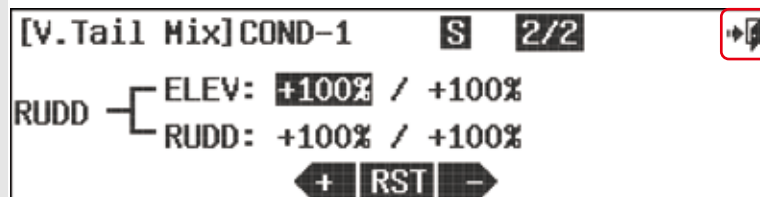
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1：モデルメニューより「V.Tail」を選択します。

2：最初にエレベーター操作のミックス量を設定します。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「＋・RST・－」部分で調整します。

[V.Tail Mix] COND-1　S　1/2
ELEV ELEV: +100% / +100%
RUDD: +100% / +100%
+ RST −

3：次にラダー操作のミックス量を設定します。画面右上のページアイコンをタッチして次画面に切換えます。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「＋・RST・－」部分で調整します。

4：「EXIT」で設定完了です。

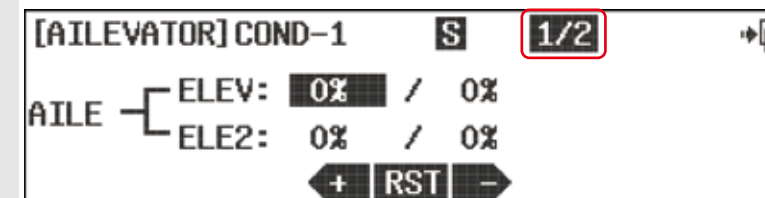
[V.Tail Mix] COND-1　S　2/2
RUDD ELEV: +100% / +100%
RUDD: +100% / +100%
+ RST −

エイルベーター　AILEVATOR (ACRO and GLID)

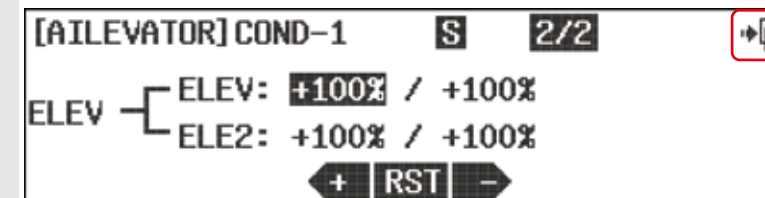
Split Elevator and Aileron Mix Controls.

エレベーターを2つのチャンネルで構成されている場合にエレベーター動作にエルロン動作をミキシングできます。
テイルロンを必要とする機体に有効です。「MDL TYPE」のTail設定をAILEVATORにすることでこの機能が使用できます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

1：モデルメニューより「AILEVATR」を選択します。

2：最初にエルロン操作のミックス量を設定します。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「＋・RST・－」部分で調整します。

3：次にエレベーター操作のミックス量を設定します。画面右上のページアイコンをタッチして次画面に切換えます。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「＋・RST・－」部分で調整します。

4：「EXIT」で設定完了です。

エレボン　Elevon (ACRO and GLID)

Flying Wing Mix.

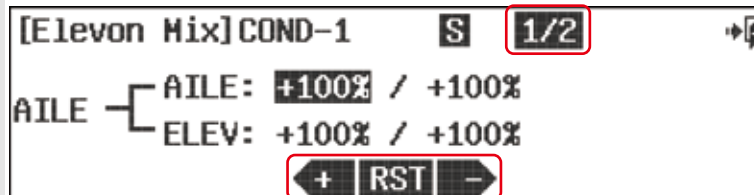
ここではエレボン設定でエルロンとエレベーターのミキシング差動量を変更出来ます。AURORA 9Xでは片方に一つの動翼面があればエレボンの設定を行うことができます。

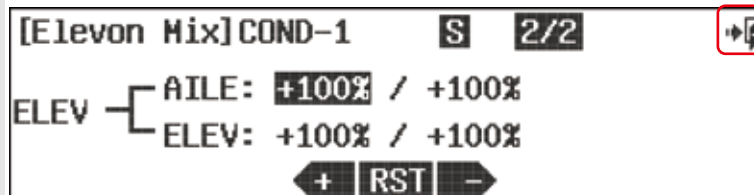
Tip

この機能の初期設定は各100%になっていますので通常、改めて調整する必要はありません。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1：モデルメニューより「Elevon」を選択します。

2：最初にエルロン操作のミックス量を設定します。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「＋・RST・－」部分で調整します。

3：次にエレベーター操作のミックス量を設定します。画面右上のページアイコンをタッチして次画面に切換えます。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「＋・RST・－」部分で調整します。

4：「EXIT」で設定完了です。

スロットルカット　Thro.Cut (ACRO)

Throttle Cut Position.

スロットルカット機能は通常のスティック操作範囲外の位置にサーボを動作させてエンジンを停止させる為の機能です。これはスティックの任意の位置でスイッチ動作する事ができます。

1：モデルメニューより「Thro.Cut」を選択します。

2：「ACT」でこの機能を有効にします。

[Throttle Cut]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
スロットルカット設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとカットポジションの設定が可能です。しかし、スロットルカットは通常リターン機能のあるスイッチHに割り当てます。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Trim link	Cut position
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応	カットポジション対応

3：「NULL」でスイッチ選択画面に移行します。その画面で機能のON-OFFスイッチを選択すると「CutPosition」が使用できます。これはスロットルスティックの位置でサーボをカット位置にロックする動作をします。
実際にサーボを動作させて確認してください。

4：Rateでキャブが閉じる位置にサーボを調整します。

5：「EXIT」で完了です。

Tip

カットポジションはデフォルトで50%に設定されております。

スロットルカーブ　T.Curve (ACRO)

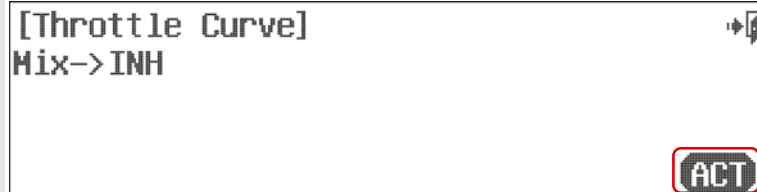
Throttle Curve Adjustment.

スロットルカーブはスティック操作でのサーボ動作にカーブをつける機能です。
スイッチでの切換えやアクセレーション効果も調整できます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

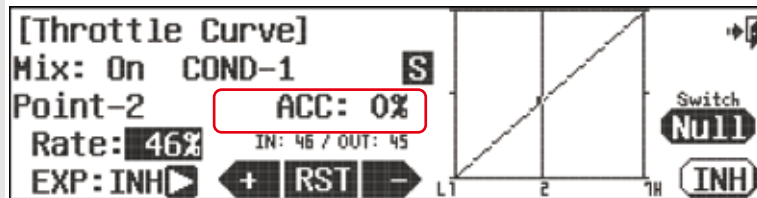
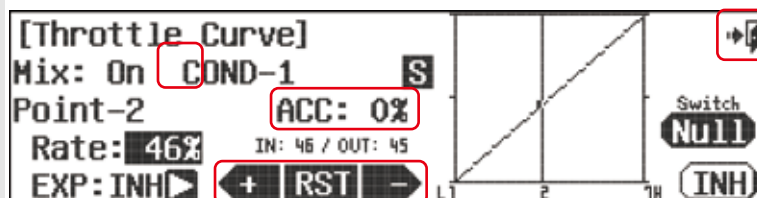
1：モデルメニューより「T.Curve」を選択します。

2：「ACT」をタッチしてこの機能を有効にします。

[Throttle Curve]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
スロットルカーブ設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR adjustment
2･3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

3：スティック動作に対するカーブ曲線を画面のグラフで確認できます。
　スティックをグラフの各ポイントに置いて「Rate」の数値を調整します。
　※ここで任意のスティック位置で「RST」アイコンをタッチすることによりポイント数とポイントの位置を自由に変更することが可能です。

4：「EXP」は各ポイントの接続を曲線で滑らかにします。

5：「ACC」はアクセレーション機能でスティックの操作速度に応じてサーボがオーバーシュート動作をするものです。
　実際にサーボの動作で確認してください。スロットルレスポンスの改善に役立ちます。

6：設定を確認したら「EXIT」で完了です。

アイドルダウン　Idle Down (ACRO)

Idle Adjustment.

アイドルダウン機能は通常のスティックのスロー側より下に操作範囲を広げる機能です。また、数値の変更により操作範囲を狭めることも可能です。スイッチによってON-OFFできます。

1：モデルメニューより「Idle Down」を選択します。

2：「ACT」でこの機のを有効にします。

[Idle Down]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
各種スイッチの割り当てとトリムリンクに対応しております。詳しくはP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください

Switch type	Function	Trim link
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応

3：画面右の「NULL」でスイッチ選択画面に行きます。その画面で機能のON-OFFスイッチを選択します。また「Adjust to Trim」でトリムの有効ー無効も選択できます。

[Idle Down]OFF
Rate : 0%

4：この機能が動作した時のサーボのスロー側は「Rate」の数値で設定します。
　実際にサーボを動作させてリンケージがロックしないか確認してください。

5：「EXIT」で完了です。

バタフライミックス　B-fly (GLID)

Butterfly or Crow Mix.

バタフライミックスはエルロンとフラップを交互に展開させてエアブレーキを実現する機能です。スイッチでの操作以外にスロットルスティックでの比例操作、またはスティックの任意の位置でのスイッチ動作も設定できます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1:モデルメニューより「B-fly」を選択します。

2:「ACT」でこの機能を有効にします。

[Butterfly]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
各種スイッチの他にスロットルスティックも割り当てることが可能です。また、アジャストファンクションにも対応して要りますので詳しくはP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください

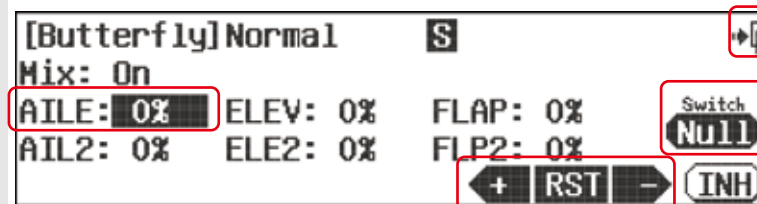
Switch type	Function	Cut Function	VR adjustment
2ポジション 又はスロットル	ON/OFF	カットファンクション対応	アジャストファンクション対応

Tip

「T.stick」の設定を「Linear」にすることでバタフライの動作をスロットルスティックでのリニア操作に変更することが可能です。

3:ミックス量はこの機能画面の各チャンネルの数値をタッチして設定します。エレベーターにもミックスが可能です。

4:2ページ目の「Speed」スピードの設定はスイッチ動作時の切換え速度を調整できます。

[Butterfly]Normal S
Mix: On
AILE: 0%　ELEV: 0%　FLAP: 0%
AIL2: 0%　ELE2: 0%　FLP2: 0%
Switch Null
+ RST − INH

※実際に動作の様子を「Monitor」で確認してください。

5:設定が終わりましたら「EXIT」で完了です。

Note

バタフライ、キャンバー、ランチなどのミキシング設定が重複した場合は最初に(ACT)にし設定したミキシングが優先されます。

スナップロール　SnapRoll (ACRO)

Automatic Snap-Roll Function.

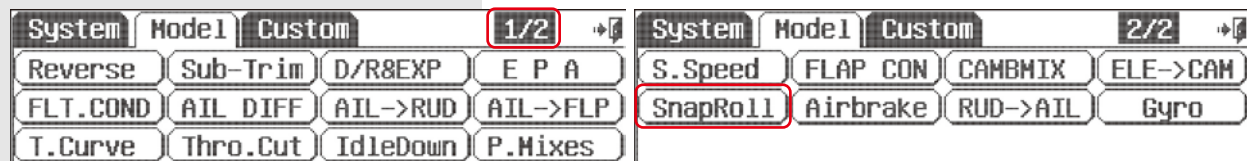
スナップロール機能はスイッチ操作でエルロン、エレベーター、ラダーを設定してある位置に自動で切換えてスナップロール操作を自動化する機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

●次の4種類のスナップロールを設定できます。
R/U=右インサイドスナップ
L/U=左インサイドスナップ
R/D=右アウトサイドスナップ
L/D=左アウトサイドスナップ

●この機能は二種類の使用方法があります。

1:いずれかの方向をシングル動作で行う。
2:4方向のスナップを設定したスイッチで切替えて操作を行う。

●シングル動作の設定
1:モデルメニューから「SnapRoll」アイコンをタッチします。(2ページ目にあります)

2:「ACT」をタッチして機能を有効にします。

3:画面右の「NULL」からスイッチ設定画面に入ります。

スナップロールスイッチ設定
・前項のスナップロール設定に注意し「NULL」をタッチします。詳しくはP76以降をご覧いただき任意のスイッチを割り当ててください。通常はセルフリターンの「H」をマスター(操作)スイッチとして設定します。

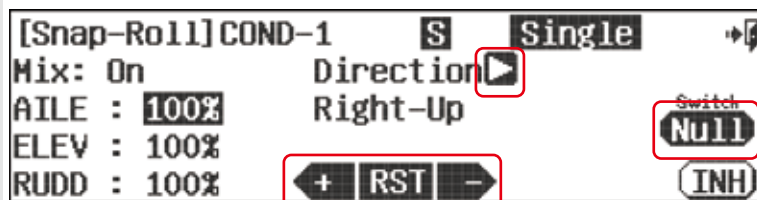
Switch type	Function
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF

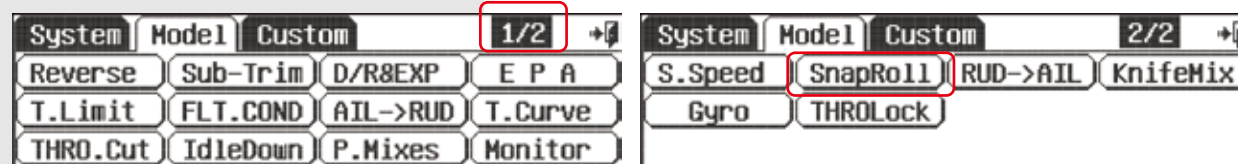
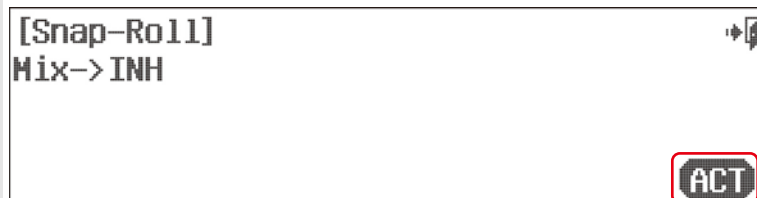
スナップロール　SnapRoll (ACRO)

4:「Direction」右横の三角アイコンをタッチするとスナップの方向選択ダイアログが表示されます。いずれかをタッチして選択します。

5:続いて各舵の角度を設定します。画面左の各舵の名称右側の数値をタッチして反転表示されて「＋・RST・ー」で設定します。

6:「H」スイッチで各サーボが設定の位置になる事を確認してください。

7:「EXIT」で画面を抜け完了です。

●マルチ「Multi」動作の設定

1:モデルメニューから「SnapRoll」アイコンをタッチします。(2ページ目にあります)

2:「ACT」をタッチして機能を有効にします。

スナップロールスイッチ設定

・前項のスナップロール設定に注意し「NULL」をタッチします。詳しくはP76以降をご覧いただき任意のスイッチを割り当ててください。通常はセルフリターンの「H」をマスター(操作)スイッチとして設定します。

Switch type	Function
2ポジションスイッチ対応	ON/OFF

3:「Single」アイコンをタッチすると「Multi」に切換ります。

スナップロール　SnapRoll (ACRO)

5:「Direction」横の三角アイコンをタッチすると全方向のスイッチ選択ダイアログが出ます。

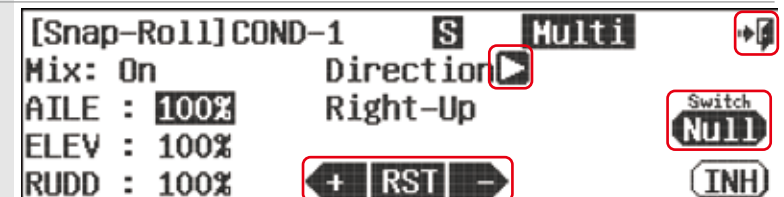
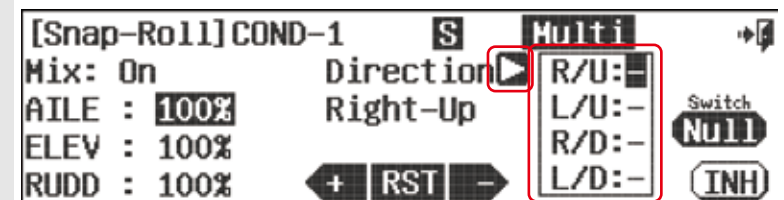
6:各方向、それぞれに画面右の「NULL」でスイッチを設定します。
※各方向のスイッチは別々に設定してください。

7:スイッチを設定した後に各方向スイッチを操作して希望のスナップ方向が表示されるか確認してください。
方向スイッチは後に操作したものが優先となります。

Switch type	Function
2、3ポジション対応	ON/OFF

8:各方向別にスナップ時の舵の動作角度を設定します。「Direction」横の三角アイコンでダイアログを開いて方向を選びます。

9:続いて各舵の角度を設定します。画面左の各舵の名称右側の数値をタッチして反転表示させて「＋・RST・ー」で設定します。

10:「EXIT」で画面を抜け完了です。

ナイフエッジミックス　Knife Edge Mix(ARCO)

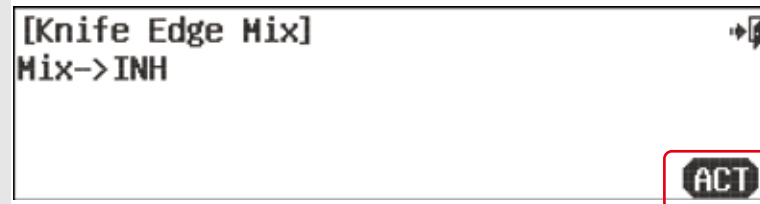
Knife Edge Mix

この機能はナイフエッジ飛行の癖を取り操縦し易くするためのミキシング機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

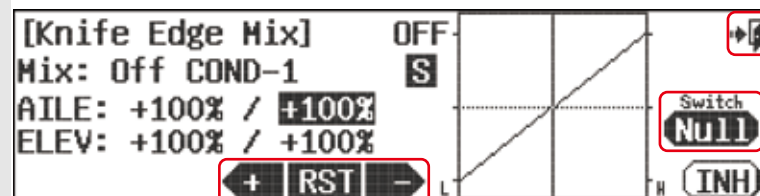
・モデルメニューより「Knife Edge Mix」を選択します。

「ACT」を選択し機能を有効にします。

[Knife Edge Mix]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
任意のポジションスイッチをミキシングのON/OFFに使用します。また、アジャストファンクションの調整も可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR adjustment
2・3 ポジションスイッチ対応	ON/OFF	アジャストファンクション対応

・ラダーchよりエルロン、エレベーターにミキシングが掛かります。グラフではラダースティックを操作し、方向を選択します。
数値は「－RST＋」アイコンで変更します。

・任意のスイッチを割り当てミキシングON/OFFを設定します。

「Exit」でモデルメニューに戻り完了です。

モーター制御　Motor (GLID)

Motor Control Menu.

モーターをスイッチでON-OFFする機能です。急な回転変化は好ましくないのでAURORA 9Xではスティックで操作するように自動的にESCへの信号を緩やかにすることも可能です。変化させることができます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。　###

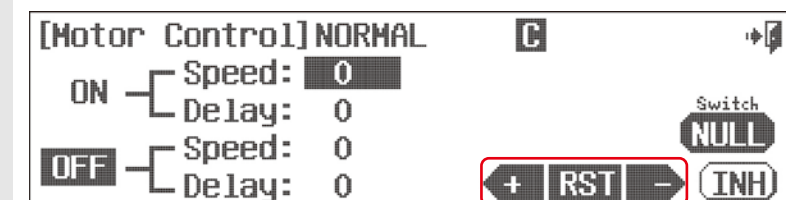
1：モデルメニューより「Motor」を選択します。

2：「ACT」を選択し機能を有効にします。

[Motor Control]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
2ポジションスイッチにモーターのON/OFFを割り当てることが可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Trim link
2 ポジションスイッチ対応	ON/OFF	トリムリンク対応

3：モーターを ON-OFF をするスイッチを選択します画面右の「NULL」からスイッチ選択画面に進みます。

4：モーター回転の切換えタイミングを設定します。
ON：Speed＝モーターが停止～最大出力になるまでの時間です。
ON：Dely＝ON のスイッチ操作が反映される遅延時間です。
OFF：Speed＝モーターが最大出力～停止になるまでの時間です。
OFF：Dely＝OFF スイッチ操作が反映される遅延時間です。

5：設定が済みましたら「EXIT」でメニュー画面に戻り完了です。

※時間の単位は0.1秒ステップです。
「ON」の「Speed」は必ずある程度の数値を入れてください。急な切り替えでは電池やESCに大きな電流が流れ危険です。電流が流れ危険です。

ランチメニュー　Launch (GLID)

Glider Launch Menu.

グライダーをウインチやショックコードで発航するする時の
エルロンやフラップ、エレベーターにミキシングを掛けて動翼位置をプリセットする機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1：モデルメニューより「Launch」を選択します。

2：「ACT」を選択し機能を有効にします。

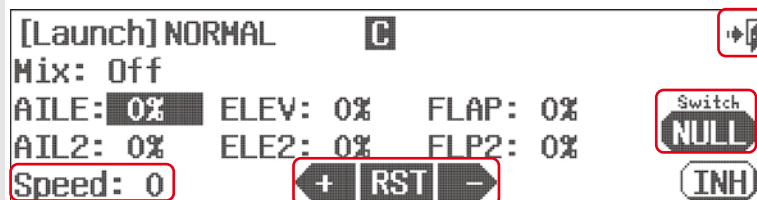
スイッチオプション
ランチメニューではフライトコンディションを「Launch」にした時にミキシングが有効となり、そのポジションで別のスイッチを割り当てることで数値を変更することが可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	Cut Function	VR adjustment
2ポジション対応	ON/OFF	カットポジション対応	アジャストファンクション対応

3：この機能のON-OFFスイッチを選択します。画面右の「NULL」から選択画面に入ります。
　その画面の「Cut Function」でスティックでのカットが可能です（P83参照）

4：各舵の位置を設定します。希望箇所をタッチして反転表示にして「＋・RST・－」で部分で変更します。

5：「Speed」はカットした後、各舵が戻るまでの変化時間です。サーボ動作でご確認ください。

6：「EXIT」で設定完了です。

カットポジションのON/OFFの表示はこの画面では現れませんが、スティックでカットする様子を「Monitor」メニューで確認することが可能です。

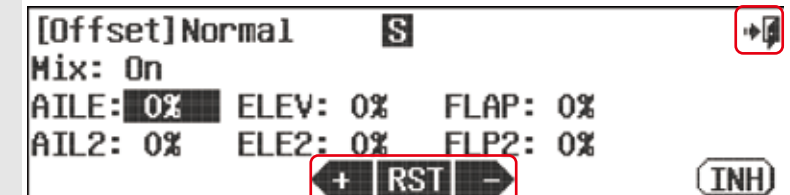
オフセット　Offset (GLID)

Offset Menu.

オフセットではエルロンやフラップ、エレベーターにミキシングを掛けてフライトコンディションごとに自由に動翼位置をプリセットする機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1:モデルメニューより「Offset」を選択します。

2:「ACT」を選択し機能を有効にします。

3:各舵の位置を設定します。希望箇所をタッチして反転表示にして「＋・RST・－」で部分で変更します。

4:「EXIT」で設定完了です。

モデルメニュー HELI用 専用メニュー 設定

ここではヘリコプター(HELI) 用の詳細設定について説明します。

Tip

AURORA9Xをご使用のお客様で最初の機体がヘリコプターの場合は、この項の前に下記の
項目を最初にお読みください。

1.セクション3(Section three)ヘリクイックスタートガイド

2.セクション4(Section four)システムメニュー

3.セクション5(Section five)モデルメニュー標準機能

ヘリコプター詳細設定機能

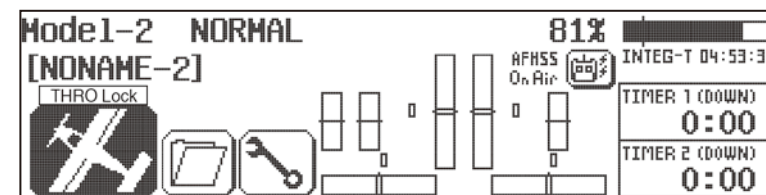
Flight Conditions	フライトコンディション
P. Curve & T. Curve	ピッチカーブ＆スロットルカーブ
SWH->THR	スワッシュ→スロットルミックス
RUD->THR	ラダー→スロットルミックス
T. HOLD	スロットル・ホールド
SwashMix	スワッシュミキシング
REVO Mix	レボリューションミックス
Gyro	ジャイロ感度
Governor	ガバナーコントロール

他モデルタイプ共通の標準機能

EPA	エンドポイント調整
D/R & EXP	デュアルレート＆エキスポ
Sub-Trim	サブトリム
Reverse	リバース
S. Speed	サーボスピード
Monitor	サーボモニター
P. Mixs	プログラムミキシング

************* 設定時の重要事項 *************

Tip

スロットルロック
エンジンが始動した機体や電動機を離陸場所に移動中に誤ってスロットルスティックに触れて
プロペラが不用意に回ってしまう事故を防ぐ為の機能です

画面左下のモデルアイコンを1秒間押し続けるとアイコンは黒になり「THRO LOCK」マークが表示
されます。スロットル位置はアイコンを押した時の位置に固定されます。

リセット

AURORA 9Xは様々な設定を行うことができますがその反面、複雑な調整の中で設定を間違ってしまうこともあるかと思います、どの設定が間違っているのか分らなくなってしまったら、一度設定したモデルメモリーをリセットすることをお勧めいたします。

スイッチ

AURORA 9Xは全てのスイッチを自由に各機能に割り当てることが可能です。
初期状態では「NULL」に設定されておりますので各種設定でスイッチの割り当てが必要となります。「NULL」でスイッチの割り当てを行わなければ機能は常時「ON」となります。また、各ミキシングでスイッチの割り当てを行う場合はミキシングのON/OFFを一つのスイッチに重複して割り当てることで連動させることも可能です。。

フライトコンディション

AURORA 9Xは各種設定を任意に選択したスイッチの他にフライトコンディションごとにも切り替えられる為、数多くの設定変更が可能です。設定画面の「S」セパレート、「C」コンビネーションの切り替えで反映されます。

各チャンネル調整数値の選択

AURORA 9XはD/Rの設定などの際に各チャンネルの数値を上下左右、独立して変更可能です。変更には3つの方法があります。

・任意のチャンネルを選択し、そのチャンネルに適合した舵を上下左右に動かすことで変更できます。
・任意のチャンネルを選択し、そのチャンネルに適合した%アイコンをタッチすることで変更できます。
・各チャンネル名や「Rate」アイコンをタッチすることで数値を同時に変更できます。

これらの設定はD/Rなどで実際に確認してください。

Flight Conditions, Idle-Ups and Throttle Hold.

フライトコンディションとは色々な設定を一括で切替える事ができる機能です。
最大8種類のフライトコンディションを設定できます。

フライトコンディション内訳
- ノーマル
- アイドルアップ1-4
- スロットルホールド
- その他コンディション7・8

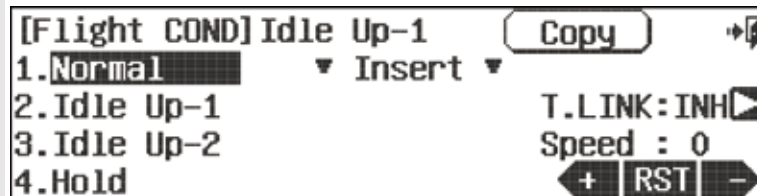
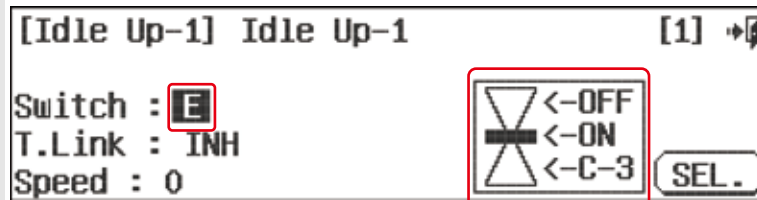
Note

AURORA9Xでは飛行モデルに適したフライトコンディションが予め設定されております。

AURORA9Xでは下記の設定がフライトコンディションに対応します。

Dual Rate & Exponential	デュアルレート＆EXP
Servo Speed	サーボスピード
Programmable Mixes	プログラムミックス
Throttle Curve	スロットルカーブ
Pitch Curve	ピッチカーブ
Needle Control	ニードルコントロール
Gyro Sensitivity	ジャイロ感度
Swash -> Throttle Mix	スワッシュ→スロットルミックス
Rudder -> Throttle Mix	ラダー→スロットルミックス
Governor	ガバナー

ヘリモードではアイドルアップ1・2がスイッチEにホールドがスイッチGにデフォルトで設定されております。
しかし、ユーザー自身で自由に変更が行えますので必要があれば設定を変更してください。

・モデルメニューより「FLT.COND」を選択します。

```
[Flight COND] Idle Up-1   Copy
1.Normal        ▼ Insert ▼
2.Idle Up-1          T.LINK:INH
3.Idle Up-2          Speed : 0
4.Hold               + RST -
```

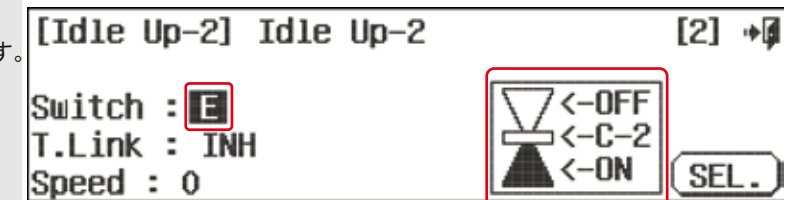
・アイドルアップ1はこの様に設定されております。

・アイドルアップ2はこの様に設定されております。

```
[Idle Up-2] Idle Up-2        [2]
Switch : E           <-OFF
T.Link : INH         <-C-2
Speed : 0            <-ON      SEL.
```

・ホールドはこの様に設定されております。

・「EXIT」でモデルメニューに戻り完了です。

```
[Hold] Hold                  [1]
Switch : G           <-OFF
T.Link : INH
Speed : 0            <-ON      SEL.
```

・設定の際の注意事項

1・フライトコンディションの割り当ては自由に変更可能です。

2・コンディションの切り替えスイッチについても自由に変更可能です。

3・トリムリンクは各コンディションごとに有効です。

4・Speedの設定について

ノーマルの画面でSpeedを増加させると他のコンディションからノーマルに戻る際にディレイが掛かります。

その他のコンディションでSpeedを増加させるとそのコンディションに行く際にディレイが掛かります。
仮にアイドルアップ1のSpeedの数値を増加させるとノーマルからアイドルアップ1に行く際のコンディションディレーが有効となります。

P. Curve and T. Curve

ピッチカーブとスロットルカーブは名称以外は同じ表示画面です。ここでの説明は両方の画面で説明してありますが設定はそれぞれの画面にて行ってください。

AURORA 9Xでは両カーブともに7ポイントのカーブが設定可能です、また（ACC）や（EXP）にも対応しておりますのでより幅広い設定が可能です。

Note

アジャスト機能でホバリングピッチやスロットルを飛行中に調整することが可能です。詳しくはp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

　この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

To activate both Pitch and Throttle curve menus:

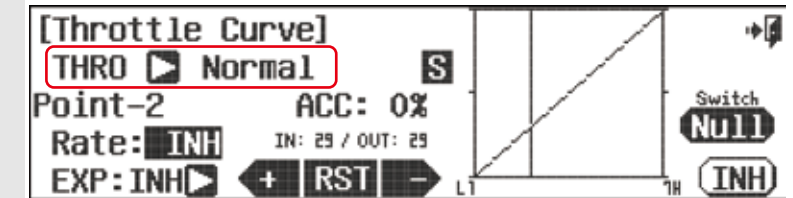
モデルメニューより「P.Curve」を選択します。

「ACT」を押して機能を有効にします。

「EXIT」で一旦モデルメニューに戻ります。

モデルメニューより「T.Curve」を選択します。

「ACT」を押して機能を有効にします。

・両方の画面で赤枠の三角アイコンをタッチするとピッチ画面とスロットル画面をモデルメニューに戻る事無く切替えられます。

スイッチオプション
カーブの設定に注意し、任意のポジションスイッチの割り当てとカーブ数値をアジャストファンクションで変更することが可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR Adjust
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

Tip

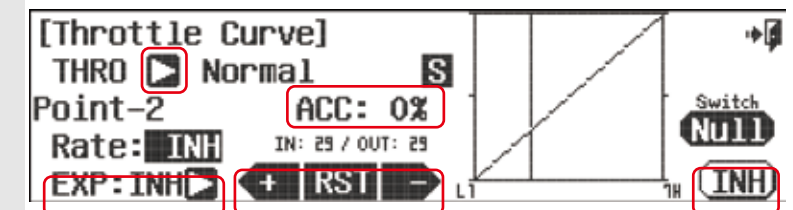
コンディションスイッチの位置やサブスイッチごとに異なった設定が可能です。
画面の表示をよく確認しながら設定変更を行ってください。

・スロットルスティックを操作すると画面右のグラフのバーが移動します。調整したいポイントにスティックを操作して「Rate」の数値を設定してください。結果はグラフに反映されます.

・各ポイントでRSTアイコンをタッチするとカーブのポイント数と位置を自由に変更できます。

・「EXP」は各ポイントの接続を曲線で滑らかにします。

「ACC」はアクセレーション機能でスティックの操作速度に応じてサーボがオーバーシュート動作をするものです。
実際にサーボの動作で確認してください。スロットルレスポンスの改善に役立ちます。

・設定を確認したら「EXIT」で完了です。

Note

「P.Curve」ピッチカーブや「T.CurveV」スロットルカーブ画面ではスティック動作に対するカーブを設定できます。
「Adjusut　Function」でサイドレバーやデジタルスイッチを使用するように設定するとそれぞれ次の操作を割り当てられます。

●スロットル機能
・ホバリングスロットル
・ホバリングピッチ

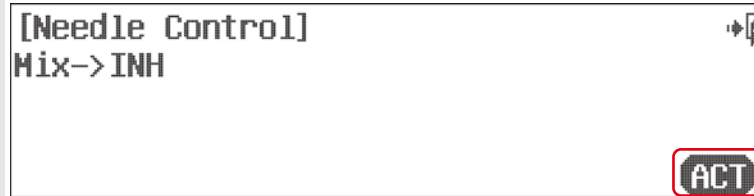
●ピッチカーブ機能
・ホバリングピッチ
・ハイピッチ
・ローピッチ

ニードルコントロール　Needle (HELI)

Carburetor Mixture Adjustment.
キャブレターのニードルをサイドレバー「LS」で調整できると同時にピッチチャンネルからもミキシングが掛けられます。

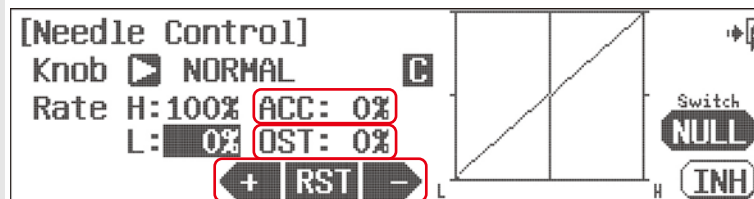
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

・モデルメニューより「Needle」を選択します。

・「ACT」で機能を有効にします。

[Needle Control]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
こちらの設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です
詳しい説明はp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR Adjustment
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

ニードルコントロール数値調整
・「Knob」に設定ではデフォルトでスイッチLSに割り当てられたニードルコントロールチャンネルの動作幅を調整できます、（＋RST－）アイコンで変更します。

ピッチミキシング数値調整
・矢印アイコンをタッチすると「PITCH」に切り替わりピッチ操作に対するニードルコントロールのミキシング量を変更可能です。

・「OST」はグラフ全体を上下に移動させることが可能です。

※「ACC」はアクセラレーション量で加速度ミキシングです。サーボを動作させてご確認ください。
・「Exit」で設定を完了します。

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM AURORA 9X

スワッシュプレート→スロットルミックス SWH-THR (HELI)

Swash to Throttle Mix.
スワッシュプレートが変化する（エルロン、エレベーター）動作に対して
スロットルへミックスして高度低下を防ぐ為の機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

1：モデルメニューより「SWH-THR」を選択します。

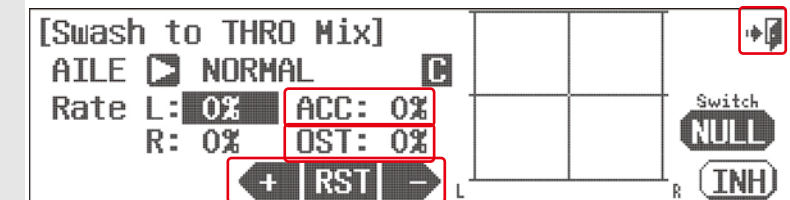
2：「ACT」で機能を有効にします。

[Swash to THRO Mix]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
こちらの設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR Adjustment
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

3: 画面の矢印アイコンをタッチしミキシングを掛けるチャンネルを選択します。

4: 上記で選択したスティックを動作させると画面の数値が反転表示します。（＋RST－）アイコンで数値を変更します。

5: 「OST」はグラフ全体を上下に移動させることが可能です。
※「ACC」はアクセラレーション量で加速度ミキシングです。 サーボを動作させて御確認ください。

6: 「Exit」で設定を完了します。

ラダー→スロットルミックス　RUD-THR (HELI)

Tail Rotor to Throttle Mix.

ラダー操作からスロットルへミックスして高度低下を防ぐ為の機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

1：モデルメニューより「SWH-THR」を選択します。

2：「ACT」で機能を有効にします。

[RUDD to THRO Mix]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
ラダー→スロットルミックスの設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です
詳しい説明はp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

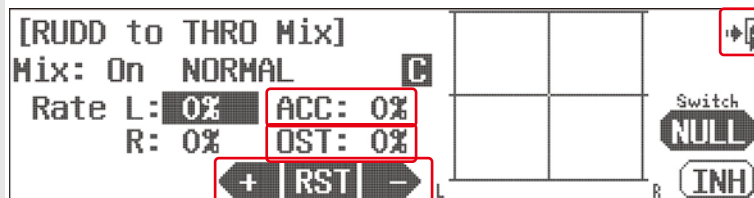
Switch type	Function	VR adjustment
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

3：ラダースティックを左右に動作させるとグラフ中央のバーが連動します。

4：希望箇所をタッチして反転表示にして「＋・RST・－」で部分で変更します。

5：「OST」はグラフ全体を上下に移動させることが可能です。
※「ACC」はアクセラレーション量で加速度ミキシングです。 サーボを動作させて御確認ください。

6：「Exit」で設定を完了します。

[RUDD to THRO Mix]
Mix: On NORMAL C
Rate L: 0% ACC: 0%
R: 0% OST: 0%
+ RST －
Switch NULL INH

スロットルホールド　T. HOLD (HELI)

Throttle Hold Position

オートローテーションの時に使用する機能です。スロットルを設定した位置に固定します。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

To use the Auroras throttle hold feature;
AURORA9XではデフォルトでフライトコンディションがスイッチFに割り当てられています。

Warning
この機能はフライトコンディション（P112）でスイッチの割当が完了していないと機能しません。尚この説明書ではスイッチFに設定しています。

1：モデルメニューより「T.HOLD」を選択します。

2：「ACT」で機能を有効にします。

[Throttle Hold]
Mix->INH
ACT

3：「Rate1」で固定するサーボ位置を「＋・RST・－」で設定します。

4：「Delay」でスイッチを操作してからサーボが移動する時間を設定できます。

[Throttle Hold] NORMAL
Rate1: 0%
Delay: 0
Switch NULL INH

5：「EXIT」で完了です。

Tip
この機能では通常画面右横の「NULL」スイッチ選択画面は使用しません。

スワッシュミキシング　Swash Mix (HELI)

Swash Plate Adjustment Menu.

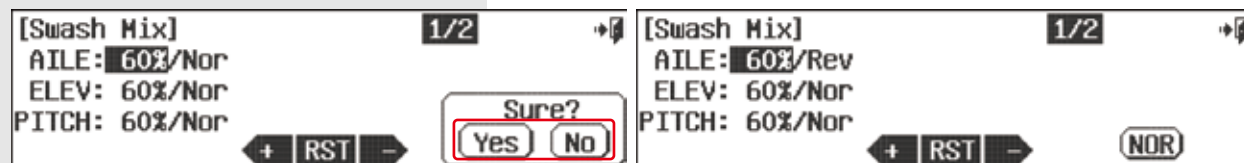
スワッシュアジャストメニューでは120度CCPM等の方式採用した機体の各チャンネル動作幅とサーボリバース方向を変更可能です。AURORA 9Xでは新たにスワッシュリング機能が追加されより幅広い設定を行うことができます。
※スワッシュプレートの水平出しを行う際は市販のスワッシュプレートレベリングツールをご使用ください。

ここでは例として120度CCPMの設定で説明します。

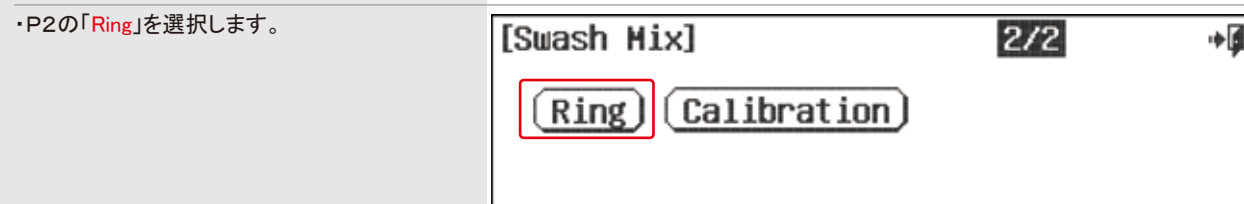
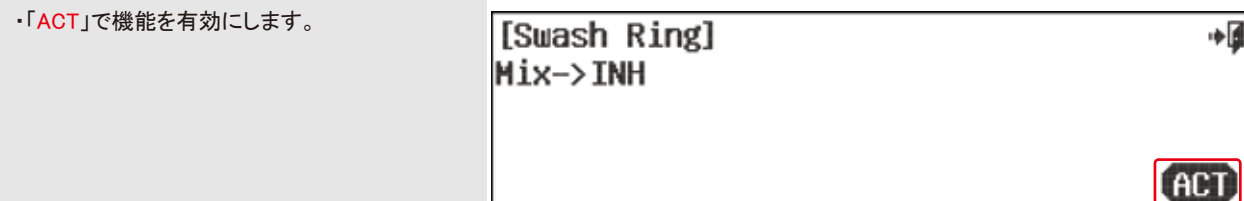
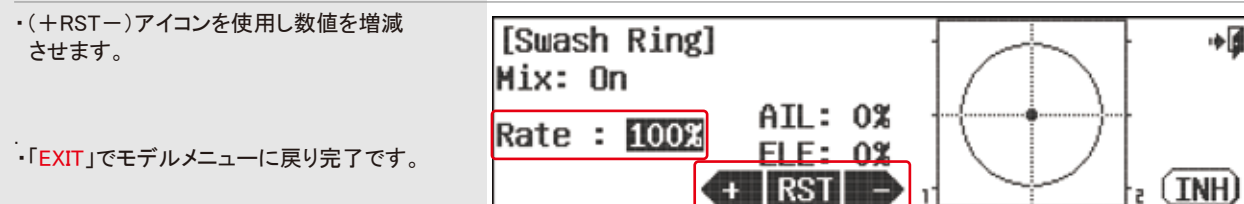
1：モデルメニューより「SwashMix」を選択します。

2：それぞれのサーボの比率は60%になっていますが変更したい場合は各舵のアイコンをタッチして変更できます。

3：反転は「REV」をタッチして行います。

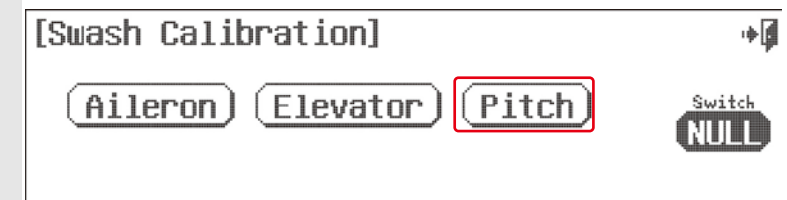
4：確認画面が出ますので「Yes」で決定です。

上記の項目でも調整が取れない場合は「Swash Ring」及び「Calibration」でより細かい調整が可能です。

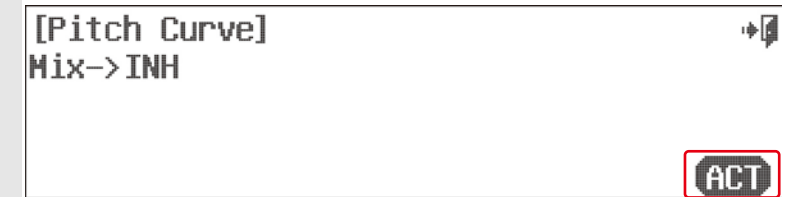
スワッシュリング
この機能を使用すると各CHごとの動作角だけではなく複合舵を打った際のスワッシュプレートの干渉を防ぐことが可能です。

・P2の「Ring」を選択します。

・「ACT」で機能を有効にします。

・（＋RST－）アイコンを使用し数値を増減させます。

・「EXIT」でモデルメニューに戻り完了です。

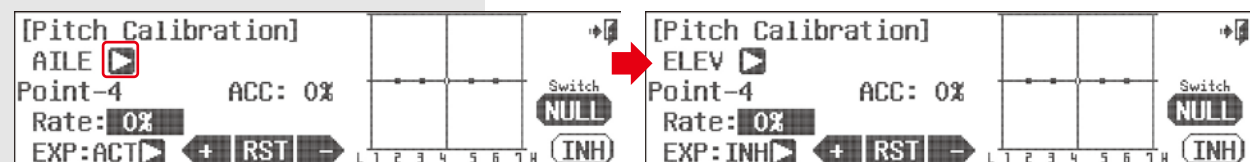
キャリブレーションメニュー
この機能では各chのミキシング量を自由に変更することが可能です。　実際に「Monitor」などでサーボ動作を確認してください。

・「Calibratihon」を選択します。

・こちらの画面で変更したいchを選択します。
ここでは仮にピッチを選択します。

・「ACT」を選択しキャリブレーション機能を有効にします。

[Pitch Curve]
Mix->INH
ACT

にのメニューではピッチの操作に対してエルロンとエレベーターの入力を修正することが可能です。

（AILE）横の矢印をタッチすると（ELEV）に切り替わります。

[Pitch Calibration]
ELEV
Point-4
ACC: 0%
Rate: 0%
EXP:INH
+ RST −
Switch
NULL
INH

・このときエレベーターのスティックを操作するとグラフ中央のバーが動作に追従しそのポイントの数値を＋・－アイコンで変更します。

・各ポイントでRSTアイコンをタッチするとカーブのポイント数と位置を自由に変更できます。

※「ACC」はアクセラレーション量で加速度ミキシングです。サーボを動作させてご確認ください。
「EXP」は各ポイントの接続を曲線で滑らかにします。

スワッシュミキシング Swash Mix (HELI)

スイッチオプション
スワッシュミキシングの設定に注意し、任意のポジションスイッチの割り当てが可能です。
詳しい説明はp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応

レボリューションミックス REVO Mix (HELI)

Revolution Mix.
ローターの反動トルクを消す為にピッチからテールローター(ラダー)にかけるミキシングです。

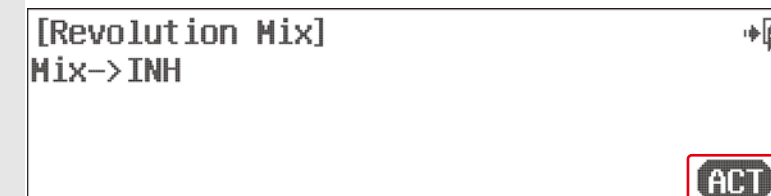
Tip

ヘッドロックジャイロを搭載している場合、この機能は使用しません。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。###

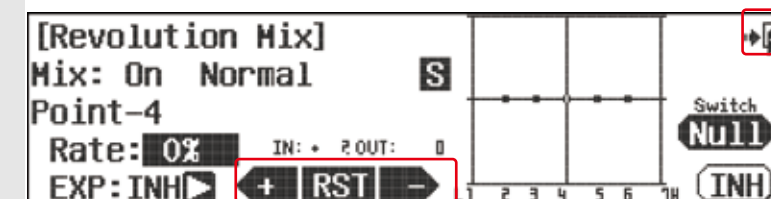
1:モデルメニューより「REVO Mix」を選択します。

2:「ACT」で機能を有効にします。

[Revolution Mix]
Mix->INH
ACT

スイッチオプション
レボリューションミックスの設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です。
詳しい説明はp76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応

3:ピッチを操作すると画面右のグラフのバーが移動します。

(各ポイントでRSTアイコンをタッチするとカーブのポイント数と位置を自由に変更できます。)

ミキシング量は「Rate」の数値をタッチして「＋・RST・－」部分で調整します。

4:「EXP」を(ACT)にすると各ポイント間のカーブを緩やかにできます。
実際にカーブの状態を確認してください。

5:「EXIT」でモデルメニューに戻り完了です。

ジャイロ Gyro (HELI)

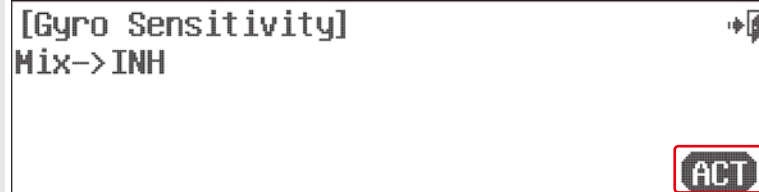
Gyro on/off and Sensitivity Adjustment
ヘリコプターラダージャイロの感度調整を管理する機能です。
フライトコンディションごとに異なった感度を設定でき、コンディションごとに最大3種類の感度も設定できます。
AURORA9Xではジャイロの感度設定を「single」、「dual」いずれかのタイプに切り替えることが可能です。
お使いのジャイロの説明書を良く理解してから設定作業に入ってください。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

Gyro set-up for helis

・モデルメニューより「Gyro」を選択します。

・「ACT」を選択し機能を有効にします。

[Gyro Sensitivity]
Mix->INH
ACT

Single モード ジャイロ感度設定

・このモードでは50%がニュートラルになり
感度が0となります。

[Gyro Sensitivity]NORMAL C
▶Rate1: 50%
Mode:Single
Switch NULL
+ RST −
INH

一般的に50%以上がヘッドロック、以下がノーマルです。
数値は「－RST＋」アイコンで変更します。

Dual モード ジャイロ感度設定

・このモードでは表記の通り0%が感度0となり、
ヘッドロックとノーマルを数値の変更なしに
切り替えることができます。
Modeの矢印をタッチしYESを押すことでモードが
切り替わります。

・どの位の数値を入力するのか決める為、ジャイロの説明書を参照してください。
数値は「－RST＋」アイコンで変更します。

「Exit」でモデルメニューに戻り完了です。

ジャイロ Gyro (HELI)

Note

数値変更の際はモデルメニューの「Monitor」で信号の変化の様子が確認できます。
・フライトコンディションのs「セパレート」、c「コンビネーション」の設定が可能です。

スイッチオプション
ジャイロ設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

ガバナー Governor(HELI)

RPM Governor Device Menu
.ガバナーの回転数を管理する機能です。フライトコンディションごとに異なった回転数を設定できます。
またコンディションごとに最大3種類の回転数が設定できます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

Note

ご使用になるガバナーの説明書を良く理解してください。

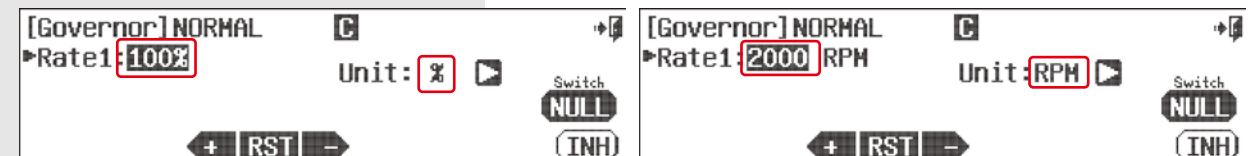
・モデルメニューより「Governor」を選択します。

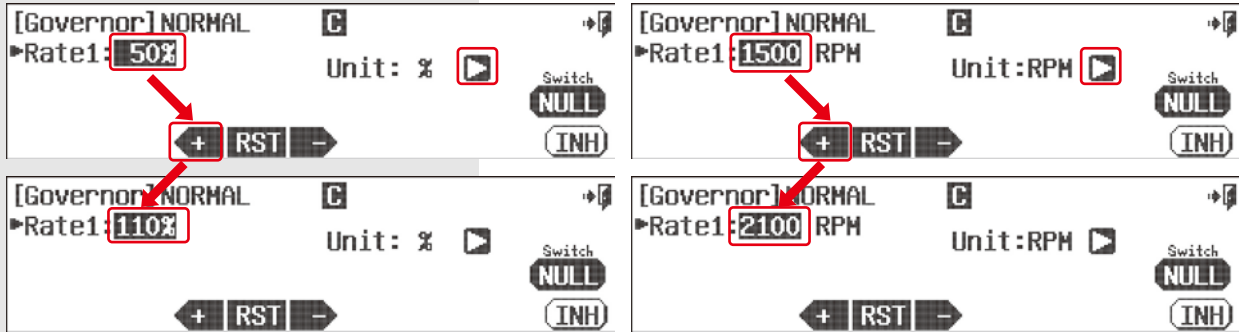
・「ACT」を選択し機能を有効にします。

[Governor]
Mix->INH

Tip

ガバナーの数値はスイッチの選択をせずにフライトコンディションごとに切り替えることができます。
また、コンディションスイッチの他に別の切り替えスイッチを割り当てることも可能です。
こちらの項目では分り易くするためスイッチの割り当てを行わずに説明をします。

ユニット数値の表示変更
表示の単位は「Unit」横の三角アイコンで回転数/%を選択できます。

ガバナー　Governor(HELI)

%Unit of　Value operation
・デフォルトでは50%（1500RPM）に設定されており、最大で110%（2100RPM）まで設定可能です。
ガバナーメーカーのマニュアルに従い、適切な数値を「－RST＋」で入力します。こちらの数値は各種スイッチまたはフライトコンディションごとに切り替えることが可能です。

スイッチオプション
ガバナー設定に注意し、任意のポジションスイッチ割り当てとアジャストファンクションの調整が可能です。
詳しい説明はP76以降のスイッチ設定プロセスをご覧ください。

Switch type	Function	VR adjustmen
2・3ポジションスイッチ対応	各スイッチでの数値変更に対応	アジャストファンクション対応

.「Exit」でモデルメニューに戻り完了です。

Tip

・数値変更の際はモデルメニューの「Monitor」で信号の変化の様子が確認できます。
・フライトコンディションのs「セパレート」、c「コンビネーション」の設定が可能です。

AURORA 9X
9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM